

授 業 概 要

2021年度

令和3年度入学（27期生）



東京女子医科大学看護専門学校

目 次

教育理念・目的・目標	1
3つのポリシー	2
看護学教育の基本概念	3
教育課程	
1. 教育課程の考え方	4
2. 教育課程一覧	5～6
3. 進度予定表	7～8
4. 科目配点一覧	9～10
基礎分野	
基礎分野科目構成	11
論理的思考	12
統計学	13
情報科学概論	14
論文作成法	15
人間と生命	16
社会と家族	17
人間関係論 I II	18～19
教育学	20
人間と生活	21
英語 I II	22～23
保健体育	24
専門基礎分野	
専門基礎分野構成	25
解剖学 I II	26～27
生理学 I II	28～29
生化学	30
臨床栄養	31
臨床薬理	32
微生物学	33
病理学総論	34
病態治療論 I II III IV V VI VII	35～65
医療倫理	66
公衆衛生学	67
社会福祉	68
医療保障制度	69
関係法規	70

専門分野 I

基礎看護学

基礎看護学科目構成	71
看護学概論	72
基礎看護技術 I II III IV	73~80
臨床看護総論 I II	81
看護研究の基礎	82

専門分野 II

成人看護学

成人看護学科目構成	83
成人看護学概論 I II	84~85
成人看護学方法論 I II III IV	85~89

老年看護学

老年看護学科目構成	90
老年看護学概論 I II	91~92
老年看護学方法論 I II	93~94

小児看護学

小児看護学科目構成	95
小児看護学概論 I II	96~97
小児看護学方法論 I II	98~99

母性看護学

母性看護学科目構成	100
母性看護学概論 I II	101~102
母性看護学方法論 I II	103~104

精神看護学

精神看護学科目構成	105
精神看護学概論 I II	106~107
精神看護学方法論 I II	108~109

統合分野

在宅看護論科目構成	110
在宅看護論概論 I II	111~112
在宅看護論方法論 I II	113~114
看護の統合と実践科目構成	115
看護の統合と実践 I II III IV	116~119

教育理念・目的・目標

教育理念

本校は、創立者吉岡弥生の建学の精神である「至誠と愛」の精神に基づき、女性の自立と看護の専門性を追求することを通して主体性を啓発し、生涯に亘る自己教育能力を培い、社会に貢献し得る人材を育成することを理念としている。

教育目的

人間として、女性として豊かな感性を養い、人間尊重に基づき、多様化する医療ニーズに対応できる実践的基礎能力を持った看護師を育成することを目的とする。

教育目標

1. 看護を志す人として人間愛に基づいた温かで誠実な心を育む。
2. 生命の尊さを認識し、人間を統合的された存在として幅広く理解する基礎能力を養う。
3. 人々の健康のあらゆる状態に対し、科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎能力を養う。
4. 看護を発展させるための対人関係能力を養う。
5. 専門職業人としての倫理に基づいた看護が実践できるための基礎能力を養う。
6. 保健医療福祉における看護の役割を理解し、チームの中で協働して人々の健康支援ができるための基礎能力を養う。
7. 看護について継続して自ら学び、探求する姿勢を養う。

3つのポリシー

アドミッション・ポリシー（当校が求める入学者像）

本校では東京女子医科大学の教育理念「至誠と愛」に基づき、「女性の自立と看護の専門性を追求することを通して、主体性を啓発し、生涯にわたる自己教育能力を培い、社会に貢献し得る看護実践者を育成する」ために、次のような学生を求めています。

1. 誠実で思いやりのある人
2. 目的に向かって自ら学び、自分の考えを表現できる人
3. 他者の話をよく聴き、自分の役割を果たすことができる人
4. 周囲の人と協力し合い、自分の役割を果たすことができる人
5. 生活・健康の自己管理ができ、責任ある行動がとれる人

カリキュラム・ポリシー（教育の7柱）

卒業時に看護師としての必要な基礎知識、技能および態度を身につけ、建学の精神も沿って社会の中で看護の役割を認識し、社会に貢献できる看護実践者を育成するために7つの教育の柱を定めています。

1. 看護師を志す人として人間愛に基づいた温かで誠実な心を育む
2. 生命の尊さを認識し、人間を統合された存在として幅広く理解する基礎能力を養う
3. 人々の健康のあらゆる状態に対し、科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎能力を養う
4. 看護を発展させるための対人関係能力を養う
5. 専門職業人としての倫理に基づいた看護が実践できるための基礎能力を養う
6. 保健医療福祉における看護の役割を理解し、チームの中で協働して人々の健康支援ができるための基礎能力を養う
7. 看護について継続して自ら学び、探究する姿勢を養う

ディプロマ・ポリシー

看護実践に必要な基本技術を身につけ、所定の期間に卒業に必要な単位を修得するとともに、以下の能力を身につけた者に専門（職業実践専門課程 看護学科）の称号を与えます

1. 「至誠と愛」の実践能力
倫理をわきまえ誠意をもって、相手に対して心からの配慮ができる
2. 自己理解・自己管理能力
自分自身のあり方を謙虚に振りかえることができ、自立した社会人として自己の役割を自覚し、責任を主体的に果たし得る行動がとれる
3. 課題湧出対応能力
看護上の課題を抽出し、自ら対応実践できる
4. キャリアプランニング能力
生涯にわたり、自分自身に課題を持ちながら、自己成長のための学習の継続ができる

看護学教育の基本概念

教育理念 「至誠と愛」

「人間」

人間は複雑・多面的であり、統合的な存在である。

人間はただ1回きりの有限性のある人生を自己実現に向かって成長発達し、変化し続ける創造的な存在である。人間はただ唯一ひとりのかけがえのない存在として、人間愛に基づき尊重される権利をもつ。人間は個々、独自の欲求をもち、多様な生活様式、価値観をもつ。人間は自立・自律していく存在であり、それぞれ社会の中で発達段階に応じた役割を担っている。人間は個別のひとりの人格をもった存在であり、自らの責任において意思決定する。人間は社会システムの中で生活し、その影響を受け、様々な欲求を充足するために、あらゆる環境と相互に作用し、目標達成のため欲求を修正しながら行動している。

「環境」

環境には、自然環境・社会環境・内部環境があり人間の生活と相互に作用し合い、人間の健康に影響を与えている。社会は、個人・家族・集団・地域からなり、人間関係を基盤とし人間との相互作用の中で変化する。

「健康」

人間の健康は、環境と相互に作用しあう関係にある。

健康とは、心身ともに調和のとれた状態で、社会において自らの能力を最大限に発揮し、生き生きとその人らしく生活している動的状態をいう。健康とは固定された概念ではなく、個人特有なものでそれぞれの人が、自らの価値観の中で創造していくものである。健康はすべての人がよりよく生活していくための基本的な権利であり、社会システムの中で保証されなければならない。健康は様々な段階があり連続体であり、常に流動的である。人間にとって「病む」とは生命力が充実せず、その働きが十分に発揮されていない状態であり、心身全体としての調和に影響がある状態をいう。しかしどのような状態においても健康な側面を合わせ持っている。健康と病気は対極にあるものではなく、包含した概念であり、その状態には様々なレベルがあり、それぞれの人は連続体のどこかに位置し変化している。

「看護」

看護の対象となる人は、個人および家族・集団である。

看護はあらゆる健康段階、発達段階にある人が、主体的に自らの欲求充足に向けて健康的に生活していけるよう支援する。看護とは、その人らしさが尊重され、看護者との相互作用的な関係の中で共同して創造していくプロセスである。看護は科学的な思考と人間愛、専門職業人としての倫理観に基づいた判断のもとに行われる実践活動であり、看護技術を媒介として実現される。看護は保健・医療・福祉チームと協働しながら、チームの一員として独自の機能・役割を担うものである。看護は社会変動のニーズに対応するものである。

「学習」

すべての人間は学習者であり、自己実現に向かい生涯に亘り、主体的に学習する。

学習は人間として発達課題をもち生活することにつながり、学習者自身の真摯な努力なしには発展しない。学習者は自ら学習者としての立場を選択したことへの責任をもつ。学習は学習者と教師との相互作用の中で発展するものであり、同意の探求を目指し、共に学習し、成長し合う関係にある。学校・教師は学習者の主体的な学習活動を支援し、学習者が自己成長できるよう個人の潜在能力を最大限に引出し、学習環境を整え教育的な配慮をする。

教育課程の考え方

基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ、統合分野」に区分し、総単位時間数を98単位(3,105時間)とした。教育課程(教育課程一覧参照)

1. 基礎分野

「論理的思考」、「論文作成法」「人間と生命」「社会と家族」「人間関係論Ⅰ」「人間関係論Ⅱ」「人間と生活」を設定し、科学的思考力を強化する内容とした。また人間を社会・生活の視点で幅広く理解し、家族、人間関係、カウンセリング理論、生命・人権の尊重を含む内容とした。

2. 専門基礎分野

「臨床栄養」「臨床薬理」は臨床で活用できる内容を含むものとした。「病理学総論」は、疾病の成り立ちとその形態学変化を学ぶ内容とした。

「病態治療論Ⅰ～Ⅶ」では、人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するため、臨床検査やリハビリテーションも含む内容とした。

「医療倫理」は、医療における倫理を幅広く学ぶ内容とした。

3. 専門分野Ⅰ

各看護学及び在宅看護論の基礎となる基礎的理論や基礎的技術を学ぶ内容の科目とし、内容強化のため指定規則より1単位多く設定した。

「看護学概論」をはじめ基礎看護学において、看護師としての倫理的な判断をするための基礎的能力を養う内容を含む教育内容とした。

「基礎看護技術Ⅰ～Ⅳ」に設定しそれぞれ共通技術、日常生活援助技術、診療検査に伴う援助技術、看護過程・指導技術とし、演習、校内実習を強化した内容とした。またコミュニケーション、フィジカルアセスメントを強化する内容とした。

4. 専門分野Ⅱ

各看護学における看護の対象・目的の理解、予防、健康の回復、保持増進及び疾病・障害を有する人々に対する看護の方法を学ぶ科目とした。また臨床実践能力の向上を図るため、演習も含めた内容とした。

5. 統合分野

「在宅看護論」では、地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し在宅での看護の基礎を学ぶ内容とした。また在宅で提供する看護を理解し、基礎的な技術を学び、他職種と協働する中での看護の役割を理解する内容とした。

「看護の統合と実践Ⅰ～Ⅳ」では、基礎分野、専門基礎分野、専門分野ⅠⅡで学習したことを臨床実践に近い形で学び、知識・技術を統合できるように学ぶ。ここでは、医療安全、看護とマネジメント、災害看護、看護と国際協力、総合的な看護技術力の強化、看護研究の実際等を学ぶ内容とした。

6. 行事・教科外活動の考え方(学生便覧参照)

様々な行事・教科外活動(特別教育活動・学生支援活動)を通して豊かな人間性、社会性を培い、看護学生としての認識を高め、心身ともに調和のとれた健康的な人間育成の機会とする。規程教科履修および行事・教科外活動も合わせて、本校がめざす卒業生育成に必要な課程と位置づける。

教育課程一覽

No. 1

科目区分		単位数 (時間数)	科目	単位数	時間数	1年	2年	3年
基礎分野	科学的思考 の基盤	3 [60]	論理的思考	1	30	30		
			統計学	1	15	15		
			情報科学概論	1	15		15	
	人間の生活、 社会の理解	10 [270]	論文作成法	1	30	30		
			人間と生命	1	30	30		
			社会と家族	1	30	30		
			人間関係論Ⅱ	1	15	15		
			人間関係論Ⅰ	1	30	30		
			教育学	1	30	30		
			人間と生活	1	30	30		
			英語Ⅰ	1	15	15		
			英語Ⅱ	1	30	15		
	保健体育	1	30	30				
小計	13 [330]		13	[330]	12 [315]	1 [15]		
専門基礎科目	人体の構造 と機能	5 [150]	解剖学 (解剖学Ⅰ・解剖学Ⅱ)	2	60	60		
			生理学 (生理学Ⅰ・生理学Ⅱ)	2	60	60		
			生化学	1	30	30		
	疾病の 成り立ち と回復の促進	11 [315]	臨床栄養	1	30	30		
			臨床薬理	1	30	30		
			微生物学	1	30	30		
			病理学総論	1	15	15		
			病態治療論Ⅰ (呼吸器・循環器)	1	30	30		
			病態治療論Ⅱ (消化器・腎泌尿器・乳腺)	1	30	30		
			病態治療論Ⅲ (血液・代謝・アレルギー・膠原病・感染症)	1	30		30	
			病態治療論Ⅳ (脳神経・運動器・女性生殖器)	1	30		30	
			病態治療論Ⅴ (感覚器・麻酔)	1	30		30	
	病態治療論Ⅵ (精神・母性・新生児・小児)	1	30		30			
	病態治療論Ⅶ (リハビリ・救急・検査・放射線・ME)	1	30		30			
	健康支援と 社会保障制度	5 [120]	医療倫理	1	15		15	
			公衆衛生学	1	30	30		
			社会福祉	1	30		30	
			医療保障制度	1	15		15	
			関係法規	1	30		30	
	小計	21 [585]		21	[585]	12 [345]	9 [240]	
	専門分野Ⅰ	基礎看護学	11 [375]	基礎看護学概論	2	45	45	
基礎看護技術Ⅰ-1 (共通基礎技術)						45		
基礎看護技術Ⅰ-2 (共通基礎技術)				2	75	30		
基礎看護技術Ⅱ-1 (日常生活援助)						45		
基礎看護技術Ⅱ-2 (日常生活援助)				2	90	45		
基礎看護技術Ⅲ (診療検査に伴う援助技術)				1	45	45		
基礎看護技術Ⅳ (看護過程展開技術)				1	30	30		
臨床看護総論Ⅰ						30		
臨床看護総論Ⅱ				2	60	30		
看護研究の基礎				30		30		
(臨地実習)		3 [135]	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	45		
			基礎看護学実習Ⅱ	2	90		90	
小計		14 [510]		14	[510]	11 [390]	3 [120]	

教育課程一覽

No. 2

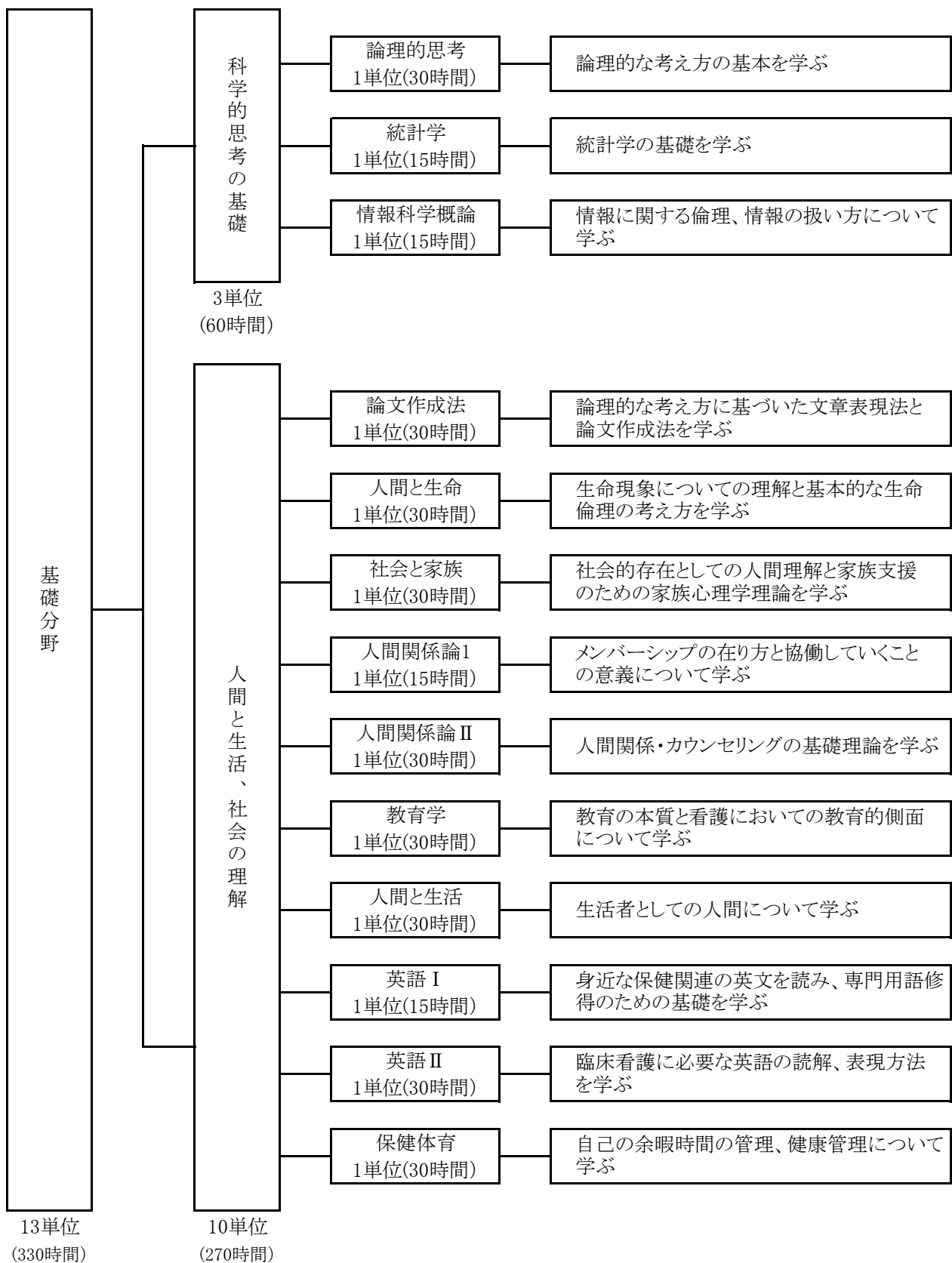
科目区分	単位数 (時間数)	科目	単位数	時間数	1年	2年	3年	
専門分野Ⅱ	成人看護学 6 [165]	成人看護学概論Ⅰ	1	30	30			
		成人看護学概論Ⅱ (看護過程)	1	15		15		
		成人看護学方法論Ⅰ (急激な健康破綻をきたした対象の看護)	1	30		30		
		成人看護学方法論Ⅱ (疾病・外傷の回復過程にある対象の看護)	1	30		30		
		成人看護学方法論Ⅲ (慢性的な経過をたどる健康障害をもつ対象の看護)	1	30		30		
		成人看護学方法論Ⅳ (がんと共に生きていく対象の看護・終末期にある対象の看護)	1	30		30		
	(臨地実習)	6 [270]	成人看護学実習Ⅰ (健康の急激な破綻状態にある対象の看護)	2	90			90
			成人看護学実習Ⅱ (疾病・外傷の回復過程にある対象の看護)	2	90			90
			成人看護学実習Ⅲ (慢性疾患を持つ対象の看護)	2	90			90
	老年看護学 4 [105]	[105]	老年看護学概論Ⅰ	1	30	30		
			老年看護学概論Ⅱ (看護過程)	1	15		15	
			老年看護学方法論Ⅰ (高齢者の健康を支える看護)	1	30		30	
			老年看護学方法論Ⅱ (高齢で健康障害を持つ人の看護)	1	30		30	
	(臨地実習)	4 [180]	老年看護学実習Ⅰ (入院を必要とする高齢者の看護)	2	90			90
			老年看護学実習Ⅱ (保健医療福祉施設及び地域で生活する高齢者の支援)	1	45			45
			老年看護学実習Ⅲ (保健医療福祉施設及び地域で生活する高齢者の支援)	1	45			45
	小児看護学 4 [105]	[105]	小児看護学概論Ⅰ	1	30		30	
			小児看護学概論Ⅱ (看護過程)	1	15		15	
			小児看護学方法論Ⅰ (健康な生活のための援助・小児看護技術)	1	30		30	
			小児看護学方法論Ⅱ (健康障害を持つ小児の看護)	1	30		30	
	(臨地実習)	2 [90]	小児看護学実習	2	90			90
	母性看護学 4 [105]	[105]	母性看護学概論Ⅰ	1	30		30	
			母性看護学概論Ⅱ (看護過程)	1	15		15	
			母性看護学方法論Ⅰ (妊婦・産婦の看護)	1	30		30	
			母性看護学方法論Ⅱ (褥婦・新生児の看護)	1	30		30	
	(臨地実習)	2 [90]	母性看護学実習	2	90			90
	精神看護学 4 [90]	[90]	精神看護学概論Ⅰ	1	15	15		
			精神看護学概論Ⅱ (看護過程)	1	15		15	
精神看護学方法論Ⅰ (精神保健と看護)			1	30		30		
精神看護学方法論Ⅱ (精神障害を持つ人の看護)			1	30		30		
(臨地実習)	2 [90]	精神看護学実習	2	90			90	
小計	38 [1290]		38	[1290]	3 [75]	21 [585]	14 [630]	
統合分野	在宅看護論 4 [90]	在宅看護概論Ⅰ	1	30		30		
		在宅看護概論Ⅱ (看護過程)	1	15		15		
		在宅看護方法論Ⅰ (在宅療養者と看護)	1	15		15		
		在宅看護方法論Ⅱ (在宅看護における看護技術)	1	30		30		
	(臨地実習)	2 [90]	在宅看護実習	2	90			90
	在宅看護論 4 [105]	[105]	看護の統合と実践Ⅰ (看護技術総合①)	1	30	30		
			看護の統合と実践Ⅱ (災害看護・看護と国際協力)	1	30			30
			看護の統合と実践Ⅲ (医療安全・看護技術総合②)	1	30			30
			看護の統合と実践Ⅳ (看護とマネジメント・看護研究の実際)	1	30			30
	(臨地実習)	2 [90]	統合実習	2	90			90
小計	120 [1290]		12	[390]	1 [30]	4 [90]	7 [270]	
総計	98 [3105]	講義 (演習含) 75 (2070)	98	[3105]	38 [1110]	34 [870]	3 [90]	
		臨地実習 23 (1035)			1 [45]	4 [180]	18 [810]	

2022年度 科目・担当配点・評価方法 一覧

No. 1

分野	科目(単元・領域)	学年	時期	単位数	時間数	担当	担当時間	担当回数	総合点	配点内訳	試験時間	評価方法	備考
基礎分野	論理的思考 統計学	1	前	1	30	古田 知章	30	15	100	50分	筆記・練習問題		
		1	後	1	15	東垣内徹生	15	8	100	50分	筆記		
	情報科学概論	2	前	1	15	山岸 なおみ	4	2	100	30	講義内	レポート	佐藤講師の筆記試験(70点)は講義5回目に科目の「中間試験」として行う
						後藤 恵子	2	1	100	30	講義内	レポート	
	論文作成法	1	後	1	30	宮田 英明	2	1	100	50分	論文課題	論文課題あり	
						古田 知章	30	15	100	50分	筆記		
	人間と生命	1	前	1	30	佐々木 元子	24	12	100	80	50分	筆記	
						山本 佳世乃	6	3	20	20	50分	筆記	
	社会と家族	1	前	1	30	宝月 理恵	30	15	100	100	50分	筆記	
						諏訪 茂樹	15	8	100	50分	レポート		
	人間関係論Ⅰ	1	前	1	30	渋谷 寛子	30	8	100	50分	筆記		
						阪本 陽子	30	15	100	50分	レポート		
	人間関係論Ⅱ	1	前	1	30	三代 かおる	30	15	100	100	50分	筆記	
						押田 昊子	15	8	100	50分	筆記		
	人間と生活	1	前	1	15	林 愛	30	15	100	100	50分	課題・プレゼンテーション	
						上野 幸	30	15	100	50分	筆記		
	保健体育	1	前	1	30	高本 美樹	8	5	25	25	50分	筆記	
						齋藤 文典	10	4	100	30	50分	筆記	
	解剖学	解剖学Ⅰ	1	前	2	芝田 高志	4	2	15	15	50分	筆記	
						早川 亨	4	2	30	30	50分	筆記	
解剖学	解剖学Ⅱ	1	前	60	蔦池 かおり	8	4	50	50	50分	筆記		
					菊田 幸子	14	7	100	30	50分	筆記		
生理学	生理学Ⅰ・Ⅱ	2	前	2	堀 沙耶香	12	6	100 × 2	20	各授業時間内	筆記	各授業後適宜アスタートをを行う、詳細の説明あり	
					樋口 清香	2	1	25	25	50分	筆記		
生理学	生理学Ⅰ・Ⅱ	2	前	60	三谷 昌平	2	1	25	25	50分	筆記		
					伊豆原 郁月	4	2	100	25	50分	筆記		
生理学	生理学Ⅰ・Ⅱ	2	前	60	中山 寿子	4	2	25	25	50分	筆記		
					植田 楨史	4	2	100	25	50分	筆記		
生理学	生理学Ⅰ・Ⅱ	2	前	60	浦瀬 香子	2	1	25	25	50分	筆記		
					中村 裕子	6	3	100	25	50分	筆記		
生理学	生理学Ⅰ・Ⅱ	2	前	60	桂 秀樹	4	2	25	25	50分	筆記		
					風間 啓至	4	2	100	25	50分	筆記		
生理学	生理学Ⅰ・Ⅱ	2	前	60	佐川 まさの	6	3	25	25	50分	筆記		
					降矢 芳子	4	2	100	25	50分	筆記		
生理学	生理学Ⅰ・Ⅱ	2	前	60	柴田 興一	6	3	25	25	50分	筆記		
					佐藤 梓	16	8	100	25	50分	筆記		
生化学	生化学	1	前	1	中村 裕子	14	7	50	50	50分	筆記		
					佐川 まさの	30	15	100	50	50分	筆記		
臨床栄養	臨床栄養	1	後	1	伊東 俊雅	30	15	100	100	50分	筆記		
					加藤 秀人	30	15	100	50分	筆記			
臨床薬理	臨床薬理	1	後	1	増井 憲太	5	10	60	60	50分	筆記		
					加藤 陽一郎	3	6	100	40	50分	筆記		
微生物学	微生物学	1	後	1	桂 秀樹	8	4	25	25	50分	筆記		
					前 昌宏	6	3	100	25	50分	筆記		
病理学総論	病理学総論	1	後	1	久保 豊	4	2	100	25	50分	筆記		
					大森 久子	4	2	25	25	50分	筆記		
病態治療Ⅰ	病態治療Ⅰ	1	後	1	上部 一彦	8	4	25	25	50分	筆記		
					大野 秀樹	8	4	100	20	50分	筆記		
病態治療Ⅱ	病態治療Ⅱ	1	後	1	島川 武	6	3	20	20	50分	筆記		
					塩澤 俊一	2	1	100	20	50分	筆記		
病態治療Ⅲ	病態治療Ⅲ	2	前	1	平野 明	2	1	20	20	50分	筆記		
					小川 哲也	6	3	20	20	50分	筆記		
病態治療Ⅳ	病態治療Ⅳ	2	前	1	近藤 恒徳	6	3	20	20	50分	筆記		
					小笠原 壽恵	8	4	25	25	50分	筆記		
病態治療Ⅴ	病態治療Ⅴ	2	前	1	佐倉 宏	8	4	100	25	50分	筆記		
					高木 香恵	6	3	25	25	50分	筆記		
病態治療Ⅵ	病態治療Ⅵ	2	前	1	菊池 賢	8	4	25	25	50分	筆記		
					西村 芳子	4	2	25	25	50分	筆記		
病態治療Ⅶ	病態治療Ⅶ	2	前	1	柴田 興一	4	2	25	25	50分	筆記		
					糟谷 英俊	6	3	100	25	50分	筆記		
病態治療Ⅷ	病態治療Ⅷ	2	前	1	千葉 純司	2	1	25	25	50分	筆記		
					田口 将史	2	1	100	25	50分	筆記		
病態治療Ⅸ	病態治療Ⅸ	2	前	1	山本 直也	2	1	25	25	50分	筆記		
					矢吹 明子	2	1	25	25	50分	筆記		
病態治療Ⅹ	病態治療Ⅹ	2	前	1	長野 浩明	2	1	25	25	50分	筆記		
					折戸 征也	2	1	25	25	50分	筆記		
病態治療Ⅺ	病態治療Ⅺ	2	前	1	赤澤 宗俊	2	1	25	25	50分	筆記		
					一戸 晶元	2	1	25	25	50分	筆記		
病態治療Ⅻ	病態治療Ⅻ	2	前	1	土至田 宏	6	3	20	20	50分	筆記		
					石崎 純子	2	1	20	20	50分	筆記		
病態治療Ⅼ	病態治療Ⅼ	2	前	1	梅垣 知子	2	1	20	20	50分	筆記		
					田中 勝	2	1	100	20	50分	筆記		
病態治療Ⅽ	病態治療Ⅽ	2	前	1	余田 敬子	6	3	20	20	50分	筆記		
					小野沢 基太郎	6	3	20	20	50分	筆記		
病態治療Ⅾ	病態治療Ⅾ	2	前	1	市川 順子	2	1	20	20	50分	筆記		
					安藤 一義	2	1	20	20	50分	筆記		
病態治療Ⅿ	病態治療Ⅿ	2	前	1	岡村 圭子	2	1	20	20	50分	筆記		
					川道 弥生	2	1	25	25	50分	筆記		
病態治療ⅰ	病態治療ⅰ	2	前	1	立花 康成	2	1	25	25	50分	筆記		
					森田 吉洋	2	1	25	25	50分	筆記		
病態治療ⅱ	病態治療ⅱ	2	前	1	上野 麻理子	2	1	25	25	50分	筆記		
					山田 洋輔	2	1	100	25	50分	筆記		
病態治療ⅲ	病態治療ⅲ	2	前	1	灘上 雅恵	2	1	25	25	50分	筆記		
					鈴木 恵子	2	1	25	25	50分	筆記		
病態治療ⅴ	病態治療ⅴ	2	前	1	安田 祐希	2	1	25	25	50分	筆記		
					萩原 幸世	2	1	25	25	50分	筆記		
病態治療ⅵ	病態治療ⅵ	2	前	1	大谷 智子	2	1	25	25	50分	筆記		
					鈴木 悠	2	1	25	25	50分	筆記		
病態治療ⅶ	病態治療ⅶ	2	前	1	大坪 天平	8	4	25	25	50分	筆記		
					降矢 芳子	2	1	20	20	50分	筆記		
病態治療ⅷ	病態治療ⅷ	2	前	1	倉田 典和	2	1	20	20	50分	筆記		
					川瀬 義隆	2	1	100	20	50分	筆記		
病態治療ⅸ	病態治療ⅸ	2	前	1	庄古 知久	6	3	20	20	50分	筆記		
					加藤 博之	6	3	20	20	50分	筆記		
病態治療ⅹ	病態治療ⅹ	2	前	1	川名 由浩	6	3	20	20	50分	筆記		
					川名 由浩	6	3	20	20	50分	筆記		

基礎科目 科目構造



授業科目	論理的思考	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	古田 知章
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	論理学を、言葉に対しての意識を高めるという観点から学ぶ。このなかでは、人間の生きることと論理との関係、言語や記号による表現とその意味の成立、主張の整合性などの論理についての基礎的知識を学び、日常的な思考やコミュニケーションといった実際の場面での論理のあり方を検討する						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言葉を使うことが人間として生きることの本質にかかわることを実感する。 2. 言葉の意味がどのように成立するのかを知る。 3. 言葉や主張の意味が、その場の状況や対話相手との関係性によって変化することを学ぶ 4. 正しい形式で言葉をつなぎ、状況に応じた言葉の選択や主張の形成ができるようになる。 5. 他者の主張の内容を把握し、その正しさの判断ができるようになる。 						
回数	内容						授業形態
1	イントロダクション 人間の生きることと論理						講義・演習
2	論理的発想 出来事に対しての論理の立場						講義・演習
3	論理の基本原理 矛盾律と排中律						講義・演習
4	意味の成立と言葉の連関						講義・演習
5	意味の成立と状況との関係 文化・システムを巡る問題						講義・演習
6	主張の基本的形式とその内容						講義・演習
7	命題の図式化 オイラーの図とヴェン図						講義・演習
8	様々な主張の仕方 様相命題と条件命題						講義・演習
9	条件命題の形式と真偽関係						講義・演習
10	主張の真偽判断とその根拠 ヴェン図を用いた判断の仕方						講義・演習
11	推論の基本形と真偽判断						講義・演習
12	推論の応用(1) 命題を基本単位とした推論						講義・演習
13	推論の応用(2) 対偶の問題						講義・演習
14	日常的な推論						講義・演習
15	まとめの練習問題						講義・演習
使用テキスト	特に教科書は用いないが、参考書として、以下の著作を紹介します 『論理学入門』 近藤洋逸、好並英司 著岩波書店						
評価	筆記試験によって評価する						
学習上の留意点	日常の研究や生活においての論理的な考え方や言葉の使い方を意識しながら受講・学習していきましょう						

授業科目	統計学	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	東垣内 徹生
		開講時期	前期	時間数	15時間		
科目目標	統計学の基礎を理解し、統計的な視点の考え方を学び、統計処理能力を養う						
学習目標	統計学の基礎を学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	統計学の基礎 度数分布表、ヒストグラム						講義
2	統計学の基礎 代数值						講義
3	統計学の基礎 散布度						講義
4	統計学の基礎 正規分布						講義
5	統計学の基礎 母集団と標本、推測統計						講義
6	統計学の基礎 2変数の共変関係の記述						講義
7	統計学の基礎 検定						講義
8	終講時試験						講義
使用テキスト	資料配布						
評価	授業への参加度、終講時試験等で総合的に評価する						
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・電卓を使用する(スマホ・携帯は終講時試験で使用できないので不可) ・「ルート($\sqrt{\quad}$)機能」は必須です。 安価な電卓で構いませんが、この機能がないものは避けてください						

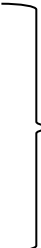
授業科目	情報科学概論	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	佐藤 恭子 山岸 なおみ 後藤 恵子 宮田 英明
		開講時期	前期	時間数	15時間		
科目目標	人と情報社会の関係を理解する。また、医療と情報の関係、情報に関する倫理について学ぶ。また情報の取り扱いについて学ぶ						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人と情報社会の関係について理解する 2. 医療と情報の関係について理解する 3. 情報に関する倫理について考える 4. 分権の種類、文献検索について理解し活用できるようにする 5. 情報の管理について理解する 						
回数	内容						授業形態
1	<p>情報とは</p> <p>情報理論の基礎</p> <p>コンピューターの仕組み</p> <p>情報通信のしくみ</p>						講義
2	<p>情報通信におけるセキュリティ</p> <p>セキュリティ、ウイルス対策</p>						講義
3	<p>情報倫理 I</p> <p>看護における情報学</p> <p>看護研究と情報</p>						講義
4	<p>情報倫理 II</p> <p>医療コンピューター</p>						講義
5	中間試験筆記/解説まとめ						
6	文献について (担当:山岸・後藤)						講義
7	文献検索 (担当:山岸・後藤)						演習
8	医療情報システム (担当:宮田) 電子カルテ						講義
使用テキスト	指定なし 適宜資料配布						
評価	中間試験・演習等で総合的に評価する (中間試験70%、演習30%)						
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・実習や看護研究につながる重要な科目である ・情報の意味や情報の取り扱いと責任の重さを認識し学んでほしい 						

授業科目	論文作成法	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	古田 知章
		開講時期	後期	時間数	30時間		
科目目標	文章・論文を作成する際の前提的知識を学び、実際の論文作成への活用の仕方を習得する						
学習目標	1. 読み手に自分の主張が伝わる文章を書けるようにする 2. その都度のテーマに適合した全体の構成ができるようになる 3. 文章や論文の作成に必要な基本的な事項を学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	イントロダクション:文章から論文へ						講義・演習
2	文章作成の基本 語用論と意味論						講義・演習
3	テーマの読み取りの練習(1) 文章の内容の読み取りと要約						講義・演習
4	テーマの読み取りの練習(2) 論点の明確化						講義・演習
5	資料・関連項目の探し方						講義・演習
6	表現の整理と確認						講義・演習
7	前半部の課題作成						講義・演習
8	前半部の課題原稿の提出						講義・演習
9	パラグラフライティングの説明						講義・演習
10	論文作成についての注意事項の確認						講義・演習
11	課題論文の作成(1) テーマの確定						講義・演習
12	課題論文の作成(2) 全体の構成						講義・演習
13	課題論文の作成(3) 必要な情報の収集						講義・演習
14	課題論文の作成(4) 各パラグラフの内容の整理						講義・演習
15	課題論文の作成(5) 提出用論文の完成						
使用テキスト	特に教科書は用いないが、各回の内容に関してのプリントを配布します						
評価	各課題への取り組みと、最終課題の内容によって評価します						
学習上の留意点	自分の主張を伝えるために必要なこと学び、それを意識して、毎回のテーマに沿った課題にしっかりと取り組みましょう						

授業科目	人間と生命	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	佐々木 元子 山本 佳代乃
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	生物の形態・機能・環境との相互作用を学ぶことを通して、生命現象について理解する 人の生老病死に寄り添う医療者として、基本的な生命倫理の考え方を学ぶ						
学習目標	1. 「ヒト」が有している、生き物としての普遍性・特殊性を理解することにより、医療者として備えるべき 生命感の醸成を目指す 2. 現代の医学・生命科学に起因する倫理的諸問題を理解し、その社会的意思決定について学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	生命とは① 人間と名声を学ぶにあたって (担当:佐々木)						講義
2	生命とは② 生命の誕生、生命のたどってきた歴史 (担当:佐々木)						講義
3	生命の単位① 細胞小器官とその機能 (担当:佐々木)						講義
4	生命の単位② 細胞の増殖と周期 (担当:佐々木)						講義
5	生命の設計図① ゲノム、遺伝子、染色体、DNA (担当:佐々木)						講義
6	生命の設計図 ② 遺伝情報の伝達、発現 (担当:佐々木)						講義
7	生命の操作① 医療や生殖補助医療への応用と影響 (担当:山本)						講義
8	生命の維持① エネルギーの産生機構 (担当:佐々木)						講義
9	生命の維持② 酵素と化学反応 (担当:佐々木)						講義
10	環境と生命① 地球環境の変化と生物への影響 (担当:佐々木)						講義
11	環境と生命② 環境改善への取り組み、人の社会が目指すもの (担当:佐々木)						講義
12	生命と倫理① 終末期医療、生命倫理の四原則、脳死と臓器移植など (担当:山本)						講義
13	生命と倫理② SOL、QOL、生命の尊厳、ゲノム科学の進展と生命倫理 (担当:山本)						講義
14	生命の操作③ バイオテクノロジー (担当:後藤)						講義
15	終講時試験						
使用テキスト	指定なし 適宜資料配布						
評価	授業への参加度、終講時試験等を総合的に評価する						
学習上の留意点	人間の誕生、人体、環境、いのち など 看護の基本となる知識を学びます						

授業科目	社会と家族	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	宝月 理恵
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	1. 社会的存在としての人間を理解する 2. 家族の構造や現代家族をめぐる諸問題を、家族社会学の観点から学ぶとともに、家族支援の考え方を理解する						
学習目標	1. 社会や家族をめぐる基本的な考え方や専門用語を理解する 2. 社会と家族についての具体的な問題を、自ら考察できるようになる						
回数	内容						授業形態
1	人間と社会① 社会的存在としての人間						講義
2	人間と社会② 医療と社会の密接な関係						講義
3	人間と社会③ ジェンダーと社会						講義
4	家族と社会① 近代家族とは何か						講義
5	家族と社会② 結婚の現代的意味						講義
6	家族と社会③ 少子化						講義
7	家族と社会④ 就業と家族						講義
8	家族と社会⑤ ワーク・ライフ・バランス						講義
9	家族と社会⑥ 子どもの貧困						講義
10	家族と社会⑦ 福祉と家族						講義
11	家族と社会⑧ ファミリー・バイオレンス						講義
12	家族と社会⑨ 障害と家族						講義
13	家族と社会⑩ 高齢者と家族						講義
14	家族と社会⑪ 家族を支援する						講義
15	終講時試験						講義
使用テキスト	指定なし 適宜資料配布						
評価	平常点と終講時試験による総合評価						
学習上の留意点	この科目では、単に学習したことを覚えるだけではなく、毎日のテーマを様々な問題と結びつけて自ら考えるという過程を重視します。日頃より新聞に目を通すなど、社会で何が問題となっているのかについて常に興味を持っておいて下さい						

授業科目	人間関係論 I	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	諏訪 茂樹
		開講時期	前期	時間数	15時間		
科目目標	看護の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、患者やスタッフとの関係を築くことができる。						
学習目標	1. 対人感情と対人認知を理解し、統制された情緒的関与による感情労働ができる。 2. 患者とのコミュニケーションの基本姿勢を身につけ、テクニックをスキルとして使いこなせる。 3. 医療安全を実現する真の意味でのチーム医療を理解し、チームワークが実践できる。						
回数	内容						授業形態
1	対人感情 好き嫌いの人間関係、好き嫌いの条件						講義及び演習
2	対人認知 自分から見た他者、自分から見た自分、他者から見た自分、						講義及び演習
3	コミュニケーションの基礎能力 メッセージの共有、メッセージの影響、言語・準言語・非言語						講義及び演習
4	コミュニケーションの基本姿勢 利用者・患者中心、受容、統制された情緒的関与						講義及び演習
5	コミュニケーションテクニック うなづきと相づち、要約、共感						講義及び演習
6	コミュニケーションスキル 聞くと聴く、対決と受容、励ましと共感、ティーチングとコーチング						講義及び演習
7	チームワーク メディカルーパラメディカル、コラボレーティブワーク(協働)						講義及び演習
8	人間関係 会議時の関係、危機対処時の関係、通常時の関係						講義及び演習
使用テキスト		諏訪茂樹『看護のためのコミュニケーションと人間関係』中法規出版,2019					
評価		授業への参加度とレポートとで総合的に評価する。					
学習上の留意点		教科書は演習の際のワークブックとして使うため、筆記用具とともに必ず持参。					

授業科目	人間関係論Ⅱ	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	渋谷 寛子
		開講時期	後期	時間数	30時間		
科目目標	人間関係の基礎理論とカウンセリングの基礎理論について学ぶ						
学習目標	1. 人間関係を様々な角度から学び、自己理解、他者理解を深め、人間関係形成の仕方について理解する 2. 援助的関係について学び、看護場面で必要とされる人間関係について理解する						
回数	内容						授業形態
1	ガイダンス・人間関係の捉え方の次元・人間存在と人間関係						講義
2	人間関係の発達・自己認知						講義
3	対人認知						講義
4	社会的役割① 視聴覚資料を用いて考える						講義
5	社会的役割②						講義
6	コミュニケーション 視聴覚資料を用いて考える						講義
7	集団と個人 保健医療チームの人間関係 ①						講義
8	保健医療チームの人間関係 ② 地域をつくる人間関係						講義
9	カウンセリング① 精神分析、行動療法 など						講義
10	カウンセリング② 認知行動療法、クライエント中心療法 など						講義
11	カウンセリング③ 看護ケア、福祉ケアへの応用、援助的人間関係						講義
12	 人間関係論総括 看護場面における人間関係						演習
13							
14							
15	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 人間関係論 医学書院、適宜資料配布						
評価	授業への参加度、リアクション・ペーパー、課題、試験等を総合的に評価する						
学習上の留意点	講義形式の時にも、適宜、演習を取り入れます。演習を通した体験による気づきも大切に、理解を深めるようにしましょう						

授業科目	教育学	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	阪本 陽子
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	教育の本質を学び、人間形成における教育の機能を理解し、また、看護における教育的側面について学ぶ						
学習目標	1. 教育や学習について幅広い視野を持つとともに、人間の成長・発達における教育の意義を捉えなおす 2. 対象者に対する教育的役割を果たすために、教育活動の基礎となる知識・技術を養うとともに、専門職として生涯にわたって継続学習する意欲や能力の基礎を養う						
回数	内容						授業形態
1	授業ガイダンス 1)オリエンテーション 2)教育学を学ぶ意義						講義
2	人間の成長と教育 1)ヒトから人になる過程とは 人間の成長と環境						講義 映像視聴
3	人間の成長と環境 1)野生児の事例から考える						講義
4	家庭における人間教育 1)人間の成長と家庭の役割 2)誕生からの心の育ち方						講義
5	成人教育の理論と方法 1)子どもの学習と大人の学習						講義
6	学習方法のいろいろ 1)コミュニケーションで学ぶ						講義
7	学習方法のいろいろ 1)話し合い学習の手法						講義
8	生活課題と教育 1)教育による健康への影響						講義
9	生涯学習の基礎 1)参加型学習の手法						講義
10	生涯学習の基礎 2)参加型学習の手法						講義
11	学習の支援と指導 1)実習生の指導事例から学ぶ						講義
12	障害と教育 1)心身障害者の教育 2)病気療養児の教育						講義
13	事例研究 1)病気療養児の指導事例から学ぶ						グループ学習
14	事例研究 2)病気療養児の指導事例から学ぶ						グループ学習
15	看護と教育 まとめ						講義
使用テキスト	指定なし 適宜資料配布						
評価	授業への参加度、リアクション・ペーパーレポート等で総合的に評価する						
	レポートは終講後2週間以内に提出すること						
学習上の留意点	グループ演習への積極的に参加すること 事前配布資料は熟読してから授業に臨むこと						

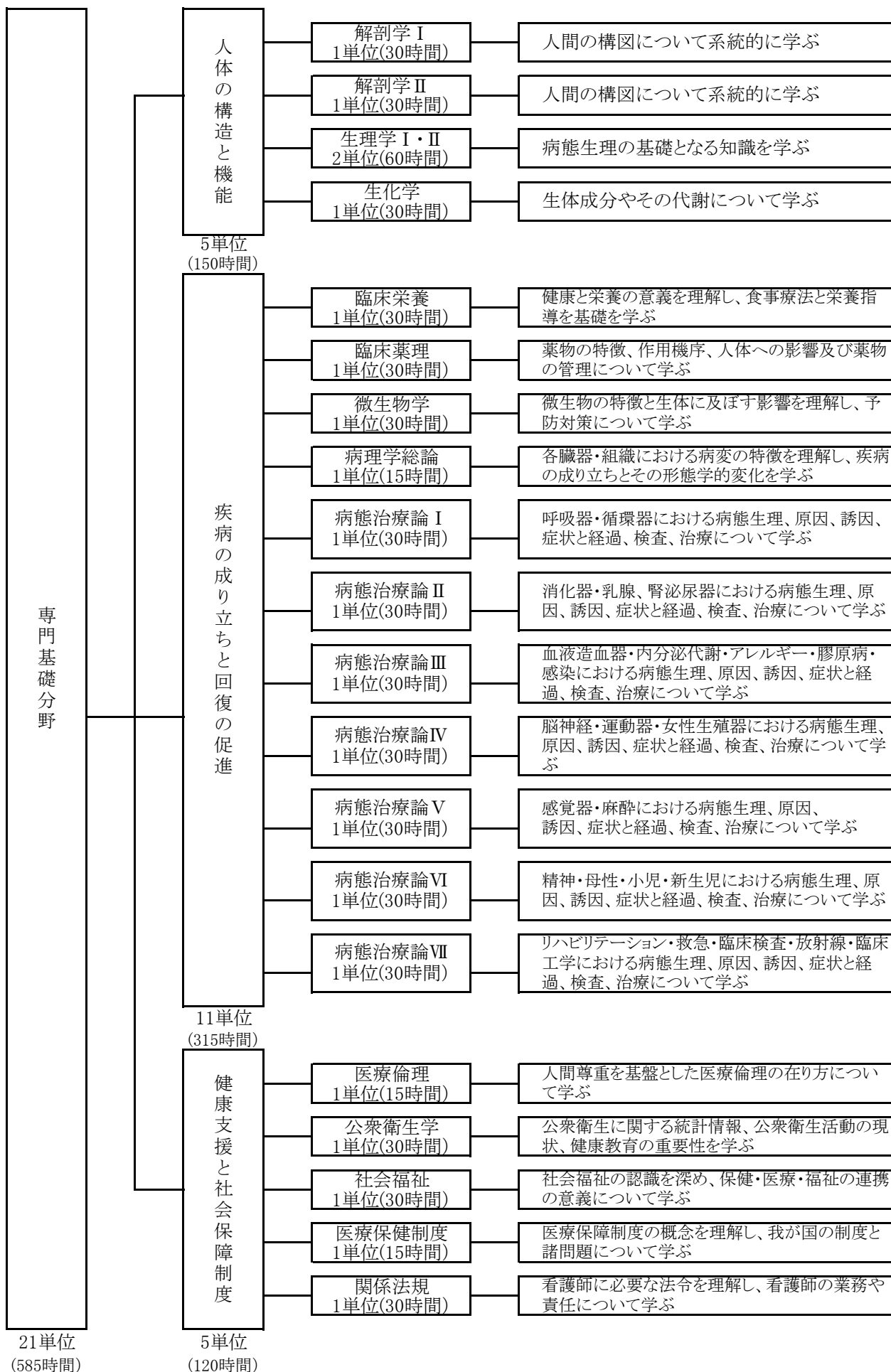
授業科目	人間と生活	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	三代 かおる
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	生活者としての人間を理解することにより、より良い看護を目指す						
学習目標	1. 毎日の生活の構造と機能、健康との関わりを学ぶことにより、まず自分の生活をみつめ直す 2. 人間の生活は、生命体としての自然科学的環境と、個々の生活スタイルから作られた社会文化的環境の中で、複雑に統合されたものとして捉えることができる。自身の生活に向き合い確立していくことで、相手を尊重したより良い看護に繋がるようにする						
回数	内容						授業形態
1	授業ガイダンス 人間と生活について 自己の生活について振り返りながら看護の役割を自覚する						講義
2	食生活と健康 現在の食生活の問題点と健康寿命との関わり						講義
3	栄養素の働き 五大栄養素について理解する						講義
4	食事のバランス 食品の成分を知り、毎日の食事のバランスについて考える						講義
5	栄養素の消化吸収 各栄養素の消化吸収を理解する						講義
6	食品の安全性 食品の加工、保存と食品添加物を知る						講義
7	人間と被服 被服の役割と自己の内面の表現をする意義を認識する						講義
8	被服の機能 保健衛生的機能と皮膚を清潔に保つ重要性						講義
9	被服材料 身につけている被服の繊維の性質を理解する						講義
10	織物と組織と新素材 新素材についての改良方法と目的を知る						講義
11	被服管理 日常の洗濯を科学的視点で見直す						講義
12	界面活性剤の作用 洗濯における重要な働きを実験により確認する						実験
13	住環境と生活行動 色彩の心理的効果と生活との関わり						講義
14	生活環境と健康 心の身体の健康のため、生活の重要性を理解し尊重する看護を目指す						講義
15	終講時試験						
使用テキスト	指定なし 適宜資料配布、参考図書適宜紹介、食品成分表:実教出版						
評価	授業への参加度、授業内課題、終講時試験等で総合的に評価する						
学習上の留意点	毎日の生活を見直し、その重要性を認識することが、相手の生活を理解していく気持ちに繋がっていく。心と身体の健康を築くための生活の基本を自覚し、日々の生活で実践してほしい						

授業科目	英語 I	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	押田 昊子
		開講時期	前期	時間数	15時間		
科目目標	身近な英文から英語に親しむことを通じ、読解力を構築し、看護に関わる英語を修得するための基礎を養う						
学習目標	1. リーディングに必要なスキルを学ぶ 2. 文法確認と英文読解を学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	イントロダクション 品詞・文型とは						講義
2	文法確認と練習問題 文型(つづき) + 英文読解						講義
3	文法確認と練習問題 現在形、過去形 + 会話問題						講義
4	文法確認と練習問題 接続詞、前置詞 + 英文読解						講義
5	文法確認と練習問題 助動詞 + 会話問題						講義
6	文法確認と英文読解 助動詞(つづき) + 英文読解						講義
7	文法確認と英文読解 総復習						講義
8	終講時試験						
使用テキスト	適宜資料を配布します						
評価	授業への参加度、終講時試験等で総合的に評価する						
学習上の留意点	基礎英文法の中でも最も基本となる要素をしっかり復習することを念頭に、授業を進めます 読解力や会話会演習の中で積極的な姿勢を評価します						

授業科目	英語Ⅱ	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	林 愛	
		開講時期	後期	時間数	15時間			
科目目標	教員による講義形式の英語学習だけでなく、「(英語を)聴く・話す・読む・書く」という4技能を積極的に使う時間を出来るだけ多く設ける事で、臨床看護における英語運用力の向上を目指す。							
学習目標	1. 臨床看護の現場で実践的に使える英語表現を身に付ける。 2. クラスで扱った内容を基に、英語での課題作成やプレゼンテーション実践を行う。							
回数	内容						授業形態	
1	Introduction with Course Guidance & Unit 2: Don't worry.						Lecture	
2	Unit 3: How may I help you?						Lecture	
3	Unit 4: How are you feeling?						Lecture	
4	Unit 5: Could you fill in this medical questionnaire? Preparation for Group Work ①: Making Medical Questionnaire -1						Lecture with Group Work	
5	Unit 7: What are your symptoms? Preparation for Group Work ①: Making Medical Questionnaire -2							
6	Unit 8: Where does it hurt? Preparation for Group Work ①: Making Medical Questionnaire -3							
7	Unit 9: How long have you had these symptoms? Preparation for Group Work ①: Making Medical Questionnaire -4							
8	Unit 12: Your surgery will be tomorrow. -1 Preparation for Group Work ②: Interaction with Patients -1							
9	Unit 12: Your surgery will be tomorrow. -2 Preparation for Group Work ②: Interaction with Patients -2							
10	Unit 14: Are you worried about anything? Preparation for Group Work ②: Interaction with Patients -3							
11	Unit 15: It's time to be discharged. Preparation for Group Work ②: Interaction with Patients -4							
12	Unit 6: Take the elevator, please.							
13	Group Presentaion -1							
14	Group Presentaion -2							
15	Final Term Test							
使用テキスト	<i>Lifesaver New Edition: Basic English in Medical Situations</i> Maki Inoue & Toshiya Sato / Cengage Learning (ISBN: 978-4-86312-366-3)							
評価	1. Assignments in Groups (45% : Group Work ① 20% / Group Work ② 25%) 2. Check Tests (25%) 3. Final Term Test (30%)							
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・「各課題への積極的な取り組み」や「英語を積極的に使用する姿勢」を評価する。 ・出席していれば無条件に単位を取得出来る訳では無い。 							

授業科目	保健体育	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	上野 幸 高木 美樹
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	将来の看護師として、心と体の健康管理について、余暇時間の有効活用、体力づくりの重要性を学び、運動することの楽しさを体験し、修得する						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的な健康づくりの必要性や基本となる正しい姿勢動作について理解する 2. 日常生活における余暇時間の有効活用について理解する 3. 自己の体力を知り、体力づくりのための基本や継続的に実践できる運動・スポーツへの理解を深める 4. 体育祭および授業において、集団で実施する運動の楽しさを実感するとともに集団の中の役割や責任を全うする能力(チームワーク)を身につける 						
回数	内容						授業形態
1	【講義】 オリエンテーション・現代生活と健康						座学
2	正しい姿勢と動作の原則						座学
3	体力について						座学
4	運動・スポーツの必要性						座学
5	余暇時間の意義・有効活用						座学
6	健康管理に向けて						座学
7	まとめー今後の健康体力づくりに向けて						座学
8	筆記試験						座学
1	【実技】 オリエンテーション・健康体力に関するアンケート						座学
2	正しい姿勢と歩き方						実技
3	体力測定						実技
4	球技・グループゲーム						実技
5	体力づくりのための基本-ストレッチング						実技
6	体力づくりのための基本-筋力トレーニング・有酸素運動						実技
7	体力づくり計画と実施						実技
使用テキスト	指定なし 参考資料:適宜紹介						
評価	授業態度・参加度・提出物・試験等を総合的に評価する						
学習上の留意点	実技は近隣の体育館を使用する(電車を利用し移動する) 実技の見学は認めない						

専門基礎科目 科目構造



授業科目	解剖学 I	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師
		開講時期	前期	時間数	30時間	
科目目標	人体の形態と構造について系統的に学ぶ					早川 亨・菰池 かおり 斉藤 文典・芝田 高志
学習目標	1. 生命を維持する人体の植物機能について学習する 2. 生命を活用する人体の動物機能について学習する 3. 人体を保護して人体の種を保存する機能について学習する					
回数	内容					授業形態
1・2	解剖学を学ぶための基礎知識（担当：早川） 人体とは、素材としての細胞・組織 遺伝子と遺伝情報 構造と機能から見た人体 構造からみた人体、機能からみた人体、体液とホメオスタシス					講義
3～6	運動系の概要、体の支持と運動（担当：菰池） 骨格とはどういうものか、骨の連結 骨格筋、体幹の骨格と筋、上肢の骨格と筋 下肢の骨格と筋、頭頸部の骨格と筋、筋の収縮					講義
7～10	消化器系の概要、栄養の消化と吸収（担当：芝田） 咽頭・食道の構造と機能、腹部消化管の構造と機能 膵臓・肝臓・胆のうの構造と機能、腹膜 呼吸器系の概要、呼吸と血液の働き 呼吸器の構造、呼吸、血液 上気道、下気道、肺					講義
11～14	循環器系の概要、血液の循環とその調整（担当：齋藤） 循環器系の構成、心臓の構造 心臓の拍出機能、末梢循環系の構造 血液の循環の調整 リンパとリンパ管					講義
15	終講時試験					
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 医学書院					
評価	出席状況・授業の参加度・提出物・筆記試験等を総合的に評価する					
学習上の留意点	人体の形態や構造についての学習は、人体の役割と機能についての学習と対にして行う。今後学習する疾患や看護技術の基礎となる知識を学習する					

授業科目	解剖学Ⅱ	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師
		開講時期	後期	時間数	30時間	
科目目標	人体の形態と構造について系統的に学ぶ					
学習目標	1. 生命を維持する人体の植物機能について学習する 2. 生命を活用する人体の動物機能について学習する 3. 人体を保護して人体の種を保存する機能について学習する					
回数	内容					授業形態
1～6	神経系・感覚系の概要、情報の受容と処理・神経系の構造と機能（担当：早川） 脊髄と脳、脊髄神経と脳神経、脳の高次機能 運動機能と下行伝達路、感覚機能と上行伝達路 眼の構造と視覚、耳の構造と聴覚、平衡覚、味覚と臭覚、疼痛 外部環境からの防御・皮膚の構造と機能、生体の防御機構、体温とその調整					講義 講義
7～11	内部機能の調整・自律神経による調整、内分泌系による調整（担当：菊田） 全身の内分泌腺と内分泌細胞、ホルモンの分泌と調整、 ホルモンによる調整の実態 体液の調整と尿の生成 腎臓、排泄路、体液の調整 生殖・発生と老化のしくみ 女性生殖器					講義 講義
11～12	受精と胎児の発生（担当：〇〇） 成長と老化					講義 講義
13・14	体表から見た人体の構造 解剖学見学実習 ・人体の形態や機能について体験学習をする					講義 講義
15	終講時試験					
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 医学書院					
評価	出席状況・授業の参加度・提出物・筆記試験等を総合的に評価する					
学習上の留意点	人体の形態や構造についての学習は、人体の役割と機能についての学習と対にして行う					

授業科目	生理学Ⅰ・Ⅱ	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師
		開講時期	前期	時間数	30時間	
科目目標	人体の生理機能について系統的に学ぶ					若林沙耶香・樋口 清香 三谷 昌平・伊豆原郁月 中山 寿子・植田 禎史 桂 秀樹
学習目標	人体の構造と機能について、恒常性の維持・細胞内情報伝達・循環器系・神経系・感覚器系・運動器系・呼吸器系・生殖器系・腎泌尿器系・血液・消化器系・代謝系・内分泌系・生体防御機構・成長や加齢に伴う変化を総合的に理解する事が出来る					
回数	内容					授業形態
1・2	生理学の基礎知識（担当：若林） 1) 生体のリズム 2) 内部環境の恒常性 ……①試験					講義
3・4	生理学の基礎知識2（担当：樋口、三谷） 1) 細胞・組織 2) 遺伝子と遺伝情報 ……②-1試験 3) 細胞分裂 4) 細胞内情報伝達 ……②-2試験					講義
5・6	血液循環とその調整（循環器系）（担当：伊豆原） 1) 心臓の機能 2) 血管系の機能 3) リンパ系の機能 ……③試験					講義
7・8	情報の受容と処理（神経系）（担当：中山） 1) 中枢神経系の機能 2) 末梢神経系の機能 ……④試験					講義
9・10	体性感覚と感覚器機能（感覚器系）（担当：植田） 1) 視覚 2) 聴覚・平衡感覚 3) 味覚・臭覚 4) 体性感覚 5) 疼痛 ……⑤試験					講義
11・12	身体の支持と運動（運動器系）（担当：降矢） 1) 骨格の機能 2) 関節の機能 3) 骨格筋の機能 ……⑥試験					講義
12・13	呼吸とガス交換（呼吸器系）（担当：桂） 1) 肺機能・呼吸運動 2) ガス交換 ……⑦試験					講義
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 医学書院					
評価	担当試験ごとに試験を行う。全体の平均点が規定に満たない場合、再試対象となる					
学習上の留意点	解剖学とともに生理学の基礎知識を学び、人体の正常状態の形態と機能を理解することにより、正常から変化した状態である疾病の成り立ちや回復過程の理解に繋がります					

授業科目	生理学Ⅰ・Ⅱ	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師
		開講時期	前期	時間数	30時間	
科目目標	人体の生理機能について系統的に学ぶ					浦瀬 香子・中村 裕子 風間 哲至・佐川まさよ 柴田 興一・若林沙耶香
学習目標	人体の構造と機能について、恒常性の維持・細胞内情報伝達・循環器系・神経系・感覚器系・運動器系・呼吸器系・生殖器系・腎泌尿器系・血液・消化器系・代謝系・内分泌系・生体防御機構・成長や加齢に伴う変化を総合的に理解する事が出来る					
回数	内容					授業形態
15	生殖のしくみ(生殖器系) (担当:松下) 1) 男性の生殖機能 2) 女性の生殖機能					講義
16～18	体液の調整と尿の生成(腎・泌尿器系) (担当:中村) 1) 体液の構成と調整 2) 尿生成(腎・糸球体機能) 3) 体液量調整 4) 排尿機能					講義
19・20	血液の機能 (担当:風間) 1) 血液の成分と機能 2) 止血機構 3) 血液型					講義
21～23	栄養の消化と消化吸収 (担当:佐川) 1) 咀嚼と嚥下 2) 消化と吸収 3) 物質代謝					講義
24～26	内臓機能の調整(内分泌系) (担当:柴田) 1) 自律神経による調整 2) ホルモンの種類と機能 3) ホルモンの分泌調整					講義
27～29	生体の防御機構・体温調整 (担当:若林) 1) 非特異的生体防御機構 2) 特異的生体防御機構 3) 代謝と運動 4) 体温調整					講義
30	発生・成長と老化 (担当:若林) 1) 受精と胎児の発生 2) 成長により変化 3) 老化による変化					講義
使用テキスト	系統看護学講座 専門規模分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 医学書院					
評価	担当試験ごとに試験を行う。全体の平均点が規定に満たない場合、再試対象となる					
学習上の留意点	解剖学とともに生理学の基礎知識を学び、人体の正常状態の形態と機能を理解することにより、正常から変化した状態である疾病の成り立ちや回復過程の理解に繋がります					

授業科目	生化学	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	佐藤 梓 中村 裕子
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	生体の生命現象を化学的に理解し、生体成分やその代謝についての基礎的知識を学ぶ						
学習目標	生体の生命現象、生体成分とその代謝がわかる						
回数	内容						授業形態
1	生化学総論 生体の構成と階層性、細胞、水 (担当:佐藤)						講義
2・3	タンパク質の構造と性質 アミノ酸の構造と性質 (担当:佐藤)						講義
	血清タンパク質 必須アミノ酸						講義
	酵素の性質 臨床検査と酵素						講義
4	糖の種類と構造、存在 (担当:佐藤)						講義
5	生体内における糖質の代謝 (担当:佐藤)						講義
6	タンパク質の代謝 アミノ酸の代謝 (担当:佐藤)						講義
7	核酸とは 生体における核酸の役割 (担当:佐藤)						講義
8	遺伝と遺伝子 (担当:佐藤)						講義
9・10	脂質の構造、性質と代謝 (担当:中村)						講義
11	ビタミン、補酵素、金属イオン (担当:中村)						講義
12	ポルフィリン代謝と異物代謝 (担当:中村)						講義
13	シグナル伝達 (担当:中村)						講義
14	ホルモン (担当:中村)						講義
15	終講時試験、まとめ (担当:中村)						
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能② 生化学 医学書院						
評価	終講時試験(筆記試験)						
学習上の留意点	高校で学習した化学の知識を生かしながら、解剖学・生理学とも関連させて学習するとよい						

授業科目	臨床栄養	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	佐川まさの
		開講時期	後期	時間数	30時間		
科目目標	健康と栄養の意義を理解し、食事療法と栄養指導の基礎を学ぶ						
学習目標	1. 健康と栄養の意義を知る 2. 疾患や状態に応じた食事指導の実際を学ぶ 3. 実際に献立作成や調理実習、栄養補給食品の利用方法を知る						
回数	内容						授業形態
1	オリエンテーション 臨床栄養の概念:健康と栄養、各自の栄養状態を知る						講義
2	傷病者・要介護者の栄養アセスメント						講義
3	栄養ケア計画と実施 栄養・食事療法・栄養補給法						講義
4	傷病者・要介護者の栄養教育 モニタリング、再評価						講義
5	商品交換表 栄養成分表						講義
6	疾患・病態別栄養ケアマネジメント(糖尿病)						講義
7	疾患・病態別栄養ケアマネジメント(高血圧)						講義
8	疾患・病態別栄養ケアマネジメント(癌)						講義
9	疾患・病態別栄養ケアマネジメント(腎疾患)						講義
10	疾患・病態別栄養ケアマネジメント(嚥下障害)						講義
11	演習のオリエンテーション						講義
12	演習						演習
13	薬と食事の相互作用 医療連携						講義
14	まとめ						講義
15	終講時試験						
使用テキスト	臨床栄養学:学文社 参考図書:食品成分表(改良最新版)、食品交換表(第7版)						
評価	授業への参加度・態度、試験、レポート等で総合的に評価する						
学習上の留意点	栄養計算を行うため電卓を持参、実習時の服装(靴、エプロン、三角巾)持参 終講時試験の際には、電卓を持参すること						

授業科目	臨床薬理	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	伊東 俊雅
		開講時期	後期	時間数	30時間		
科目目標	1. 臨床治療の場で重要な位置を占める薬に関する基礎的知識を理解する 2. 身近で重要な疾患に用いられる各薬物について理解する						
学習目標	上記を看護活動に活用できるようにする						
回数	内容						授業形態
1	薬理学概論① 薬物および薬理作用の基本						講義
2	薬理学概論② 薬物の体内挙動(薬物動態)・薬物の相互作用・薬効の個人差 ・薬物の有益性と危険性・薬物と法律						講義
3	末梢神経作用薬① 交感神経作用薬/副交感神経作用薬						講義
4	末梢神経作用薬② 神経-筋接合部作用薬/局所麻酔薬						講義
5	中枢神経作用薬① 全身麻酔薬/睡眠薬/抗不安薬/抗うつ薬						講義
6	中枢神経作用薬② 抗精神薬/抗パーキンソン病薬/麻薬性鎮痛薬						講義
7	循環器作用薬① 抗高血圧薬/利尿薬						講義
8	循環器作用薬② 心不全治療薬/抗狭心症薬/抗不整脈薬						講義
9	小テスト						講義
10	血液系作用薬Ⅰ① 高脂血症薬/貧血治療薬						講義
11	血液系作用薬Ⅱ② 抗凝固薬/血栓溶解薬						講義
12	抗感染症薬 抗菌薬/抗真菌薬/抗ウイルス薬						講義
13	抗がん薬 細胞阻害薬/分子標的薬/免疫増強薬						講義
14	抗炎症薬 抗アレルギー薬/非ステロイド薬/ステロイド薬						講義
15	その他の薬 気管支喘息治療薬/消化性治療薬/糖尿病治療薬 など 終講時試験						講義
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 医学書院 系統看護学講座 別冊 臨床薬理学 医学書院						
評価	小テスト、授業への参加度、終講時試験を総合的に評価する						
学習上の留意点	主な薬物の作用と副作用を理解することで、臨床で薬物治療を行う患者の看護ができるようにする						

授業科目	微生物学	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	加藤 秀人
		開講時期	後期	時間数	30時間		
科目目標	微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解し、予防対策について学ぶ						
学習目標	1. 微生物の特徴がわかる 2. 生体防御がわかる 3. 各種感染症がわかる 4. 感染症の検査と予防がわかる						
回数	内容						授業形態
1	微生物とは① 人と細胞の関わり(常在菌、感染症)						講義
2	微生物とは② ウイルス、細菌、真菌の違い						講義
3	生体防御① 自然免疫と獲得免疫						講義
4	生体防御② 液性免疫と細胞性免疫						講義
5	生体防御③ ワクチン、他						講義
6	各種感染症① 呼吸器感染症(結核)						講義
7	各種感染症② 消化器系感染症(肝炎)、尿路感染症、性感染症						講義
8	各種感染症③ 皮膚・粘膜の感染症						講義
9	各種感染症④ 脳・神経系感染症 人獣共通感染症 寄生虫感染症						講義
10	各種感染症⑤ 母子感染 高齢者の感染 日和見感染						講義
11	各種感染症⑥ 移植患者、手術創、外傷、カテーテルの感染症						講義
12	感染症と検査と予防① 診断法、薬剤耐性菌						講義
13	感染症と検査と予防② 滅菌、消毒、スタンダードプリコーション						講義
14	まとめ						講義
15	終講時試験						
使用テキスト	ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ち③ 臨床微生物・医動物 メディカ出版						
評価	終講時試験(筆記試験)						
学習上の留意点	高校で学んだ生物学を復習しながら、解剖学・生物学ともに関連させて学習するとよい。また、ここで学んだ知識はこれから学習する疾患や看護技術に生かされる						

授業科目	病理学総論	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	増井 憲太 加藤陽一郎
		開講時期	後期	時間数	15時間		
科目目標	各臓器・組織における病変の特徴を理解する						
学習目標	疾病の成り立ちとその形態的变化を学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	病理学の概念、病因論 (担当:加藤)						講義
2	細胞と組織障害 (担当:増井)						講義
3	先天性異常と遺伝子異常 (担当:加藤)						講義
4	代謝障害 (担当:増井)						講義
5	循環障害 (担当:増井)						講義
6	炎症、免疫および感染症 (担当:増井)						講義
7	腫瘍 (担当:加藤)						講義
8	終講時試験 (担当:増井)						講義
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院						
評価	終講時試験を基本とし、総合的に評価する						
学習上の留意点	病気の原因・発生機序・病態について正確な知識を持つことで、看護師が科学的根拠に基づいた看護を行うことができるようにする。これから学習する病態治療論の知識の基礎となる						

授業科目	病態治療論 I (呼吸内科領域)	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	桂 秀樹
		開講時期	後期	時間数	8時間・30時間		
科目目標	呼吸器系における主要疾患の病態生理、原因、誘因、症状と経過、検査・治療について学ぶ						
学習目標	1. 呼吸器の構造や機能の基本的知識を習得していることを確認する 2. 呼吸不全の種類と病態を理解する 3. 呼吸器疾患の診断に必要な検査の種類とその意味を理解する 4. 呼吸器疾患の治療法を学習する						
回数	内容						授業形態
1	呼吸器の構造 1) 肺の構造・気管・気管支の構造・縦郭の構造 2) 肺と胸郭/胸腔/胸膜の関係・横隔膜 呼吸の生理 1) 呼吸調整・換気運動・ガス交換・塩酸基平衡						講義
2	症状とその病態生理 1) 喀痰(血痰・咯血)・咳嗽・胸痛・呼吸困難・チアノーゼ 2) 呼吸の異常・意識障害 3) その他(ばち状指・発熱・声の異常・いびき) 検査と治療・処置 1) 画像診断・内視鏡検査(生体検査を含む)・呼吸機能検査 2) 睡眠時呼吸モニタリング・気道確保 3) 酸素療法(人工呼吸療法含む)・呼吸理学療法						講義
3	疾患の理解と治療 1) 感染症 ①急性気管支 ②インフルエンザ ③肺炎 ④結核(非結核性抗酸菌症含む) 2) 間質性肺疾患 ①サルコイドーシス ②好酸球性肺疾患 など 3) 気道疾患 ①気管支喘息 ②気管支拡張症 ③慢性閉塞性肺疾患						講義
4	4) 肺血栓閉塞症 5) 呼吸不全 ①呼吸不全の病態生理 ・肺泡低換気とガス交換障害 ・急性呼吸不全と慢性呼吸不全 ②急性呼吸促迫症候群 6) 呼吸調整に関する疾患 ①過換気症候群 ②睡眠時無呼吸症候群						講義
16	終講時試験						
使用テキスト		系統看護学講座 成人看護学② 呼吸器 医学書院					
評価		16回目に本科目の他領域と合わせて、終講時試験を行う□ 100点中25点の配点とする					
学習上の留意点		解剖学 I (第3・4章)、生理学 I・II (呼吸・循環)の講義を基礎知識として展開する					

授業科目	病態治療論 I (呼吸外科領域)	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	前 昌宏
		開講時期	後期	時間数	6時間・30時間		
科目目標	呼吸器系における主要疾患の病態生理、原因、誘因、症状と経過、検査・治療について学ぶ						
学習目標	呼吸器疾患の外科的治療法を理解する						
回数	内容						授業形態
5①	疾患の理解(病態と治療) 1) 肺腫瘍 ① 良性腫瘍 ② 悪性腫瘍 ・原発性肺がん ・転移性肺腫瘍 2) 肺・肺血管の形成異常 3) 胸膜・縦隔・横隔膜の疾患 ① 胸膜の疾患 ・胸膜炎 ・自然気胸(緊張性気胸) ・膿胸 ・巨大肺嚢胞 ② 縦隔の疾患 ・縦隔炎 ・縦隔気腫 ・縦隔腫瘍 ③ 横隔膜の疾患 ・吃逆 ・横隔膜麻痺 ・横隔膜ヘルニア						講義 講義
6②	4) 肺移植 5) 胸部外傷 ① 肋骨骨折 ② 横隔膜破裂 ③ 肺損傷 各疾患と術式 1) 開胸肺切除術 2) 胸腔鏡下手術 3) 胸腔ドレナージ						講義
7③	術後管理と合併症						
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学② 呼吸器 医学書院						
評価	16回目に本科目の他領域と合わせて、終講時試験を行う口 100点中25点の配点とする						
学習上の留意点	解剖学 I (第3・4章)、生理学 I・II (呼吸・循環)の講義を基礎知識として展開する						

授業科目	病態治療論 I (循環器内科領域)	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	久保 豊 大森 久子
		開講時期	後期	時間数	8時間・ 30時間		
科目目標	循環器系における主要疾患の病態生理、原因、誘因、症状と経過、検査・治療について学ぶ						
学習目標	1. 循環器疾患で見られる代表的な症状とその病態について理解する 2. 虚血性心疾患の概念・症状・分類・合併症・治療を理解する 3. 心不全の概念・症状・所見・治療について理解する 4. 循環器疾患の診断に用いられる検査法とその意味を理解する						
回数	内容						授業形態
8①	循環器の構造と機能 1) 心臓の構造と機能 ①構造 ②刺激伝導系と電気活動 ③ポンプ作用 ④心臓機能の適応性 2) 血管の構造と機能 ①動脈および静脈の構造 ②体循環と肺循環 ③血液の循環力学 3) 循環の調整 ①自律神経による調整 ②液性因子による調整						講義
9②	症状とその病態生理 ①胸痛 ②動悸 ③呼吸困難 ④浮腫 ⑤チアノーゼ ⑥めまい・失神 検査と治療 1) 診察と診断の流れ ①問診・フィジカルアセスメント 2) 検査 ①心電図 ②胸部X線からわかること ③心エコー ④脈波検査 ⑤心臓カテーテル法 ⑥血行動態モニタリング ⑦心臓核医学 ⑧コンピューター断層撮影(CT) ⑨MRI 3) 内科的治療 ①薬物療法の基本 ②経皮的冠動脈インターベンション(PCI) ③ペースメーカー治療						講義
10③	疾患の理解と治療(病態生理と内科的治療) 1) 心不全 ①急性心不全の治療 ②慢性心不全の治療						講義
11④	疾患の理解と治療(病態生理と内科的治療) 2) 虚血性心疾患 ①安定冠状動脈疾患 ・労作性狭心症 ・冠れん縮性狭心症 ・不安定狭心症 ②急性冠症候群 ・不安定狭心症 ・急性心筋梗塞 3) 不整脈 4) 血圧異常 5) 心筋疾患 6) リンパ系疾患						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学② 循環器 医学書院						
評価	16回目に本科目の他領域と合わせて、終講時試験を行う□ 100点中25点の配点とする						
学習上の留意点	解剖学 I (第3・4章)、生理学 I・II (呼吸・循環)の講義を基礎知識として展開する						

授業科目	病態治療論 I (循環器外科領域)	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	上部 一彦
		開講時期	後期	時間数	8時間・ 30時間		
科目目標	循環器系における主要疾患の病態生理、原因、誘因、症状と経過、検査・治療について学ぶ						
学習目標	1. 循環器疾患の各治療法を学習する 2. 心臓血管疾患における手術法と周手術期の患者管理の概要を学習する 3. 心臓リハビリテーションの概要を学習する						
回数	内容						授業形態
12①	外科治療を伴う疾患(病態生理の理解) 1) 急性冠性症候群(ACS) 振り返り 2) 弁膜症 3) 動脈系疾患 4) 静脈系疾患						講義
13②	外科的治療 1) 心臓手術の周手術期管理 ①心臓・血管疾患の手術法 ②人工心肺による体外循環 ③心臓・胸部大血管術後の術後管理 ④呼吸・循環・腎機能のモニター ⑤呼吸・循環・腎機能の管理 ⑥ドレーンの管理 2) 急性冠性症候群に対する手術 ①冠状動脈バイパス術(CABG)						講義
14③	外科的治療 3) 内科的治療 ①大動脈弁置換術 ②僧帽弁置換術・形成術 ③三尖弁置換術 ④その他の弁膜症 4) 大血管再建術の種類と適応・術式 5) 血栓除去術の種類と適応・術式						講義
15④	補助循環装置 1) 大動脈内バルーンバイピング(IABP) 適応と術式 2) 経皮的心肺補助(PCPS) 適応と術式 3) 補助人工心臓の種類と適応・術式 ①体外式 ②埋め込み型 心臓リハビリテーション						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学② 循環器 医学書院						
評価	16回目に本科目の他領域と合わせて、終講時試験を行う口 100点中25点の配点とする						
学習上の留意点	解剖学 I (第3・4章)、生理学 I・II (呼吸・循環)の講義を基礎知識として展開する						

授業科目	病態治療論Ⅱ (消化器内科領域)	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	大野 秀樹
		開講時期	後期	時間数	8時間・30時間		
科目目標	消化器系、腎・泌尿器系、乳腺における主要疾患の病態生理、原因、誘因、症状と経過、検査・治療について学ぶ						
学習目標	1. 消化管の症状と病態生理、検査・治療について理解できる 2. 主な消化器系疾患の病態生理及び保存的治療について理解できる 3. 肝・胆・膵臓の症状と病態生理、検査・治療について理解できる 4. 主な肝・胆・膵臓系疾患の病態生理及び保存的治療について理解できる						
回数	内容						授業形態
1	消化管総論 1) 消化管の症状とその病態生理・治療 ①食思不振 ②嘔気・嘔吐 ③腹痛 ④吐血・下血 ⑤下痢 ⑥便秘 ⑦腹部膨満感 など 2) 消化管の検査と留意点 ①消化管造影 ②内視鏡 ③腹部超音波検査 ④CT、MRI その他画像検査 ⑤ヘリコバクターピロリ検査 ⑥血液検査(総蛋白、アルブミンなど)						講義
2	消化管各論 1) 主な消化器系疾患での病態生理と検査・保存的療法(食事・薬物療法・内視鏡的治療) ①逆流性食道炎 ②胃潰瘍 ③潰瘍性大腸炎 など						講義
3	肝・胆・膵臓系総論 1) 肝・胆・膵臓系の症状とその病態生理・治療 ①黄疸 ②肝性脳症 ③門脈圧亢進症 ④腹水 など 2) 肝・胆・膵臓系の検査 ①ERCP ②MRCP ③肝生検 ④血管撮影 ⑤肝機能検査・肝炎ウイルス検査・膵臓機能・腫瘍マーカー など						講義
4	肝・胆・膵臓系各論 1) 主な肝・胆・膵臓系疾患の病態治療と保存的治療(食事・薬物療法・内視鏡的治療・TAE・RFA など) ①急性肝炎・慢性肝炎 ②肝硬変 ③肝がん ④急性膵炎・慢性膵炎 など						講義
16	終講時試験						
使用テキスト		系統看護学講座 成人看護学② 消化器 医学書院					
評価		終講時試験を基本とし、講義の参加度などを合わせて総合的に評価する 16回目に本科目の他領域と合わせて、終講時試験を行う。100点中25点の配点とする					
学習上の留意点		・消化管及び肝・胆・膵臓系の構造と機能を復習して理解を深めながら講義の臨もう ・消化器系の症状の原因・発生のメカニズム・成り行きを理解して治療の学習に臨もう ・侵襲の大きな検査について、目的・方法・副作用についてまとめてみよう ・疾病・病態の伸展の仕方について理解し、起こりやすい看護問題に繋げていこう					

授業科目	病態治療論Ⅱ (消化器外科領域)	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	塩澤 俊一 島川 武
		開講時期	後期	時間数	8時間・ 30時間		
科目目標	消化器系、腎・泌尿器系、乳腺における主要疾患の病態生理、原因、誘因、症状と経過、検査・治療について学ぶ						
学習目標	1. 消化管の症状と病態生理、検査・治療について理解できる 2. 主な消化器疾患の外科的治療に伴う合併症と対応について理解できる						
回数	内容						授業形態
5①	消化器系の外科的治療総論・消化管外科各論Ⅰ 1) 消化器系の外科的治療の基本的考え方 2) 術前後の管理総論 3) 主な消化管疾患の病態生理と外科的治療(一部保存療法を含む) ①胃がん:腹腔鏡下幽門側胃切除 など ②虫垂炎:虫垂切除術 腹膜炎:腹腔内洗浄、腹腔ドレナージ						講義
6②	消化管外科各論Ⅱ 3) 主な消化管疾患の病態生理と外科的治療(一部保存療法を含む) ③食道がん:胸部食道全摘・食道再建術/胸腔鏡下食道部分切除 ④腸閉塞:イレウス管挿入 ⑤大腸腫瘍(良性):大腸内視鏡ポリープ切除術						講義
7③	消化管外科各論Ⅲ/肝・胆・膵臓系外科各論Ⅰ 3) 主な消化管疾患の病態生理と外科的治療(一般保存療法を含む) ⑥大腸腫瘍(悪性) 低位直腸がん:腹会陰式直腸切除術、人工肛門造設術 ⑦肛門疾患(痔核、痔瘻 など) 肝・胆・膵臓系外科各論Ⅱ 1) 主な肝・胆・膵臓系疾患の病態生理と外科的治療(一部保存療法を含む) ①胆嚢炎・胆石/肝内結石:腹腔鏡下胆嚢摘出術						講義
8④	肝・胆・膵臓系疾患の外科各論Ⅲ 1) 主な肝・胆・膵臓系疾患の病態生理と外科的治療(一部保存療法を含む) ②肝がん:肝切除術 ③膵臓がん:膵頭十二指腸切除術、幽門輪温存膵頭十二指腸切除術						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護学各論 医学書院						
評価	終講時試験を基本とし、講義の参加度などを合わせて総合的に評価する 16回日に本科目の他領域と合わせて、終講時試験を行う。100点中25点の配点とする						
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 消化管系の疾患で外科的治療を受ける対象は、食・栄養のニーズが術前より充足されていないことが多く、術前・術後の栄養状態の維持・向上のためのアセスメントができるよう、患者の病態を把握する知識を深めること頑張ってもらえる 消化器系術後の管理として上記に加え、特にイレウスの合併を予防する対応を学んで、早期離床の看護に繋げてほしい 人工肛門造設などボディイメージ変化を受け入れやセルフケアの支援を要する患者に接するにあたり、手術による身体の変化をよく理解したうえで関わられるように学ぼう 						

授業科目	病態治療論Ⅱ (乳腺領域)	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	平野 明
		開講時期	後期	時間数	2時間・30時間		
科目目標	消化器系、腎・泌尿器系、乳腺における主要疾患の病態生理、原因、誘因、症状と経過、検査・治療について学ぶ						
学習目標	1. 乳腺の構造と機能、検査・治療について理解できる 2. 主な乳腺疾患の病態生理及び検査・治療・処置について理解できる 3. 乳がんの外科的治療に伴う合併症と対応について理解できる						
回数	内容						授業形態
9①	乳がん 1) 乳がんの疫学 2) 乳がんの病態生理 原因・誘因、症状と経過 3) 乳がんの検査 ①視診・触診 ②超音波エコー ③マンモグラフィー ④CT、MRI、その他の画像検査 ⑤病理組織学的検査 4) 乳がんの治療 ①手術療法 ・術式の推移と「乳房温存術」の選択 ・腋窩リンパ節郭清/センチネルリンパ節 ・乳房再建術 ・術後合併症とその治療 ②薬物療法 ・ホルモン療法 ・化学療法 ③放射線療法 その他の乳腺疾患						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護学各論 医学書院						
評価	終講時試験を基本とし、講義の参加度などを合わせて総合的に評価する 16回目に本科目の他領域と合わせて、終講時試験を行う。100点中25点の配点とする						
学習上の留意点	「乳がん」は女性の11人の1人が罹患すると言われている昨今である。乳がんを早期に発見し、早期に治療をしていくためには、自己検診・定期検診が不可欠である。本講を通して、学生自身が自己検診の必要性と方法を学び実践していくことが求められる。自身を含め女性が罹患する頻度の極めて高い疾患であり、治療に伴うボディイメージの変化や再発の危険性は心理面に大きな影響を及ぼす理解しつつ、社会生活の中で乳がんに関する情報に興味関心を持ちながら、病態と治療に対する知識を深めていくことを希望する						

授業科目	病態治療論Ⅱ (腎臓内科領域)	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	小川 哲也
	開講時期	後期	時間数	6時間・30時間			
科目目標	消化器系、腎・泌尿器系、乳腺における主要疾患の病態生理、原因、誘因、症状と経過、検査・治療について学ぶ						
学習目標	1. 腎・泌尿器の症状と病態生理、検査・治療について理解できる 2. 主な腎臓系疾患の病態生理及び検査・治療について理解できる						
回数	内容						授業形態
10①	腎・泌尿器系総論Ⅰ 1) 腎臓系の症状とその病態生理・治療 ①尿の異常 ②排尿の異常 ③疼痛 ④循環器系・血液の異常 ⑤性機能障害						講義
11②	腎・泌尿器系総論Ⅱ、腎・泌尿器疾患各論(保存療法)Ⅰ 2) 腎・泌尿器系の検査 ①尿定性・尿沈渣 ②24時間蓄尿 生化学検査 ③クリアランス試験、糸球体濾過量 ④尿培養 ⑤血液検査(BUN、Cre など) ⑥腫瘍マーカー(PSA) ⑦超音波検査 ⑧尿路撮影(静脈性尿路撮影、逆行性尿路撮影、血管造影) その他の画像検査 ⑨内視鏡的検査(膀胱尿道鏡 など) ⑩腎生検 ⑪ウロダイナミックスタディ ⑫直聴診 など 主な腎・泌尿器系疾患の病態生理と検査・保存的治療 (食事・薬物療法、結石破砕術) 1) 膀胱炎、腎盂腎炎 2) 糸球体腎炎 3) ネフローゼ症候群 4) ループス腎炎 5) 尿路結石						講義
12③	腎・泌尿器疾患各論(保存療法)Ⅱ 6) 腎不全の病態生理と保存的治療 ①急性腎不全、慢性腎不全						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学② 腎・泌尿器 医学書院						
評価	終講時試験を基本とし、講義の参加度などを合わせて総合的に評価する。16回目に本科目の他領域と合わせて、終講時試験を行う。100点中25点の配点とする						
学習上の留意点	・腎・泌尿器の構造と機能を復習して、それぞれ理解を深めながら講義の臨もう ・腎・泌尿器系の症状の原因・発生のメカニズム・成り行きを理解して、治療の学習に臨もう ・侵襲の大きな検査について、目的・方法・副作用についてまとめてみよう ・疾病・病態の伸展の仕方について学習し、また腎・泌尿器系の保存的知治療における合併症と異常の早期発見に関わる観察点を理解しよう						

授業科目	病態治療論Ⅱ (腎泌尿器外科領域)	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	近藤 恒徳
		開講時期	後期	時間数	6時間・ 30時間		
科目目標	消化器系、腎・泌尿器系、乳腺における主要疾患の病態生理、原因、誘因、症状と経過、検査・治療について学ぶ						
学習目標	1. 主な腎・泌尿器疾患の病態生理及び・外科的治療について理解できる 2. 主な腎・泌尿器疾患の外科的治療に伴う合併症と対応について理解できる						
回数	内容						授業形態
13①	主な腎・泌尿器系疾患の外科的治療Ⅰ 1) 腎・泌尿器系の外科的治療の考え方、術前後の管理総論 2) 主な外科的治療 ①慢性腎不全による腎移植術						講義
14②	主な腎・泌尿器系疾患の外科的治療Ⅱ 2) 主な外科的治療 ②腎細胞がん:腎摘出術、部分切除術 ③膀胱がん:経尿道的膀胱腫瘍切除術(TUR-Bt) 膀胱摘出術、尿路変更術						講義
15③	主な腎・泌尿器系疾患の外科的治療Ⅲ(一部保存療法を含む) 4) 前立腺肥大症;薬物療法 経尿道的前立腺切除術(TUR-P) 5) 前立腺がん;放射線療法(密封小線源療法) 6) 精巣がん						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学② 腎・泌尿器 医学書院						
評価	終講時試験を基本とし、講義の参加度などを合わせて総合的に評価する。16回目に本科目の他領域と合わせて、終講時試験を行う。100点中25点の配点とする						
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 腎・泌尿器の疾患で外科的治療を受ける対象は、排泄のニーズが術前より充足されていないことが多く、術前・術後の排泄機能の保持・向上のみならず、排泄が影響を及ぼす循環のアセスメントができるよう、患者の病態を把握する知識を深めていくことが求められる 人工透析や人工膀胱などによるセルフケアやボディイメージ変化の受け入れなどの支援を必要とする患者に接するにあたり、解剖生理、手術による身体の変化をよく理解したうえで関われるよう、学習を深めてほしい 						

授業科目	病態治療論Ⅲ (内分泌代謝領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	佐倉 宏
		開講時期	前期	時間数	8時間・30時間		
科目目標	血液・造血器、内分泌・代謝、アレルギー・膠原病、感染症における主要疾患の病態生理、原因、誘因、症状と経過、検査・治療について学ぶ						
学習目標	内分泌・代謝疾患の病態生理、症状、検査、治療・処置を学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	症状と病態生理 1) 体重変化・身長 of 異常 るい瘦、体重増加、身長 of 異常 2) 容貌の変化 顔面の骨格などの異常、眼 of 異常、甲状腺腫大 3) 神経・筋症状 精神症状、意識障害、痙攣、麻痺・しびれ、頭痛 4) 循環器症状 うっ血性心不全、高血圧、低血圧、狭心症・心筋梗塞、不整脈 5) 消化器症状 吐き気・嘔吐、腹痛、下痢 6) 皮膚の変化 7) 無月経 検査 1) 内分泌疾患 of 検査 ホルモン血中濃度 of 測定、ホルモンおよび代謝産物 of 尿中測定、 免疫学的評価、ホルモン負荷試験、画像検査 2) 代謝疾患 of 検査 検査計画と検査法 of 選択、中間代謝産物とその異常、 糖尿病 of 診断・治療に関連した検査						講義 講義 講義
2	疾患 of 理解 1) 内分泌疾患 of 検査 視床下部一下垂体前葉系疾患、視床下部一下垂体後葉系疾患 甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、性腺疾患、膵・消化管神経 内分泌腫瘍、多発性内分泌腫瘍、内分泌疾患 of 救急治療						
3.4	疾患 of 理解 2) 代謝疾患 糖尿病、脂質異常症、肥満症とメタボリックシンドローム、 尿酸代謝異常						
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学② 腎・泌尿器 医学書院						
評価	終講時試験を基本とし、講義 of 参加度などを合わせて総合的に評価する。16回目に本科目 of 他領域と合わせて、終講時試験を行う。100点中25点 of 配点とする						
学習上 of 留意点	この科目は、1年生で学ぶ解剖学、生理学、病理学窓論と関連が大きい 1年生で学んだ学習内容を復習しながら学習に臨むこと						

授業科目	病態治療論Ⅲ (血液造血器領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	小笠原 壽恵
		開講時期	前期	時間数	8時間・ 30時間		
科目目標	血液・造血器、内分泌・代謝、アレルギー・膠原病、感染症における主要疾患の病態生理、原因、誘因、症状と経過、検査・治療について学ぶ						
学習目標	血液・造血器疾患の病態生理、症状、検査、治療・処置を学ぶ						
回数	内容						授業形態
5①	症候と病態生理 1) 貧血 2) 白血球増加症 3) 白血球減少症 4) 脾腫 5) リンパ節腫脹 6) 出血性素因 7) 発熱						講義
6②	検査 1) 末梢血検査(血球検査、形態検査) 2) 骨髄穿刺・骨髄生検 3) 出血傾向の検査 4) リンパ節生検 5) 細胞表面マーカー検査 6) 染色体検査 7) 遺伝子検査						講義
7③	疾患と治療の理解 1) 赤血球系の異常 鉄欠乏性貧血、鉄代謝異常によるその他の貧血 巨赤芽球性貧血、再生不良性貧血、溶血性貧血、二次性貧血 2) 白血球系の異常 無顆粒球症、顆粒球機能異常症、伝染性単核球症						講義
8④	疾患と治療の理解 3) 造血器腫瘍 分類、治療計画、基本理念、支持療法、急性白血病 骨髄異形成症候群、白血病、成人T細胞白血病リンパ腫、悪性リンパ腫 骨髄腫及び類縁疾患、血球貧食症候群 4) 出血性疾患 血管異常による出血性疾患、血小板異常による出血性疾患、 凝固異常による出血性疾患、播種性血管凝固症候群						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学② 血液・造血器 医学書院						
評価	終講時試験を基本とし、講義の参加度などを合わせて総合的に評価する。16回目に本科目の他領域と合わせて、終講時試験を行う。100点中25点の配点とする						
学習上の留意点	この科目は、1年生で学ぶ解剖学、生理学、病理学窓論と関連が大きい 1年生で学んだ学習内容を復習しながら学習に臨むこと						

授業科目	病態治療論Ⅲ (アレルギー・膠原病領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	高木 香恵
		開講時期	前期	時間数	6時間・30時間		
科目目標	血液・造血器、内分泌・代謝、アレルギー・膠原病、感染症における主要疾患の病態生理、原因、誘因、症状と経過、検査・治療について学ぶ						
学習目標	アレルギー・膠原病の病態生理、症状、検査、治療・処置を学ぶ						
回数	内容						授業形態
9①	<p>アレルギーの仕組み</p> <p>1)アレルギー反応の分類と仕組み I型アレルギー、II型アレルギー、III型アレルギー、IV型アレルギー</p> <p>2)アレルゲンの種類</p> <p>検査と治療</p> <p>1)検査と診断(診断までの流れ、検査方法)</p> <p>2)治療(薬物療法)</p> <p>症状と疾患の理解</p> <p>1)気管支喘息 2)アレルギー性鼻炎 3)アトピー性皮膚炎 4)薬物のアレルギー 5)アナフィラキシー 6)蕁麻疹 7)接触皮膚炎 8)食物アレルギー</p>						講義
10②	<p>膠原病の症状と病態生理</p> <p>1)関節痛・関節炎 2)レイノー現象 3)皮膚・粘膜症状 4)発熱 5)タンパク尿 6)筋力低下</p> <p>検査</p> <p>1)診断までの流れ 2)検査(一般検査、血清・免疫学検査、そのほかの検査) 3)治療方法(一般療法、薬物療法)</p> <p>疾患の理解</p> <p>1)関節リウマチ 2)全身性エリテマトーデス</p>						講義
11③	<p>疾患の理解</p> <p>3)抗リン脂質抗体症候群 4)全身性強皮症 5)多発性筋炎、皮膚筋炎 6)混合性結合組織病 7)シェーングレン症候群 8)ベーチェット病 9)血管炎症候群 10)リウマチ性多発性筋痛症 11)成人発病スティル病</p>						
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学② 血液・造血器 医学書院						
評価	16回目に本科目の他領域と合わせて、終講時試験を行う。100点中25点の配点とする						
学習上の留意点	この科目は、1年生で学ぶ解剖学、生理学、病理学窓論と関連が大きい 1年生で学んだ学習内容を復習しながら学習に臨むこと						

授業科目	病態治療論Ⅲ (感染症領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	菊池 賢
		開講時期	前期	時間数	6時間・ 30時間		
科目目標	血液・造血器、内分泌・代謝、アレルギー・膠原病、感染症における主要疾患の病態生理、原因、誘因、症状と経過、検査・治療について学ぶ						
学習目標	感染症疾患の病態生理、症状、検査、治療・処置を学ぶ						
回数	内容						授業形態
12①	看護を取り巻く感染症の問題 多剤耐性菌と院内感染、薬剤耐性菌、結核、HIV感染症、性感染症 新興・再新興感染症、感染が成立する条件 検査と治療 1) 感染症診断の原則 2) 検査・診断・治療の流れ 感染臓器の決定、原因微生物の推定、病原微生物の決定、治療 3) 検査の実施 塗抹・培養検査、迅速抗原検査、真菌抗原検査、抗体検査 HIV検査、毒素の検査、原虫・寄生虫検査、分子生物学検査 治療 1) 感染症治療の原則 2) 抗菌薬 3) 抗真菌薬 4) 抗ウイルス薬 5) その他の治療法 6) 一次予防と二次予防						講義
13②	疾患の理解 1) 上気道感染(急性副鼻腔炎、急性咽頭炎、扁桃炎、かぜ症候群、インフルエンザ、急性喉頭蓋炎) 2) 下気道感染症(肺炎、胸膜炎・膿胸、肺結核) 3) 消化管感染症(食中毒を主とした消化管感染症、虫垂炎、憩室炎) 4) 肝胆道系感染症(肝膿瘍、急性胆管炎、急性胆嚢炎、ウイルス性肝炎) 5) 尿路感染症 1) 皮膚軟部組織感染症(癰・癤、毛包炎、丹毒、蜂巣炎、壊死性筋膜炎、表在性血栓性静脈炎、リンパ管炎) 7) 性感染症 8) 眼の感染症 9) 中枢神経感染症(髄膜炎、脳炎、脳腫瘍)						講義
14③	10) 悪性腫瘍、移植に伴う感染症 11) 菌血症・敗血症 12) 人動物咬傷(動物咬傷、人咬傷) 13) その他のウイルス性感症 14) 真菌感染症(カンジダ症、アスペルギウス症、クリプトコッカス症、その他の真菌感染症) 15) 寄生虫感染症(線虫、吸虫、条虫、原虫、その他の寄生虫による感染症)						講義
15④	16) HIV感染症と日和見感染症 17) 新興・再興感染症 18) 多剤耐性菌感染症(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌、バンコマイシン体性腸球菌、多剤耐性緑膿菌)						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学② 血液・造血器 医学書院						
評価	16回目に本科目の他領域と合わせて、終講時試験を行う。100点中25点の配点とする						
学習上の留意点	この科目は、1年生で学ぶ微生物学と関連が大きい。1年生で学んだ学習内容を復習しながら学習に臨むこと。また、呼吸器の感染や消化管の感染など、他の病態治療論とも重なるため関連させた学習をするとよい						

授業科目	病態治療論Ⅳ (脳神経内科領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	西村 芳子 柴田 興一
		開講時期	前期	時間数	8時間・ 30時間		
科目目標	脳・神経系の主な疾患の病態生理、症状、検査、治療、処置について学ぶ						
学習目標	主な脳・神経系疾患の病態生理及び症状、検査・治療(保存的・外科的)について理解できる						
回数	内容						授業形態
1	症状と病態生理 脳神経障害とは、主な症状とその病態生理 1) 意識障害 2) 高次脳機能障害 3) 運動機能障害 4) 感覚機能障害 5) 反射性運動障害 6) 頭蓋内圧亢進症状と脳ヘルニア 7) バイタルサインの変化 8) 髄膜刺激症状 9) 頭痛 など						講義
2	検査・診断と治療・処置 1) 検査: 神経学的診断、補助的検査法 2) 治療・処置: 内科的治療						講義
3	疾患の理解 1) 脳神経-脳血管疾患、脳梗塞: 一過性脳虚血発作 2) 脊髄疾患-脊髄炎 3) 末梢神経障害-ニューロパチー、ギランバレー症候群、単神経障害						講義
4	疾患の理解 1) 神経・筋疾患-重症筋無力症、筋ジストロフィー、筋委縮性側索硬化症 2) 脱髄・変形疾患-多発性硬化症、パーキンソン病、脊髄小脳変性症 3) 脳・神経系の感染症-脳炎、髄膜炎 4) てんかん 5) 認知症						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学⑦ 脳・神経 医学書院						
評価	16回目に本科目の他領域と合わせて、終講時試験を行う。100点中25点の配点とする						
学習上の留意点	ここで学ぶことは、看護に必要な知識となります。復習を行い、知識を修得していきましょう						

授業科目	病態治療論Ⅳ (脳神経外科領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	糟谷 英俊
		開講時期	前期	時間数	6時間・ 30時間		
科目目標	脳・神経系の主な疾患の病態生理、症状、検査、治療、処置について学ぶ						
学習目標	主な脳・神経系疾患の病態生理及び症状、検査・治療(保存的・外科的)について理解できる						
回数	内容						授業形態
5①	検査・診断と治療・処置 治療・処置:外科的治療法						講義
6②	疾患の理解 脳疾患 1)脳血管疾患:クモ膜下出血、脳内出血、脳梗塞脊髄疾患-脊髄炎 脳腫瘍:脳腫瘍、脳膿瘍						講義
7③	疾患の理解 脳疾患-頭部外傷 脳脊髄液の異常:水頭症、脳脊髄液減少症 脊髄疾患:脊髄血管障害、脊髄腫瘍						講義
16④	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学⑦ 脳・神経 医学書院						
評価	16回目に本科目の他領域と合わせて、終講時試験を行う。100点中25点の配点とする						
学習上の留意点	ここで学ぶことは、看護に必要な知識となります。復習を行い、知識を修得していきましょう						

授業科目	病態治療論Ⅳ (運動器領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	千葉 純司
		開講時期	前期	時間数	8時間・ 30時間		井上 靖雄
科目目標	運動器系の主な疾患の病態生理、症状、検査、治療、処置について学ぶ						山本 直也
学習目標	主な運動器系疾患の病態生理及び症状、検査・治療について理解できる						
回数	内容						授業形態
8①	症状とその病態生理 疼痛、形態の異常、関節の運動の異常、神経の障害、異常歩行また跛行 筋肉の障害、その他の障害						講義
9②	検査・診断と治療・処置 診断・診察:一般診察上の注意、肢位または姿勢、計測、神経学的検査 画像診断 検査:骨密度の計測、電気生理学的検査、関節鏡検査、その他 治療・処置:保存療法、理学療法と作業療法、手術療法、義肢と装具						講義
10③	疾患の理解 外傷性(外因性)の運動疾患 骨折、脱臼、神経の損傷(脊髄損傷、末梢神経損傷) 筋・腱・靭帯などの損傷(筋断裂、アキレス腱断裂)						講義
11④	疾患の理解 内因性(非外傷性)の運動疾患 骨・関節の炎症性疾患(骨・関節の感染症、関節リウマチ、痛風、 脊椎関節炎、変形性関節症) 骨腫瘍および軟部組織(悪性骨腫瘍) 代謝性骨疾患(くる病、骨軟化症) 筋および腱の疾患(ばね指、狭窄性腱鞘炎) 神経の疾患(脳性麻痺、急性脊髄前角炎) 上肢および上肢帯の疾患(頸肩腕症候群) 脊椎の疾患(変形性脊椎症、脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニア、骨粗鬆症) 下肢および下肢帯の疾患(骨端症)						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学⑦ 運動器 医学書院						
評価	16回目に本科目の他領域と合わせて、終講時試験を行う。100点中25点の配点とする						
学習上の留意点	ここで学ぶことは、看護に必要な知識となります。復習を行い、知識を修得していきましょう						

授業科目	病態治療論Ⅳ (女性生殖器領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	長野 浩明
		開講時期	前期	時間数	8時間・ 30時間		折戸 征也
科目目標	女性生殖器系の主な疾患の病態生理、症状、検査、治療、処置について学ぶ						赤澤 宗俊 一戸 晶元
学習目標	主な女性生殖器系疾患の病態生理及び症状、検査・治療について理解できる						
回数	内容					授業形態	
12①	症状とその病態生理 ショック、出血、帯下、疼痛、発熱、下腹部膨満感・腫瘤感、外陰部搔痒感 排尿障害、自律神経症状、不定愁訴、リンパ浮腫					講義	
13②	検査・診断と治療・処置 診断・検査: 理学的治療、病理検査、細菌・ウイルス・原虫検査、画像診断、 腫瘍マーカー、妊娠検査、内視鏡検査、染色体検査・遺伝子検査 治療・処置: 膣洗浄、膣タンポン、導尿、腹腔穿刺、ダグラス窩穿刺、 レーザー治療、診察・治療器具、薬物療法、手術					講義	
14③	疾患の理解 外陰の疾患 膣の疾患: 膣炎 子宮の疾患: 子宮の異常位置、子宮がん、子宮筋腫、子宮内膜症、 胎状奇胎 卵管の疾患: 付属器炎、卵管がん、異所性妊娠					講義	
15④	疾患の理解 卵巣の疾患: 卵巣の良性腫瘍、悪性腫瘍 骨盤内炎症性疾患 機能的疾患: 月経異常・月経随伴症状、更年期障害、不妊症 感染症					講義	
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学⑨ 女性生殖器 医学書院						
評価	16回目に本科目の他領域と合わせて、終講時試験を行う。100点中25点の配点とする						
学習上の留意点	ここで学ぶことは、看護に必要な知識となります。復習を行い、知識を修得していきましょう						

授業科目	病態治療論V (眼科領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	土至田 宏
		開講時期	前期	時間数	6時間・ 30時間		
科目目標	1. 感覚器系の主な疾患の病態生理、症状、検査、治療、処置について学ぶ 2. 麻酔の種類と全身管理について理解する						
学習目標	眼の疾患に関する病態生理、原因・誘因、症状と経過、検査・治療・処置を学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	症状とその病態生理 1) 視機能に関連した症状 視力障害、視野異常、色覚異常、夜盲、眼精疲労、複視、飛蚊症、 変視症、小視症、虹視症 2) 視機能に関連しない症状 充血、流涙、眼脂、羞明、異物感、眼痛、眼球突出 検査 視力検査、屈折検査、開瞼検査、眼瞼反転法、細隙灯顕微鏡検査、眼底検査 眼圧検査、隅角検査、瞳孔検査、眼球突出検査、涙液成分検査、視野検査 色覚検査、調整力検査、眼位検査、眼球運動・輻輳・複視の検査 両眼視機能検査、ERG検査						講義
2・3	治療法 点眼法、洗眼法、眼帯、注射、涙嚢洗浄・涙管ブジー、光凝固、屈折矯正、 視能矯正、義眼 代表的な疾患 1) 機能の異常 近視、遠視、乱視、老視、調整麻痺、色覚の異常、弱視、 眼位・眼球運動の異常(斜視、斜位、眼筋麻痺、眼振) 2) 部位別の疾患 眼瞼の疾患(麦粒腫など)、結膜の疾患(流行性角結膜炎、トラコーマなど) 涙管の疾患(鼻涙管閉塞など)、角膜の疾患(単純ヘルペス性角膜炎、 角膜移植など)、強膜の疾患(上強膜炎、強膜炎など)、ぶどう膜の疾患 (フォークト・小柳原田病など)、網膜・硝子体の疾患(糖尿病性網膜症、 高血圧性網膜症、網膜剥離)、加齢黄斑変性症、黄斑円孔、硝子体出血 など、水晶体の疾患(老人性白内障、外傷性白内障、併発白内障、 白内障手術など)、緑内障(原発閉塞隅角緑内障、正常眼圧緑内障、 緑内障手術など)、眼球・眼窩の疾患(全眼球炎、眼窩腫瘍、眼窩蜂巣炎)、 視神経・視路の疾患(うっ血乳頭など)						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学⑬ 眼 医学書院						
評価	16回目に本科目の他領域と合わせて、終講時試験を行う。100点中25点の配点とする						
学習上の留意点	この科目は、1年生で学ぶ解剖学、生理学、微生物学、臨床薬理と関連が大きい 1年生で学んだ学習内容を復習しながら学習に臨むこと						

授業科目	病態治療論V (耳鼻咽喉科領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	余田 敬子
		開講時期	前期	時間数	6時間・30時間		
科目目標	1. 感覚器系の主な疾患の病態生理、症状、検査、治療、処置について学ぶ 2. 麻酔の種類と全身管理について理解する						
学習目標	耳・鼻・咽頭・喉頭に関する病態生理、原因・誘因、症状と経過、検査・治療・処置を学ぶ						
回数	内容						授業形態
4①	症状とその病態生理 1) 耳にあらわれる症状と病態生理 難聴、耳鳴、耳閉塞感、眩暈、耳漏、耳痛、顔面神経麻痺 2) 鼻にあらわれる症状と病態生理 鼻閉、くしゃみ、嗅覚障害、鼻声、耳漏、鼻出血、鼻痛、神経症状 3) 口腔、唾液腺、咽頭にあらわれる症状と病態生理 咽頭痛、呼吸障害、嚥下障害、知覚異常 4) 喉頭にあらわれる症状と病態生理 音声、言語障害、呼吸障害、喉(嗽)、喀痰、嚥下障害 検査と治療 1) 診察と診断の流れ 耳の診察、鼻の診察、中咽頭の診断、下咽頭・喉頭の診察 2) おもな検査 聴力検査、平衡機能検査、副鼻腔検査、耳管通気検査、内視鏡検査、 嗅覚検査、味覚検査、画像検査、喉頭ストロボスコーピー 3) おもな治療 耳の処置、鼻の処置、咽喉頭の処置、手術療法						講義
5②	疾患の理解 1) 耳疾患 外耳疾患、中耳疾患、内耳・後迷路性疾患 2) 鼻疾患 外鼻疾患、鼻腔疾患、副鼻腔疾患						講義
6③	疾患の理解 3) 口腔・咽頭疾患 口腔疾患、咽頭疾患、唾液腺疾患、喉頭疾患 4) 気道・食道・頸部疾患と音声・言語障害 気道・食道の疾患、頸部疾患、音声・言語障害						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学⑭ 耳鼻咽喉科 医学書院						
評価	16回目に本科目の他領域と合わせて、終講時試験を行う。100点中25点の配点とする						
学習上の留意点	この科目は、1年生で学ぶ解剖学、生理学、微生物学、臨床薬理と関連が大きい 1年生で学んだ学習内容を復習しながら学習に臨むこと						

授業科目	病態治療論V (皮膚科領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	石崎 純子 梅沢 知子 田中 勝
		開講時期	前期	時間数	6時間・ 30時間		
科目目標	1. 感覚器系の主な疾患の病態生理、症状、検査、治療、処置について学ぶ 2. 麻酔の種類と全身管理について理解する						
学習目標	耳・鼻・咽頭・喉頭に関する病態生理、原因・誘因、症状と経過、検査、治療・処置を学ぶ						
回数	内容						授業形態
7①	症状とその病態生理 1) 発疹:原発疹と続発疹 2) 掻痒(かゆみ) 3) 皮膚の老化 検査 1) 皮膚科的検査法 2) 病原微生物の検査法 3) 病理組織検査法						講義
8②	治療と処置 1) 全身療法(内服・注射薬:ステロイド薬、抗ヒスタミン薬、抗真菌薬、抗アレルギー薬) 2) 外用療法 3) 手術療法(縫縮術、植皮術、削皮術、デブリドマン、人工被覆材) 4) 光線療法 5) レーザー療法 6) 放射線療法 7) 電気外科 8) 凍結療法 9) 温熱療法 10) ケミカルピーリング						講義
9③	代表的な皮膚科疾患 1) 皮膚の障害(湿疹、アトピー性皮膚炎、帯状疱疹、疥癬) 2) アレルギー性疾患(蕁麻疹、接触性皮膚炎) 3) 腫瘍(メラノサイト系腫瘍)						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学⑫ 皮膚 医学書院						
評価	16回目に本科目の他領域と合わせて、終講時試験を行う。100点中25点の配点とする						
学習上の留意点	この科目は、1年生で学ぶ解剖学、生理学、微生物学、臨床薬理と関連が大きい 1年生で学んだ学習内容を復習しながら学習に臨むこと						

授業科目	病態治療論V (歯科・口腔外科領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	小野澤基太郎
	開講時期	前期	時間数	6時間・30時間			
科目目標	1. 感覚器系の主な疾患の病態生理、症状、検査、治療、処置について学ぶ 2. 麻酔の種類と全身管理について理解する						
学習目標	歯・口腔に関する病態生理、原因・誘因、症状と経過、検査、治療・処置を学ぶ						
回数	内容						授業形態
10①	1) 歯、口腔の構造と機能 2) 症状とその病態生理 口腔症状、顎口腔機能障害 3) 検査法 口腔内検査、画像検査、歯科・口腔外科的検査(味覚検査、皮膚粘膜感覚検査、唾液分泌検査、下顎運動検査、咀嚼機能検査、咬合圧検査) 4) 疾患の理解、治療・処置 歯牙疾患(硬組織疾患)と歯周組織検査(修復処置、歯内治療、欠損補綴、口腔清掃指導、スケーリングとルートプレーニング、ポケット搔爬術と新付着術、歯肉切除術、歯肉白紙搔爬術、再生医療) 5) 齶蝕に続発する疾患 顎骨の炎症、頬部、頸部蜂窩織炎、ビスフォスフォネート関連顎骨骨髓炎、壊死、歯性上顎洞炎						講義
11②	口腔外科の代表的疾患と治療・処置 1) 口腔粘膜の疾患(色素性疾患、アフタ、潰瘍性疾患、カンジダ、前癌病変) 2) 嚢胞(歯源性嚢胞、非歯源性嚢胞、炎症性嚢胞、その他の嚢胞) 3) 軟組織に発生する嚢胞(粘液嚢胞、頬皮嚢胞、側頸嚢胞 など) 4) 腫瘍、腫瘍類似疾患(歯源性腫瘍、非歯源性腫瘍 など) 5) 口腔領域の悪性腫瘍(癌腫、肉腫) 6) 歯と顎骨の外傷(歯の脱臼、歯槽骨骨折、顎骨骨折)、軟組織の外傷						講義
12③	口腔外科の代表的疾患と治療・処置 1) 口腔領域の先天異常、発育異常(舌小帯短縮症、顎顔面変形症 など) 2) 顎関節疾患(顎関節症、顎関節脱臼 など) 3) 唾液腺疾患(唾石症、唾液腺炎、唾液腺良悪性腫瘍 など) 4) 神経疾患(顔面神経麻痺、三叉神経痛、舌痛症 など) 患者の看護 1) 症状に対する看護(呼吸障害、開口障害、咀嚼障害 など)、 2) 治療、処置を受ける患者の看護(小児、高齢者 など) 3) 疾患を持つ患者の看護(口腔がん、放射線、化学療法、顎変形症 など) 特論 口腔ケア 口腔ケアの内容、ライフサイクル各期の口腔ケア、口腔清掃方法、義歯の取り扱い、全身疾患を持つ患者の口腔ケア						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学⑯ 歯・口腔 医学書院						
評価	16回目に本科目の他領域と合わせて、終講時試験を行う。100点中25点の配点とする						
学習上の留意点	この科目は、1年生で学ぶ解剖学、生理学、微生物学、臨床薬理と関連が大きい 1年生で学んだ学習内容を復習しながら学習に臨むこと						

授業科目	病態治療論V (麻酔領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	市川 順子 岡村 圭子 安藤 一義	
		開講時期	前期	時間数	6時間・ 30時間			
科目目標	1. 感覚器系の主な疾患の病態生理、症状、検査、治療、処置について学ぶ 2. 麻酔の種類と全身管理について理解する						学習目標	麻酔についての知識を修得する
回数	内容							
13①	麻酔とは 麻酔の種類 1) 全身麻酔 2) 局所麻酔						講義	
14②	術中管理 術中モニター、体位 術後管理 回復室での管理、術後疼痛管理 全身麻酔 1) 全身麻酔とは 2) 麻酔器 3) 気道確保法 4) 麻酔導入法						講義	
15③	全身麻酔 5) 吸入麻酔 6) 静脈麻酔 7) バランス麻酔 8) 合併症 術前管理 1) 術前回診(問診と診察、検査データと麻酔上の留意点) 2) 麻酔前投薬 3) 経口摂取制限 局所麻酔 1) 局所麻酔とは 2) 局所麻酔の種類 3) 伝達麻酔 脊髄クモ膜下麻酔、硬膜外麻酔						講義	
16	終講時試験							
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学⑫ 歯・口腔 医学書院							
評価	16回目に本科目の他領域と合わせて、終講時試験を行う。100点中25点の配点とする							
学習上の留意点	この科目は、1年生で学ぶ解剖学、生理学、微生物学、臨床薬理、2年次前期の成人看護学方法論Ⅰの中の「周手術期の看護」と関連が大きい。学んだ学習内容を復習しながら学習に臨むこと							

授業科目	病態治療論VI (精神領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	大坪 天平
		開講時期	前期	時間数	8時間・ 30時間		
科目目標	精神、母性、小児、新生児における主要疾患の病態生理、原因、誘因、症状と経過、検査および治療について学ぶ						
学習目標	精神領域の主な疾患の病態生理、症状、検査・処置を学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	精神総論 1) 精神疾患の分類・診断基準 2) 患者に対する基本要素 3) 精神現在形の診察 4) 心理検査 5) 精神療法						講義
2	精神各論 1) 統合失調症のスペクトラム障害 ① 診断基準 ② 病型分類 ③ 治療						講義
3	気分障害 1) 抑うつ障害群 2) 双極性障害および関連障害群 3) 不安症/不安障害 4) 強迫症/強迫症障害 5) 心的外傷およびストレス因関連障害 6) 身体症状症 7) 食行動障害/摂食障害 8) 神経認知障害 9) せん妄 ① せん妄と認証の識別 ② 予防と治療						講義
4	認知症、発達障害、器質性神経障害、物質誘発性精神障害 病態生理、治療						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院						
評価	16回目に本科目の他領域と合わせて、終講時試験を行う。100点中25点の配点とする						
学習上の留意点	精神看護概論や方法論とともに、精神看護の基礎となります						

授業科目	病態治療論VI (母性領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	川道 弥生 立花 康成 森田 吉洋 上野 麻理子
		開講時期	前期	時間数	8時間・ 30時間		
科目目標	精神、母性、小児、新生児における主要疾患の病態生理、原因、誘因、症状と経過、検査および治療について学ぶ						
学習目標	母性領域の主な疾患の病態生理、症状、検査・処置を学ぶ						
回数	内容						授業形態
5①	妊娠経過について 1) 母体の生理学的変化 ①循環器 ②血液 ③消化器 ④呼吸器 ⑤腎・泌尿器 ⑥内分泌 ⑦代謝 2) 流産について ①流産の病態 ②流産の症状・治療						講義
6②	妊娠経過について 1) 分娩の分類 2) 分娩の三要素 ①娩出力 ②産道 ③娩出物 3) 分娩の進行 ①分娩第1期 ②分娩第Ⅱ期 ③分娩第Ⅲ期 ④分娩第Ⅳ期						講義
7③	異常分娩について 1) 分娩時の異常 ①原因、影響、治療、対応 2) 児娩出後の異常 ①産科ショック ②播種性血管内凝固						講義
8④	分娩による胎児への影響 1) 分娩による胎児への変化						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院						
評価	16回目に本科目の他領域と合わせて、終講時試験を行う。100点中25点の配点とする						
学習上の留意点	母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱの母性看護につながる学習になります						

授業科目	病態治療論Ⅵ (小児領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	鈴木 恵子 安田 祐希 萩原 幸世 大谷 智子 鈴木 悠
	開講時期	前期	時間数	10時間・ 30時間			
科目目標	精神、母性、小児、新生児における主要疾患の病態生理、原因、誘因、症状と経過、検査および治療について学ぶ						
学習目標	小児領域の主な疾患の病態生理、症状、検査・処置を学ぶ						
回数	内容						授業形態
9①	小児アレルギー疾患 1) 気管支喘息 2) 食物アレルギー 血液疾患 1) フォンウイルブランド病 2) 血友病 川崎病						講義
10②	染色体異常 1) ダウン症候群 2) 18トリソミー 3) 13トリソミー 4) ターナー症候群 5) クラインフェルター症候群 小児の消化器疾患 1) 横隔膜ヘルニア 2) 先天性食道閉鎖症 3) 肥厚性幽門狭窄症 4) Hischsprung病 5) 腸重積症 6) 胆道閉鎖症 7) クロウン病 8) 外鼠径ヘルニア 9) 臍ヘルニア						講義
11③	感染症 1) ウイルス性感染 2) 細菌感染 呼吸器 1) 上気道感染 2) 気管支炎						講義
12④	代謝性疾患・内分泌疾患 小児の腎泌尿器および生殖器疾患 1) 尿道下裂 2) 急性糸球体腎炎 3) 尿路感染症 4) ネフローゼ症候群 5) 神経芽腫 固形腫瘍 1) ウイルス腫瘍 2) 神経芽腫						講義
13⑤	神経疾患 1) 痙攣 2) 髄膜炎 3) 急性脳炎 4) 急性脳症 5) 神経皮膚症候群 6) 脳性麻痺 7) 筋ジストロフィー 8) ミオパチー 9) ミトコンドリア脳症 10) 精神遅滞 11) 自閉スペクトラム症 12) ADHD 運動器疾患						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 小児看護学② 小児臨床看護各論 医学書院						
評価	16回目に本科目の他領域と合わせて、終講時試験を行う。100点中25点の配点とする						
学習上の留意点	小児看護学方法論Ⅱで行う健康障害の子どもの看護につながる学習になります						

授業科目	病態治療論VI (新生児領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	山田 洋輔
		開講時期	前期	時間数	4時間・ 30時間		溝上 雅恵
科目目標	精神、母性、小児、新生児における主要疾患の病態生理、原因、誘因、症状と経過、検査および治療について学ぶ						
学習目標	新生児領域の主な疾患の病態生理、症状、検査・処置を学ぶ						
回数	内容						授業形態
14①	<p>新生児の感染症</p> <p>1) 感染経路</p> <p>2) 特徴的な症状</p> <p>3) おもな感染症</p> <p>①GBS ②ブドウ球菌 ③MRSA ④新生児結膜炎 ⑤TORCH</p> <p>4) B型肝炎母子感染予防</p> <p>新生児の黄疸</p> <p>1) 周産期母子医療センターについて</p> <p>2) 生理的黄疸</p> <p>3) 病的黄疸</p> <p>4) 黄疸の治療</p> <p>①光線療法 ②交換輸血 ③ガンマグロブリン療法</p>						講義
15②	<p>早産児について</p> <p>1) 在胎期間による分類</p> <p>2) IURRの定義</p> <p>3) 新生児の蘇生プログラム</p> <p>新生児の呼吸障害</p> <p>1) 肺の解剖生理発達</p> <p>2) 呼吸障害の症状</p> <p>3) 喘鳴の鑑別</p>						講義
16	終講時試験						講義
使用テキスト	系統看護学講座 小児看護学② 小児臨床看護各論 医学書院						
評価	16回目に本科目の他領域と合わせて、終講時試験を行う。100点中25点の配点とする						
学習上の留意点	母性看護学方法論、小児看護学方法論の新生児の看護につながる学習になります						

授業科目	病態治療論Ⅵ (リハビリテーション領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	降矢 芳子 倉田 典和 川瀬 義隆		
		開講時期	前期	時間数	6時間・ 30時間				
科目目標	リハビリテーションについて、看護に必要な基礎知識を理解する								
学習目標	リハビリテーションの種類、特徴について理解できる								
回数	内容						授業形態		
1	リハビリテーション総論 1)リハビリテーションの対象 2)リハビリテーションの分類 3)リハビリテーションの看護の定義 運動器系の障害とリハビリテーション看護 1)運動器疾患の動向 2)ロコモーションチェック 3)骨の構造・機能 4)筋の形態と機能 5)末梢神経の形態と機能 6)骨折について ①分類 ②症状 ③合併症 7)末梢神経障害 8)関節拘縮						 講義 講義		
2	高齢者の骨折 関節リウマチ 1)関節リウマチの診断基準 2)関節リウマチの薬物療法 3)運動療法 4)作業療法						 講義		
3	心臓リハビリテーション 呼吸器リハビリテーション						 講義		
16	終講時試験								
使用テキスト		系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院							
評価		16回目に本科目の他領域と合わせて、終講時試験を行う。100点中25点の配点とする							
学習上の留意点		看護に必要なリハビリテーションの基本的知識を学習する。疾患や看護技術と関連させて学習してほしい							

授業科目	病態治療論VI (救急領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	庄古 知久
		開講時期	前期	時間数	6時間・30時間		
科目目標	救急医療について、看護に必要な基礎知識を理解する						
学習目標	救急医療の基礎的知識について学ぶ						
回数	内容						授業形態
4①	救急医療の概要と基本的知識 1) 我が国の救急医療体制、救急医療と法的倫理的側面 2) 呼吸器系の症状 3) 循環器系の症状 4) 消化器系の症状 5) 泌尿器系・生殖器系の症状 6) 筋骨格筋系の症状 7) 内分泌系の症状 8) 精神状態の症状 意識障害・失神・ショック・窒息 9) 救急処置 ①BLS ②成人二次救急処置アルゴリズム ③心肺蘇生ガイドライン						講義
5②	我が国の救急医療体制、法的倫理側面 1) インフォームド・コンセント 2) アドボカシー 3) DNAR 4) 患者の観察とアセスメント 5) トリアージ						講義
6③	意識障害時の処置 1) 意識障害時の対応 2) 呼吸障害時の対応 3) ショック・循環障害時の対応 4) 急性腹症の対応 5) 体液・代謝障害への対応 6) 外傷 7) 熱傷 8) 溺水 9) 精神症状 10) 脳死状態への対応 11) 救急時に使用される薬品 カテコラミン、アドレナリン、ノルアドレナリン、ドパミン、ドブタミン など						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院						
評価	16回目に本科目の他領域と合わせて、終講時試験を行う。100点中25点の配点とする						
学習上の留意点	1年次の臨床看護総論Ⅱで学んだBLSと、3年次の看護の統合と実践Ⅱで学ぶ災害看護と関連させて学習してください						

授業科目	病態治療論VI (臨床検査領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	加藤 博之
		開講時期	前期	時間数	6時間・ 30時間		
科目目標	臨床検査について、看護に必要な基礎知識を理解する						
学習目標	臨床検査の基礎的知識について学ぶ						
回数	内容						授業形態
7①	臨床検査の基礎 1) 臨床検査とその役割 2) 臨床検査の種類 3) 臨床検査の場面と目的 4) 臨床検査結果の評価						講義
8②	主な臨床検査① 1) 臨床検査の流れと看護師の役割 2) 一般検査 3) 血液学検査						講義
9③	主な臨床検査② 1) 化学検査 2) 免疫、血清検査 3) 内分泌的検査 4) 微生物学検査 5) 病理検査 6) 生体検査						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院						
評価	16回目に本科目の他領域と合わせて、終講時試験を行う。100点中25点の配点とする						
学習上の留意点	患者の身体状況を把握するために重要な学習内容です。基礎看護学(検査)の単元や各病態治療論と関連させて学習してください						

授業科目	病態治療論VI (放射線科領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師
		開講時期	前期	時間数	6時間・30時間	
科目目標	放射線科について、看護に必要な基礎知識を理解する					
学習目標	放射線診断、治療の基本的知識について学ぶ					
回数	内容					授業形態
10①	放射線帷幄の成り立ちと意義 1)放射線とは					講義
11②	画像診断 1)画像診断と看護 2)レントゲン検査 3)CTとは 4)造影剤とは 5)MRIとは 6)超音波検査 7)血管造影 8)IVR 9)核医学検査					講義
12③	放射線治療 1)放射線治療総論 2)放射線医療各論 3)放射線防護					講義
16	終講時試験					
使用テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院					
評価	16回目に本科目の他領域と合わせて、終講時試験を行う。100点中25点の配点とする					
学習上の留意点	病態治療論で学習する疾患と関連させて学習してください					

授業科目	病態治療論VI (臨床工学領域)	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	川名 由浩
		開講時期	前期	時間数	6時間・ 30時間		
科目目標	臨床工学について、看護に必要な基礎知識を理解する						
学習目標	臨床工学の基本的知識について学ぶ						
回数	内容						授業形態
13①	看護に必要なME機器の基本的知識 1)放射線とは 2)ME機器の安全な使用について 3)血圧計(非観血、観血的) 4)体温計						講義
14②	看護に必要なME機器の基本的知識 5)輸液ポンプ 6)12誘導心電図 7)心電図モニター 8)除細動器						講義
15③	看護に必要なME機器の基本的知識 9)低圧持続吸引器 10)人工呼吸器 11)電気メス						講義
16	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 臨床看護総論(第6章 医療機器の原理と実際) 医学書院						
評価	16回目に本科目の他領域と合わせて、終講時試験を行う。100点中25点の配点とする						
学習上の留意点	全ての領域と関連させて学習してください						

授業科目	医療倫理	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師
		開講時期	後期	時間数	15時間	三浦 靖彦 秋谷 直子・荒木田真子 斉藤 静香・金内 和明
科目目標	人間尊重を基盤とした医療倫理の在り方について学び、倫理観を養う					
学習目標	1. 患者の権利と医療倫理を学ぶ 2. 医療と生命倫理を学ぶ 3. 現代医療を取り巻く諸問題と医療倫理を学ぶ 4. さまざまな看護盤面における倫理を学ぶ					
回数	内容					授業形態
1	医療倫理を学ぶ (担当:三浦) 倫理とは 患者の権利と医療倫理 現代医療を取り巻く諸問題					講義
2	チーム医療と生命倫理 (担当:三浦)					講義
3	急性期医療における医療倫理 (担当:斉藤) 救命救急と救命看護					講義
4	生体移植と医療倫理 (担当:荒木田) 脳死と臓器提供 手術看護と医療倫理					講義
5	周産期医療と医療倫理 (担当:秋谷) 母性看護と倫理					講義
6	精神領域と医療倫理 (担当:金内)					講義
7	がん治療・終末期と医療倫理 (担当:金内)					講義
8	レポート					
使用テキスト	指定なし 適宜資料配布					
評価	授業の参加度、各時限のレポート等、総合的に評価する					
学習上の留意点	医療人として持つべき倫理についての知識、看護実践のベースとなる考え方を学ぶ 日頃の生活から、倫理観を養うことを意識してほしい					

授業科目	公衆衛生学	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師
		開講時期	後期	時間数	30時間	
科目目標	公衆衛生に関連する統計情報、公衆衛生活動の現状を学ぶ 公衆衛生領域における健康教育の重要性を理解し、その活動の概要について学ぶ					堤 亜樹子・櫻谷あすか 竹原 祥子・中島 範宏 秋山 千里・宮山 貴光 専任教員
学習目標	1. 公衆衛生に関連する統計情報を学ぶ 2. 公衆衛生活動の現状を知る 3. 健康教育の重要性活動の概要を知ることができる					
回数	内容					授業形態
1	公衆衛生と健康の概念 (担当:竹原)					講義
2	人口統計と保健統計 (担当:櫻谷)					講義
3	1)人口動態・静態統計					講義
4	人口統計と保健統計 (担当:櫻谷)					講義
5	2)疾病・障害分類					講義
6	主要疾患の疫学、研究手法としての疫学 (担当:櫻谷)					講義
7	地域保健 (担当:中島)					講義
8	母子保健 (担当:杉山)					講義
9	学校保健 (担当:堤)					講義
10	予防接種・感染症対策 (担当:櫻谷)					講義
11	成人・老年保健 (担当:櫻谷)					講義
12	疾患対策・難病保健 (担当:櫻谷)					講義
13	(がん、難病、腎疾患、リウマチ、アレルギー、臓器移植)					講義
14	精神保健 (担当:秋山)					講義
15	環境保健 (担当:宮山)					講義
16	産業保健 (担当:堤)					講義
17	公衆衛生学演習 (担当:竹原)					演習
18	終講時試験					
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生 医学書院、国民衛生の動向 最新版 厚生統計協会					
評価	終講時試験(筆記試験)を基本総合的に評価する					
学習上の留意点	病気を持つ人も健康な人も公衆衛生が重要であることから、公衆衛生を身近なものとして捉えることができる。人々の健康のために公衆衛生の大切さを知り、良い社会への実現に向けて公衆衛生が重要であることを学ぶ					

授業科目	社会福祉	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	東海林 礼子
		開講時期	後期	時間数	30時間		
科目目標	社会保障及び社会福祉についての認識を深めてその内容を理解し、保健・医療・福祉の連携の意義について学ぶ						
学習目標	1. 社会保障制度と社会福祉の概要を理解し、具体的な保障内容を学ぶ 2. 所得保障制度を理解し、年金制度、社会手当、労働保険について学ぶ 3. 貧困や低所得者問題に対応する公的扶助制度を理解する 4. 高齢者福祉、障害者福祉、児童家族福祉の実態と、その施策を学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	社会保障制度の概要 1) 社会保障の概要 目的・機能・体系・内容・給付費 2) 社会福祉の概要と実施体制 主要8法の法構造と組織及び機関 3) 社会福祉の担い手 資格取得専門職、地域住民、ボランティア 等						講義
2	現代社会の生活変容と社会保険・社会福祉の動向 1) 生活変容 人口・家族・地域社会・経済/雇用状況 2) 動向 医療介護総合保健推進法→地域医療構想→地域包括ケアへ						講義
3	公的扶助(生活保護法)① 目的・3原則(保護の基準と但し書)						講義
4	公的扶助(生活保護法)② 4原則(申請・程度・即応・単位)						講義
5	公的扶助(生活保護法)③ 居住保護(8扶助)・施設保護(5施設)						講義
6	社会手当と低所得者対策 社会手当・公営住宅・生活福祉資金貸与 生活困窮者自立支援制度・障害者関連						講義
7	児童家庭福祉 子どもの人権と関連法、子育て支援と次世代育成支援対策 ひとり親家庭の支援、母子の健康水準の向上 小児慢性特定疾病 等						講義
8	障害児・社会福祉 児童・身体・知的・発達・精神各法の概要 障害者総合支援法 差別解決対策						講義
9	高齢者福祉 老人福祉法と関連施策 認知症者支援対策 後見制度 介護保険制度						講義
10	虐待対策 配偶者・児童・障害者・高齢者の特徴と留意点						講義
11	医療保障制度① 類型 我が国の特徴 国民医療費の動向						講義
12	医療保障制度② 保険者・被保険者 給付の種類とその内容 診療報酬 保険診療のしくみ 公的負担医療(自立支援医療・ 難病対策/前掲:障害者総合支援法)						講義
13	労働保険制度 労災保険 保険者・被保険者 給付内容 雇用保険 保険者・被保険者 給付内容						講義
14	所得保障制度 年金保険 保険者・被保険者 給付内容						講義
15	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 社会保障・社会福祉 医学書院						
評価	筆記試験・レポート・授業の参加度等で総合的に評価する						
学習上の留意点	事前に授業内容を予習し授業に参加すること						

授業科目	医療保障制度	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	大塚 亮子
		開講時期	後期	時間数	15時間		
科目目標	医療保障制度の概念を理解し、我が国の制度とその諸問題について学ぶ						
学習目標	1. 医療保険の種類とその対象者、特徴を理解する 2. 社会的支援を要する患者に対する医療機関としての役割を学ぶ 3. 療養先の選択と退院支援について理解する 4. 社会福祉実践と医療・看護との連携を学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	医療保険制度の沿革 1) 我が国の医療保障制度の特徴 2) 保健給付と利用者負担・・・高額医療費、現金給付 3) 保険診療の仕組み・・・診療報酬・薬価基準						講義
2	児童虐待支援と医療機関の役割 1) 虐待の種類・特徴・児童虐待防止法についての 2) 妊娠期からはじまる児童虐待予防の取り組み						講義
3	児童虐待支援と医療機関の役割 1) DVについて 2) 関係機関・医療機関としての役割						講義
4	介護保険制度 1) 介護保険制度が生まれた社会背景 2) 申請からサービス利用までの流れ 3) 各種在宅サービス・施設サービス						講義
5	医療機関の種類と療養場所の選択について 1) 地域包括ケアシステムについて 2) ACP(アドバンス・ケア・プランニング)の紹介						講義
6	療養場所の選択と地域連携について 1) 医療機関の種類とその役割 2) 退院支援・他職種連携について						講義
7	障害者福祉と医療との関係・生活保護について 1) 障害者総合支援法と各種障害者手帳について 2) 生活保護の制度、申請から理由までの流れ						講義
8	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉 医学書院						
評価	筆記試験・レポート・授業の参加度等で総合的に評価する						
学習上の留意点	事前に授業内容を予習し授業に出席すること。他の科目(関係法規、社会福祉、老年看護学、小児看護学、母性看護学、在宅看護論など)関連付けて学習するとよい						

授業科目	関係法規	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	中島 範宏
		開講時期	後期	時間数	30時間		
科目目標	法律を通じて、看護師の業務と責任および患者の権利について理解する						
学習目標	1. 他職種との比較を通じて看護師の業務の特徴を説明できる 2. 看護師の仕事に伴う業務について説明できる 3. 患者の権利について、その法的根拠を説明できる 4. 複数の法律の相互関係について理解し、説明できる						
回数	内容						授業形態
1	法の概念 法の種類を知り、憲法の理解を通じて人権を学ぶ						講義
2	医療と基本的人権 インフォームド・コンセントを中心に、医療と人権の関係を学ぶ						講義
3	保健師助産師看護師法 看護師免許の要件や欠格事項、診療の補助と療養上の世話について理解する						講義
4	医師法・歯科医師法・薬剤師法 看護師に禁止されている医師、歯科医師、薬剤師の業務について学ぶ						講義
5	その他のコメディカル法 診療放射線技師・理学療法士などの他職種の業務について学ぶ						講義
6	医療法① 医療法の目的を理解し、医療計画の内容について学ぶ						講義
7	医療法② 医療機関の種類や機能、管理者の要件、病床基準等について学ぶ						講義
8	診療情報と個人情報保護/臓器医療に関する法律 前半は診療情報の種類と個人情報を取り扱い、後半は脳死や臓器移植法について学ぶ						講義
9	薬務法 医薬品医療機器等法などを学習し、医薬品の管理や届出について学ぶ						講義
10	医療過誤と関連法 重要判例や医療事故調査制度について学ぶ。各法の目的と看護師の責任を学ぶ						講義
11	労働関連法 労働基準法、育児介護休業法などを学習し、働く女性の権利について学ぶ						講義
12	保健関連法 各種分野別の保健関連法について学習し、保健活動の意義を理解する						講義
13	社会保険と福祉に関する法律 社会保険、生活保護、児童福祉等の法律を学び社会保障の意味を理解する						講義
14	全体のまとめ 1～13回までの講義と総復習を行う						講義
15	終講時試験と解説 試験を行い、最後に試験問題について解説する						
使用テキスト	森山幹夫. 看護関係法令(第52版). 医学書院. 2020年2月.						
評価	授業の参加度、筆記試験等で総合的に評価する						
学習上の留意点	関係法規の講義で扱う範囲は非常に広いため、難しいと感じたり、覚えきれないと思ってしまうこともあるでしょう。しかし、各法律は無関係に存在しているわけではなく、互いに補い合ったり、対応関係にあったりします。理解すべきポイントは講義内で繰り返し指摘しますので、習った知識を構造化するためにしっかり復習しましょう						

専門分野 I
基礎看護学 科目構造



14単位
(510時間)

授業科目	基礎看護学概論	対象学年	1年	単位数	2単位	担当講師	専任教員
		開講時期	前期	時間数	45時間		
科目目標	看護学を支える主要概念を理解し、看護とは何かを探求していく姿勢を培い、これから学ぶ看護学の基礎とする						
学習目標	1. 看護の本質を理解し、総合保健医療体系の中で看護の概念を明確にする 2. 看護の対象としての人間を身体的・心理的・社会的統一体として理解する 3. 人間のライフサイクルにおける健康の意義について理解する 4. 保健医療福祉チームにおける看護の役割について理解し、看護活動のあり方を理解する 5. 看護の歴史を通して、現在の看護の位置づけおよび諸問題を理解する						
回数	内容						授業形態
1・2	看護の概念と定義						講義
3・4	看護学を構成する主要概念 1)人間 2)環境 3)健康 4)看護 看護の対象 1)看護の対象としての人間の理解 2)複雑・多面的な統合体としての存在 ・生物学、生活者、成長発達する、独自の欲求を持つ、心理社会的存在 ・マズローの基本的欲求の階層						講義
5・6	人間と環境 1)環境の理解： 自然環境、社会的環境、内部環境 2)看護と環境						講義
7・8	人間と健康 1)健康の概念 2)保健・受診行動 3)ストレスと健康						講義
9～11	看護の変遷 1)看護の歴史の変遷 2)看護教育制度の変遷						講義
12・13	看護の機能と看護活動 1)看護とは何か 2)看護の対象 3)看護活動の実践の場 4)看護に関連する諸制度 5)看護活動の特性と機能 6)看護専門職のあり方						講義
14・15	看護管理 1)看護管理とは 2)看護管理を学ぶ意味 3)看護管理の目的 4)看護部門の基本的成り立ちと役割 5)看護管理の今日的課題						講義
16～18	看護倫理 1)基本的人権の尊重 2)現代医療と倫理 3)看護職に求められる倫理 4)事例						講義
19～21	主要看護理論 1)ヘンダーソン 2)ナイチンゲール 3)オーランド 等						講義
22	ケーススタディ発表会						聴講
23	終講時試験						
使用テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学① 看護学概論 メヂカルフレンド社 ヘンダーソン：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会. ナイチンゲール：看護覚え書き，本当の看護とそうでない看護，日本看護協会出版会. 看護倫理20の理解と実践への応用，南江堂.						
評価	筆記試験、レポートで総合的に評価する						
学習上の留意点	看護学の基礎となる科目です。ここでは、看護学の全体像を概観し、看護の主要概念や歴史的背景・現在の看護の役割や機能等を学びます						

授業科目	基礎看護技術 I-1	対象学年	1年	単位数	2単位	担当講師	専任教員
		開講時期	前期	時間数	45時間/ 75時間		
科目目標	看護を実践する上で基本となる共通技術についての基礎的知識・技術・態度を学ぶ						
学習目標	1. 看護技術の学び方について理解する 2. 対象とのコミュニケーションに必要な基本的態度と方法を理解する 3. 看護活動における記録の重要性・管理及び報告の必要性、方法について理解する 4. 感染予防の技術を習得できる 5. 安全確保の技術の基本知識を身につけることができる 6. 看護における教育的機能について理解する 7. 指導技術の基本を理解する						
回数	内容						授業形態
1	(技術とは) 技術の一般概念 看護技術とは何か、看護技術における倫理、看護技術と安全 看護技術と対人関係、看護技術の学び方						講義
2①	(コミュニケーション) コミュニケーションの意義と目的、コミュニケーションの構成要素						講義
3②	コミュニケーションの基本						講義・演習
4③	コミュニケーション障害がある人への対応						講義
5④	情報収集の技術①						講義・演習
6⑤	情報収集の技術②						講義・演習
7①	(記録・報告) 看護記録						講義
8②	報告						講義
9①	(安全) 医療安全を学ぶことの大切さ 看護における安全とは/安全における看護の役割 安全を守るための取り組み 1) 感染予防 2) 安全を阻害する因子と医療事故防止の取り組み						講義
10②	感染防止の技術 感染防止の基本・基礎知識 標準予防策、手指衛生						講義

授業科目	基礎看護技術 I -1	対象学年	1年	単位数	2単位	担当講師	専任教員
		開講時期	前期	時間数	45時間/ 75時間		
回数	内容						授業形態
11③	演習①: 衛生的手洗い						演習
12④	個人防護用具の取り扱い、医療廃棄物の取り扱い						講義
13⑤	演習②: 個人防護用具の取り扱いと廃棄方法						演習
14⑥	感染経路別対策						講義
15⑦	洗浄・消毒・滅菌						講義
16⑧	無菌操作、カテーテル関連血流感染対策、針刺し防止策						講義
17⑨	演習③: 無菌操作、滅菌手袋						演習
18⑩	安全確保の技術 安全確保の基礎知識 誤薬防止、チューブ類の予定外抜去、患者誤認防止						講義
19⑪	転倒・転落防止、薬剤・放射線曝露の防止						講義
20①	(指導技術) 看護における学習支援の目的と意義						講義・GW
21②	家庭・学校・職場・地域社会等さまざまな場での学習のあり方						講義・GW
22③	健康状態の変化に伴う学習支援 事例を基にした学習支援の実際						講義・GW
23	終講時試験						
使用テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I メヂカルフレンド社 参考テキスト: 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II 医学書院						
評価	筆記試験、授業・演習の参加度、グループワーク、提出物等を総合的に評価をする						
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の演習、実習に欠かすことのできない知識・技術であり、演習に臨む基礎的態度を養う場として欲しい ・日常の医療現場としての、また無菌操作上の「清潔」・「不潔」の考え方を養う場として欲しい ・学習支援への看護技術は自らを振り返りながら学んでほしい 						

授業科目	基礎看護技術 I-2	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	前期	時間数	30時間/ 75時間		
科目目標	看護を実践する上で基本となる共通技術についての基礎的知識・技術・態度を学ぶ						
学習目標	1. ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーションが何かを学ぶ 2. バイタルサインの意義、方法及びアセスメントについて学ぶ 3. 身体計測の意義と方法及びアセスメントについて学ぶ 4. 全身の系統的アセスメントの意義と方法及びアセスメントについて学ぶ 5. 心理・社会的側面のアセスメント、セルフケア能力のアセスメントの意義と方法について学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	看護におけるヘルスアセスメント フィジカルアセスメントの基本① 体表解剖とフィジカルアセスメント、フィジカルアセスメントにおける基礎技術						講義
2	フィジカルアセスメントの基本② 1) 一般状態のアセスメント: バイタルサイン						講義
3	フィジカルアセスメントの基本③ 2) 一般状態のアセスメント: バイタルサイン						講義
4	フィジカルアセスメントの基本④ 3) 一般状態のアセスメント: バイタルサイン						講義
5	演習①: バイタルサインの測定 4) 一般状態のアセスメント: バイタルサイン						演習
6	フィジカルアセスメントの基本⑤ 5) 一般状態のアセスメント: 身体計測						講義
7	系統的なフィジカルアセスメント① 1) 体表面のアセスメント						講義
8	系統的なフィジカルアセスメント② 2) 呼吸器系のアセスメント						講義
9	系統的なフィジカルアセスメント③ 3) 循環器系のアセスメント						講義
10	系統的なフィジカルアセスメント 4) 腹部・消化器系、感覚器系のアセスメント						講義
11	系統的なフィジカルアセスメント 5) 脳神経、姿勢の保持、運動器系のアセスメント						講義
12・13	演習②: フィジカルアセスメント						演習
14	心理・社会的状態のアセスメント セルフケア能力のアセスメント						講義
15	終講時試験、まとめ						
使用テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I メヂカルフレンド社						
評価	筆記試験、レポート 等で総合的に評価する						
学習上の留意点	健常状態を総合的にアセスメントするためには、1つ1つの方法の根拠を理解し、正確な手技を持って情報を得る事、得た情報の意味を判断することが必要である。そのためには、看護技術のみならず、解剖学や生理学、病態治療論の知識も多く必要となる。予習、復習を積極的に行いながら受講して欲しい						

授業科目	基礎看護技術Ⅱ-1	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	前期	時間数	45時間/ 90時間		
科目目標	対象の基本的欲求を理解し、日常生活援助(環境・清潔・衣生活)の基本的知識・技術・態度を学ぶ						
学習目標	1. 対象の環境に関する欲求充足のための基本的知識・技術・態度を学ぶ 2. 清潔の意義とその援助の目的を学ぶ 3. 皮膚の仕組みと清潔のアセスメントについて学ぶ 4. 入浴、手浴、足浴、陰部洗浄、全身清拭、洗髪、口腔ケアの意義と身体への影響、及びその援助方法を学ぶ 5. 整髪、爪切りなど、患者の身だしなみを整える意義とその援助方法を学ぶ 6. 衣生活の意義を理解し、寝衣交換の方法を学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	(環境) 環境の諸要素とその調整 人と環境、療養生活と環境 看護技術と対人関係、看護技術の学び方						講義
2	病室と病床の環境調整 ベッド周囲の環境整備、室内気候						講義、演習
3	デモンストレーション①: ベッドメイキング、ベッド周囲の環境整備						講義
4・5	演習①: クローズドベッドの作成方法						演習
6	デモンストレーション②: 寝たきり患者のシーツ交換の方法						講義
7・8	演習②: 寝たきり患者のシーツ交換						演習
9①	(清潔・衣生活) 清潔の意義、シャワー浴、入浴						講義
10②	手浴、足浴、陰部洗浄						講義
11・12③④	演習③手浴、足浴						演習
13⑤	全身清拭						講義
14⑥	洗髪、整容						講義
15⑦	衣生活、寝衣交換デモンストレーション						演習
16⑧	事例に基づいた援助計画の立案						講義
17・18⑨⑩	事例に基づいた援助計画の実施(全身清拭・寝衣交換)						演習
19⑪	事例に基づいた援助計画の実施(洗髪)						演習
20⑫	事例を用いた援助計画の実施(発表準備)						演習
21・22⑬⑭	事例を用いた援助計画の実施						演習
23⑮	終講時試験						
使用テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社						
評価	筆記試験、授業・演習の参加度、グループワーク、提出物等を総合的に評価をする						
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 療養上の環境を整えることは、患者の回復過程を促進する最も基本となるものである。本講では「物理的的刺激」に焦点を当てて、快適な生活の場であると同時に、適切な治療処置を受ける場となる環境調整の基本を学ぶ 演習に臨むにあたっての基本的態度についてを養う場として欲しい 演習での患者役の意見も取り入れながら、看護技術の自己練習を重ねて欲しい 						

授業科目	基礎看護技術Ⅱ-2	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	前期	時間数	45時間/ 90時間		
科目目標	対象の基本的欲求を理解し、日常生活援助(活動・休息・安楽・食事・排泄)の基本的知識・技術・態度を学ぶ						
学習目標	1. 人間の健康な生活にとって活動と休息の意義を学ぶ 2. 活動のアセスメントについて学ぶ 3. 看護における安楽の意義を学ぶ 4. 基本的な体位の種類を例に、どのようにすれば安楽な体位を保持できるか学ぶ 5. ボディメカニクスの基本を理解し、看護の場でボディメカニクスを活用するための原則を学ぶ 6. 運動機能の低下した患者のベッド上での体位変換、車いす・ストレッチャーへの移乗、座位保持、起立動作、歩行の援助について学ぶ 7. 人間にとって最良の休息である睡眠の生理を理解し、良質な睡眠をとるための援助方法を学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	(活動・休息・安楽) 活動と休息 活動のアセスメント						講義
2	看護における安楽の意義、安楽な体位保持						講義
3	ボディメカニクスの基本 基本的活動の援助: 移動、移乗・移送						講義
4	運動機能の維持回復のための援助						演習
5	運動機能が低下した患者の援助 演習①体位変換、安楽な体位保持						演習
6	車いす、ストレッチャーへの移動の援助、歩行の援助、座位保持、起立動作						講義
7・8	演習②車いす、ストレッチャー、歩行の援助、座位保持、起立動作の援助						演習
9	睡眠の援助						講義
10①	(食事) 栄養摂取の意義としくみ 栄養摂取のアセスメント						講義
11②	患者への食事の援助						講義
12③	経腸栄養(経管栄養)						講義
13④	中心静脈栄養・末梢静脈栄養						講義
14・15 ⑤⑥	演習③食事環境と食事の介助						演習

授業科目	基礎看護技術Ⅱ-2	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	前期	時間数	45時間/ 90時間		
回数	内容						授業形態
16①	(排泄) 排泄の意義としくみ						講義
17②	排泄のアセスメント						講義
18③	排泄の援助①						講義
19④	排泄の援助②						講義
20⑤	排便障害・排尿障害のある患者の援助						講義
21⑥	排泄に関する処置						講義
22⑦	演習④： 床上排泄						演習
23	終講時試験						
使用テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社						
評価	筆記試験、授業・演習の参加度、グループワーク、提出物等を総合的に評価をする						
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・活動や食事・排泄は、個人の習慣や考え方、感じ方も異なり、プライバシーに大きく関わる部分でもある。このことを認識し学んでほしい ・患者の立場に立ち、考える姿勢を持って臨むこと 						

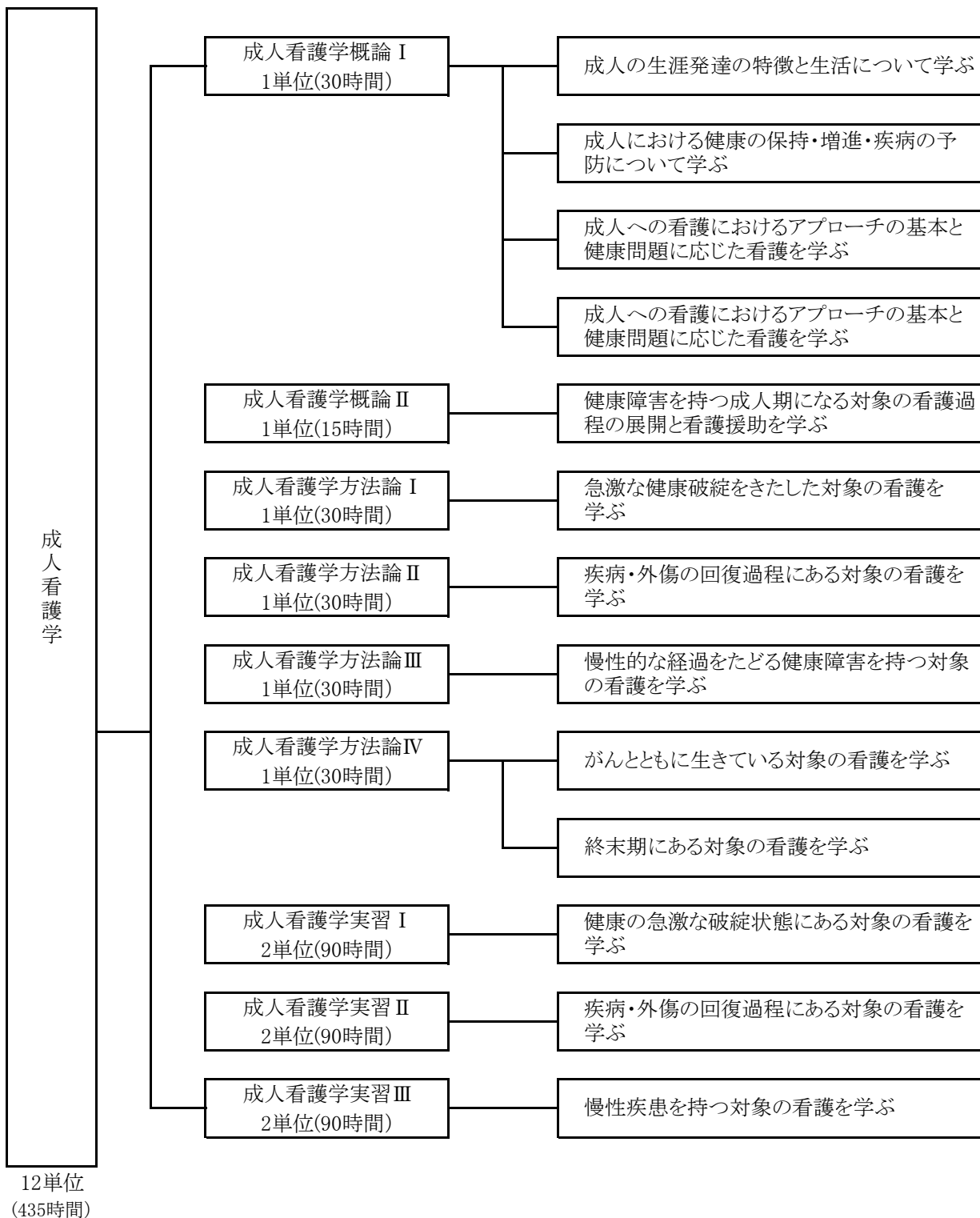
授業科目	基礎看護技術Ⅲ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	前期	時間数	45時間		
科目目標	診療の補助をする上で必要な基本的知識、技術、態度を学ぶ						
学習目標	1. 検査に伴う看護の役割を理解し、援助技術について習得できる 2. 与薬・輸血療法に伴う看護の役割を理解し、援助方法について学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	(検査) 検査に伴う看護の役割						講義
	排泄物の検査						
2	体液・組織の検査						講義
3	デモンストレーション①：静脈血採血						デモンストレーション
4.5	演習①：静脈血採血						演習
6.7	生体検査						講義
8	洗浄						講義
9①	(与薬と輸血) 与薬に関する基礎知識 薬物療法の理解、看護師の役割、薬物療法を受ける患者の援助						講義
10②	経口与薬法						講義
11③	外用薬の皮膚・粘膜適用						講義
12④	注射法 基礎知識、皮下注射						講義
13⑤	注射法 皮内注射、筋肉内注射						講義
14⑥	注射法 静脈内注射						講義
15⑦	注射法 点滴静脈内注射、輸液ポンプ						講義
16⑧	輸血療法						講義
17⑨	デモンストレーション②：点滴静脈内注射						デモンストレーション
18・19⑩⑪	演習②：点滴静脈内注射						演習
20⑫	デモンストレーション③：筋肉内注射、皮下注射						デモンストレーション
21⑬	演習③：筋肉内注射						演習
22 ⑭	演習④：皮下注射						演習
23	終講時試験						
使用テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院 江口正信 他編：検察早わかりガイド 第3版 サイオ出版 今日の治療薬 解説と便覧 2020 南江堂						
評価	筆記試験、授業の参加度、提出物等を総合的に評価をする						
学習上の留意点	・既習の解剖生理の知識、感染予防の技術が必要になるため復習をして臨んでほしい						

授業科目	基礎看護技術Ⅳ	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	専任教員
		開講時期	後期	時間数	30時間/ 75時間		
科目目標	看護を実践する上で基本となる看護過程についての基礎的知識・技術・態度を習得する						
学習目標	1. 看護過程の基になる考え方、看護過程と看護理論の関係について学ぶ 2. 看護過程の各段階について学ぶ 3. 看護過程の展開を事例を通して学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	看護過程とは 看護過程の変遷						講義
2.3.4	アセスメント						講義
5	関連図						講義
6	看護上の問題の特定(看護診断)						講義
7	計画						講義
8	実施						講義
9	評価						講義
10～13	事例展開						講義
14	まとめ						講義
15	終講時試験						講義
使用テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社						
評価	筆記試験、提出物 等で総合的に評価する						
学習上の留意点	ここまで学んできた病態生理学や薬理学の知識も活用しながら、看護の思考過程を学ぶ。課題も多くあるが、今後の看護学へつながる重要な科目であるため、自主性を持って受講してほしい						

授業科目	臨床看護総論	対象学年	1年	単位数	2単位	担当講師	専任教員
		開講時期	後期	時間数	60時間		
科目目標	看護を実践する上で基本となる症状、治療・処置における基礎的知識・技術・態度を習得する						
学習目標	1. 主要症状のある患者の看護を学ぶ 2. 治療・処置を受ける患者の看護が理解できる 3. 診療の補助技術について学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	貧血のある患者の看護						講義
2	浮腫のある患者の看護						講義
3	脱水のある患者の看護						講義
4	悪心・嘔吐のある患者の看護						講義
5・6	排尿・排便障害のある患者の看護						講義
7・8	演習①： 導尿、膀胱内カテーテルの管理						演習
9・10	演習②： グリセリン浣腸、摘便						演習
11	呼吸困難、喀痰・咳嗽のある患者の看護						講義
12	演習③： 酸素吸入療法						演習
13・14	演習④： 口腔内・鼻腔内・気管内吸引						演習
15	演習⑤： ネブライザーを用いた気道内加湿						演習
16	演習⑥： 体位ドレナージ						演習
17	中間試験						
18	経腸栄養(経管栄養)を受ける患者の看護						講義
19	演習⑦： 経鼻胃チューブの挿入						演習
20・21	演習⑧： 経鼻栄養法による流動食の注入						演習
22	救命救急処置が必要な患者の看護						講義
23・24	演習⑨： 一次救命処置(BLS)、止血法						演習
25	ME機器を使用する患者の看護						講義
26	演習⑩： ポンプ、心電図モニター						演習
27・28	皮膚・創傷処置が必要な患者の看護						講義
29	演習⑪： 包帯法						演習
30	終講時試験						
使用テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護総論 メディカルフレンド社 根拠がわかる症状別看護過程(改訂第3版) 南江堂						
評価	筆記試験、提出物 等で総合的に評価する						
学習上の留意点	身体侵襲を伴う看護技術もあり、その意識を持って臨んでほしい						

授業科目	看護研究の基礎	対象学年	2年	単位数	2単位	担当講師	東垣内 徹生
		開講時期	後期	時間数	30時間		
科目目標	看護における研究の意義, 基礎的な知識を理解し, 臨床実践能力の向上に必要な論理的思考・探求的態度を養う						
学習目標	看護研究の基礎的知識を学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	量的研究 研究の枠組み, 測定尺度						講義
2	量的研究 信頼性と妥当性						講義
3	量的研究 結果の統計処理						講義
4	量的研究 考察の注意点						講義
5~7	東京女子医科大学看護学会の参加						学会参加
8	量的研究 実験的研究と準実験的研究						講義
9	質的研究 ケーススタディ						講義
10	質的研究 帰納法的事例研究						講義
11	質的研究 M-GTA						講義
12・13	3年生 ケーススタディ発表会の参加						発表会参加
14	質的研究 メタ統合						講義
15	終講時試験						
使用テキスト	看護における研究(第2版) 南裕子・野嶋佐由美 日本看護協会出版会						
評価	講義・演習の参加状況と終講時試験、レポートから評価する						
学習上の留意点							

専門分野Ⅱ
成人看護学 科目構造



授業科目	成人看護学概論 I	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	学内教員
		開講時期	後期	時間数	30時間		
科目目標	成人期の対象の特徴と生活を理解し、成人看護におけるアプローチの基礎を理解する						
学習目標	1. 成人期の対象の特徴と生活を学ぶ 2. 成人期における健康の保持・増進・疾病の予防における看護の役割を学ぶ 3. 成人期にある対象を看護するための基本的な考え方を学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	成人看護学の対象の理解 「成人」とは、「おとな」になること/「おとな」であること						講義
2・3	成人各期の特徴 青年期の身体の特徴、青年期の心理・社会的特徴 壮年期・中年期・向老期の身体の特徴、心理・社会的特徴						講義
4・5	成人を取り巻く今日の社会・生活 仕事をめぐる状況、日常生活の状況、家族形態の変化状況、環境						講義
6	成人における健康の保持・増進・疾患の予防① 健康とは、健康観の多様化、生と死の動向、疾病構造の受療状況						講義
7・8	成人における健康の保持・増進・疾患の予防② 健康日本21 生活習慣病に関連する健康障害、職業に関連する健康障害 生活ストレスに関連する健康障害						講義
9	生活と健康をまもりはぐくむシステム 保健、医療、福祉システムの概要と連携						講義
10	ヘルスプロモーション ヘルウプロモーションとは、個人の主体的な健康づくり 集団の健康づくり、ヘルスプロモーションを促進する看護の役割						講義
11～13	成人への看護における基本的考え方 関係を結ぶ、適応を促す、発達を促進する、統合を支援する						講義
14	まとめ						
15	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会						
評価	講義、レポート、授業の参加度で総合的に評価する						
学習上の留意点	成人は、社会に生き、世代をつなぐ存在でもある。よって、変動する社会に対してアンテナを高く持ち、日頃から時事にも関心を持って関わる必要がある。また、自らも成人学習者として、経験を豊かにして主体的に学習をすすめてほしい						

授業科目	成人看護学概論Ⅱ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	学内教員
		開講時期	後期	時間数	15時間		
科目目標	健康障害を持つ成人期にたる対象の看護過程の展開、看護について学ぶ						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例の病態・症状・治療を考慮し、対象の身体・精神・社会的側面を分析する 2. 事例の生活背景、発達段階及び発達課題を踏まえて、健康障害を持つ対象の全体像を考える 3. 看護問題の優先度を考えられ、看護計画を立案できる 4. 看護援助の実施、評価、修正ができる 						
回数	内容						授業形態
1	事例学習 病態生理、症状、治療、標準看護について学習						W:ワーク 個人W 講義
2	事例学習 情報の抽出とアセスメント 情報の関連付(全体像の描写) 看護上の問題の抽出						個人W
3	事例学習 事例個人ワークについて意見交換し、看護の考えを広め深める 情報の抽出とアセスメント 情報の関連付(全体像の描写) 看護上の問題の抽出						GW:グループワーク GW 講義
4	事例学習 グループで共有した看護上の問題に対し、必要な援助を考える 看護計画の立案 解説						GW 講義
5・6	看護の実践(シミュレーション学習) 演習：観察、援助、評価、修正						演習
7	まとめ 成人学習者への看護で大切なこと セルフマネジメントを推進する看護(アドヒアランスを高めるアプローチ) 成人の生活をアセスメントし看護につなげる 様々な健康を踏まえた看護を考える						講義
使用テキスト	指定なし						
評価	個人ワーク、グループワーク、シミュレーション学習、終講時筆記試験を総合的に評価する						
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、グループで学習を進めていくため、個人kぼ人が学習課題に積極的に取り組みながら授業に参加し、グループ協力ウィ学習を進めていくことが必要となる ・成人期の特徴と看護を学習することを目的としているが、一連の学習をを丁寧に理解する事を望む 						

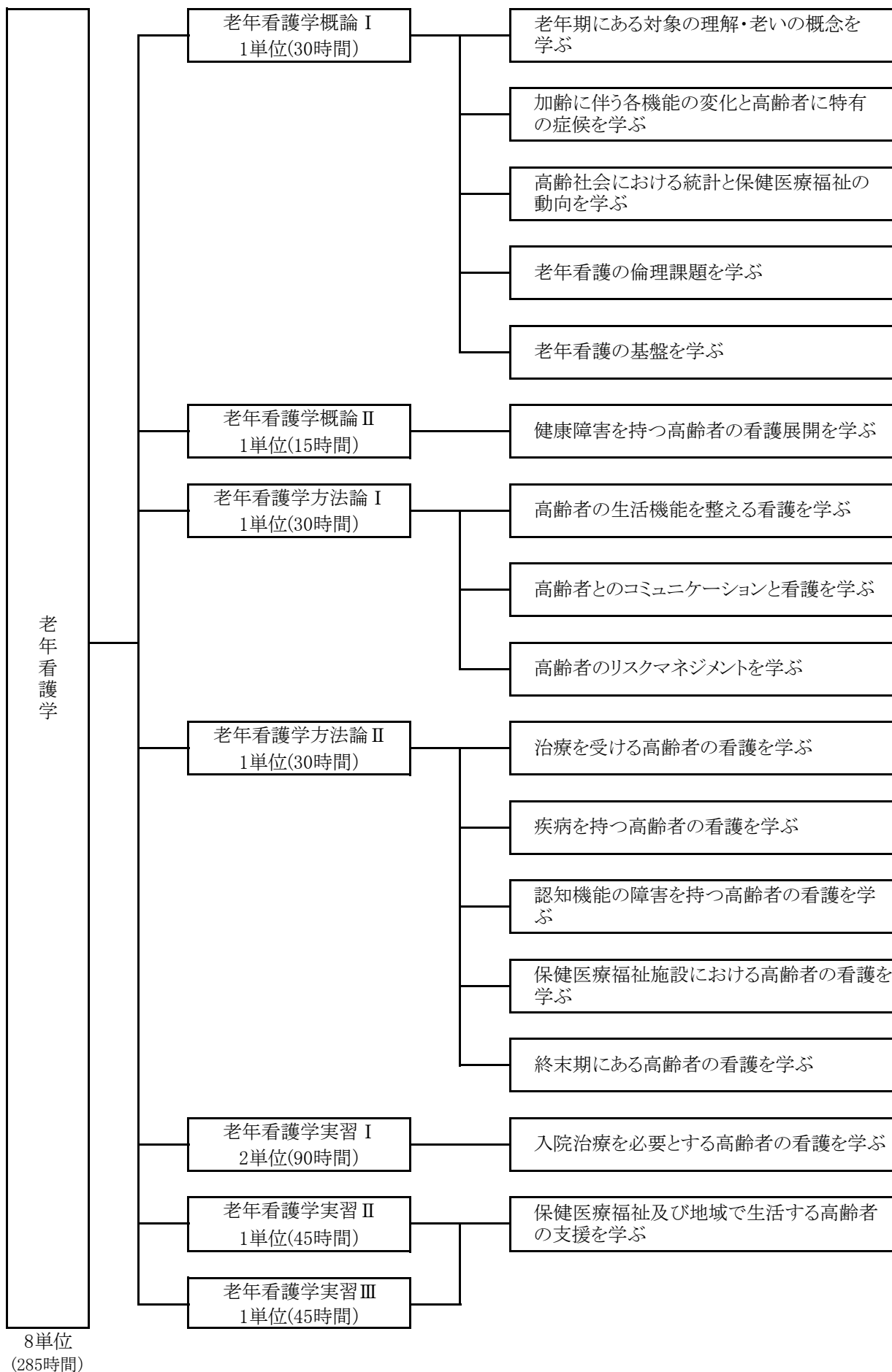
授業科目	成人看護学方法論 I	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	学内教員
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	急激な健康破綻をきたした対象の看護の基本を学ぶ						
学習目標	1. 急激な健康破綻をきたした対象の特徴と看護がわかる 2. 急激な健康破綻をきたす代表的な疾患を持つ対象の看護がわかる 3. 周手術期にある対象と看護がわかる						
回数	内容						授業形態
1	急激な健康破綻をきたす状況と、その状況に応じた看護の特徴 1) 救急看護と集中ケア看護						講義
2	生体侵襲を受けた対象の看護を理解する 1) 侵襲時の生体反応とアセスメント						講義
3	急激な健康破綻を生じる主要疾患と看護①(循環器疾患) 1) 急性冠症候群(ACS)の患者(アセスメントと看護実践)						講義
4	急激な健康破綻を生じる主要疾患と看護①(循環器疾患) 2) 心臓カテーテルを受ける患者の看護						講義
5	急激な健康破綻を生じる主要疾患と看護①(循環器疾患) 3) 心不全、不整脈、薬物療法を受ける患者の看護						講義
6	急激な健康破綻を生じる主要疾患と看護②(重症感染症) 4) 重症感染症による臓器不全と全身管理(DIC、呼吸管理 等)						講義
7・8	急激な健康破綻を生じる主要疾患と看護③(主に3次救急対応疾患) 5) 頭蓋内圧亢進症、熱傷、外傷、ショック						講義
9	周手術期看護① 手術前・当日・術中の看護(麻酔を受ける患者の看護含む)						講義
10	周手術期看護② 術直後・術後の看護						講義
11	周手術期看護③ 術後合併症のメカニズム						講義
12	周手術期看護④ 回復促進及び合併症予防の看護						講義
13	術後全身管理の実際 創傷、ドレーン管理、胸腔ドレーンの管理						講義
14	周手術期に必要な援助の実際 演習：呼吸訓練法、深部静脈血栓症予防法、創部の観察、 離床の進め方、ドレーン管理						演習
15	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学2・3・4・5・7 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 高齢者と成人の周手術期看護2 術中/術後の生体反応と急性期看護:医歯薬出版 株式会社						
評価	終講時筆記試験で評価する						
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・クリティカルな状態にある患者の看護を学ぶためには、侵襲により生体にどのような変化が生じ、どのような反応が発生するかを理解する事が必要となる ・既習学習の復習を十分に行い、急激な健康破綻をきたした対象と周手術期の対象の看護を理解できるように学習に臨むこと 						

授業科目	成人看護学方法論Ⅱ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	学内教員 石井 佳子
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	1. 疾病・外傷の回復過程にあるセルフケアの低下状態にある成人について学ぶ 2. 障害されたセルフケアの再獲得を支援する看護を学ぶ						
学習目標	1. 急性期から回復期に向かう対象の身体的、精神的、社会的特徴が理解できる。 2. セルフケア再獲得を支援する看護について理解できる 3. セルフケア再獲得を促進する看護について理解できる。						
回数	内容						授業形態
1	回復期とは 1) ガイダンス 2) 成人にとってのセルフケア再獲得 3) セルフケア低下と再獲得						講義
2	セルフケア再獲得と自立						講義
3	セルフケア低下状態のアセスメントと評価						講義
4	セルフケア再獲得を支援する看護①						講義
5	セルフケア再獲得を支援する看護② 人的システム、法的システム						講義
6・7・8	脳・神経機能障害のある患者の看護 1) 機能障害のアセスメント、症状とその看護 2) おもな疾患、治療と患者の看護						講義
9	セルフケア再獲得を目指す看護の実際 脳出血急性期、回復期、家族復帰期にある人の看護						講義
10・11	運動機能障害がある患者への看護 1) 骨格系の脊椎の運動機能障害がある患者の看護 2) 関節・筋肉の腫瘍、変形や神経に由来する運動機能障害のある患者への看護 3) 特徴的な検査を受ける患者の看護						講義
12	栄養代謝障害のある患者の看護 1) 消化吸収・排泄障害のある患者の看護 (潰瘍性大腸炎・クローン病)						講義
13	褥瘡の治療とストーマケア (13・14回目 担当:認定看護師)						講義
14	演習: ストーママーキング、ストーマのセルフケア再獲得の実施						演習
15	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学1～11 医学書院						
評価	筆記試験、レポート、授業(GW)への参加度で総合的に評価する						
学習上の留意点	認定看護師によるストーマケアの講義、演習がある。患者・看護師体験を通し、セルフケア再獲得のための支援を考えて欲しい						

授業科目	成人看護学方法論Ⅲ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	学内教員
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	慢性的な経過をたどる健康障害を持つ対象の看護の基本を学ぶ						
学習目標	1. 慢性的な経過をたどる健康障害を持つ対象の特徴と看護がわかる 2. 代表的な慢性的な経過をたどる健康障害を持つ対象の看護がわかる						
回数	内容						授業形態
1～4	開講ガイダンス 慢性的な経過をたどる健康障害を持つ対象の理解、看護の特徴 1) 慢性的な経過をたどる健康障害を持つ対象の特徴 (身体的特徴・心理的特徴・社会的特徴) 2) 慢性的な経過をたどる対象の看護の基本的考え方 3) セルフマネジメント支援						講義
5	代表的な慢性的経過をたどる健康障害を持つ患者の看護 1) 慢性閉塞性肺疾患(COPD)を有する患者の看護① 病態生理、検査・治療の理解、対象の特徴						講義
6	2) 慢性閉塞性肺疾患(COPD)を有する患者の看護② 対象のアセスメント、看護						講義
7	3) 糖尿病患者の看護① 病態生理、検査・治療の理解、対象の特徴						講義
8	4) 糖尿病患者の看護② 対象のアセスメント、看護						講義
9	5) 慢性肝炎・肝硬変患者の看護① 病態生理、検査・治療の理解、対象の特徴						講義
10	6) 慢性肝炎・肝硬変患者の看護② 対象のアセスメント、看護						講義
11	7) 慢性腎不全(CKD)患者の看護① 病態生理、検査・治療の理解、対象の特徴						講義
12	8) 慢性腎不全(CKD)患者の看護② 対象のアセスメント、看護						講義
13	9) 全身性エリテマトーデス(SLE)患者の看護						講義
14	演習： 慢性的経過をたどる健康障害を持つ対象のセルフマネジメント支援 *詳細は追って説明する						演習
15	終講時試験・まとめ						
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学1・6・8・10 医学書院						
評価	筆記試験、授業の参加度、レポート等で総合的に評価する						
学習上の留意点	「慢性期」にある成人の対象を身体的、心理的、社会的側面から理解し、看護の具体的な方法論とその考え方を学んでいく。慢性的な経過をたどる健康障害のうち、代表的な疾患を有する患者にも焦点を当て学習していく。身体面では、既習の解剖生理、病態治療論などがベースとなるので、その都度復習して臨むこと						

授業科目	成人看護学方法論Ⅳ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	学内教員 中別府多美得 吉田 有里
		開講時期	後期	時間数	30時間		
科目目標	1. がんとともに生きていく対象の看護の基礎を学ぶ 2. 終末期にある対象の看護の基礎を学ぶ						
学習目標	1. がんとともに生きていく対象の特徴とがん看護の基本がわかる 2. がん治療の特殊性とその看護がわかる 3. 緩和ケアと看護の役割がわかる 4. 死をめぐる倫理的課題がわかる 5. 終末期の特徴と看護の役割が理解できる 6. 自己の人生観・死生観を考えることができる						
回数	内容						授業形態
1	がん医療の動向						講義
2	がん患者の臨床経過						講義
3	がん患者の看護						講義
4	がん治療を受ける対象の看護 がんの手術療法、薬物療法に関する基礎知識						講義
5・6	薬物療法を受ける対象の看護（担当：中別府）						講義
7	放射線療法を受ける対象の看護						講義
8	造血幹細胞移植を受ける対象の看護（担当：吉田）						講義
9	がんの動向/治療を受ける対象の看護 まとめ						講義
10・11	緩和ケア（担当：渡邊）						講義
12・13	終末期看護（担当：渡邊） 1) 終末期にある対象の看護 2) 死をめぐる倫理的問題						講義
14	自己の人生観・死生観を考える テーマ：「今、私が思い描く人生観・死生観」 講義内レポート提出						講義
15	終講時試験・まとめ						試験
使用テキスト	系統看護学講座 別巻 がん看護/別巻 緩和ケア/別巻 臨床放射線医学 医学書院、系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学4 医学書院						
評価	筆記試験、授業の参加度、レポート等で総合的に評価する						
学習上の留意点	がんと共に生きていく対象を、全人的にとらえ、看護を提供するための幅広い知識の 基礎を学ぶとともに、自らの人生観・死生観を深める機会としてほしい。						

専門分野Ⅱ
老年看護学 科目構造



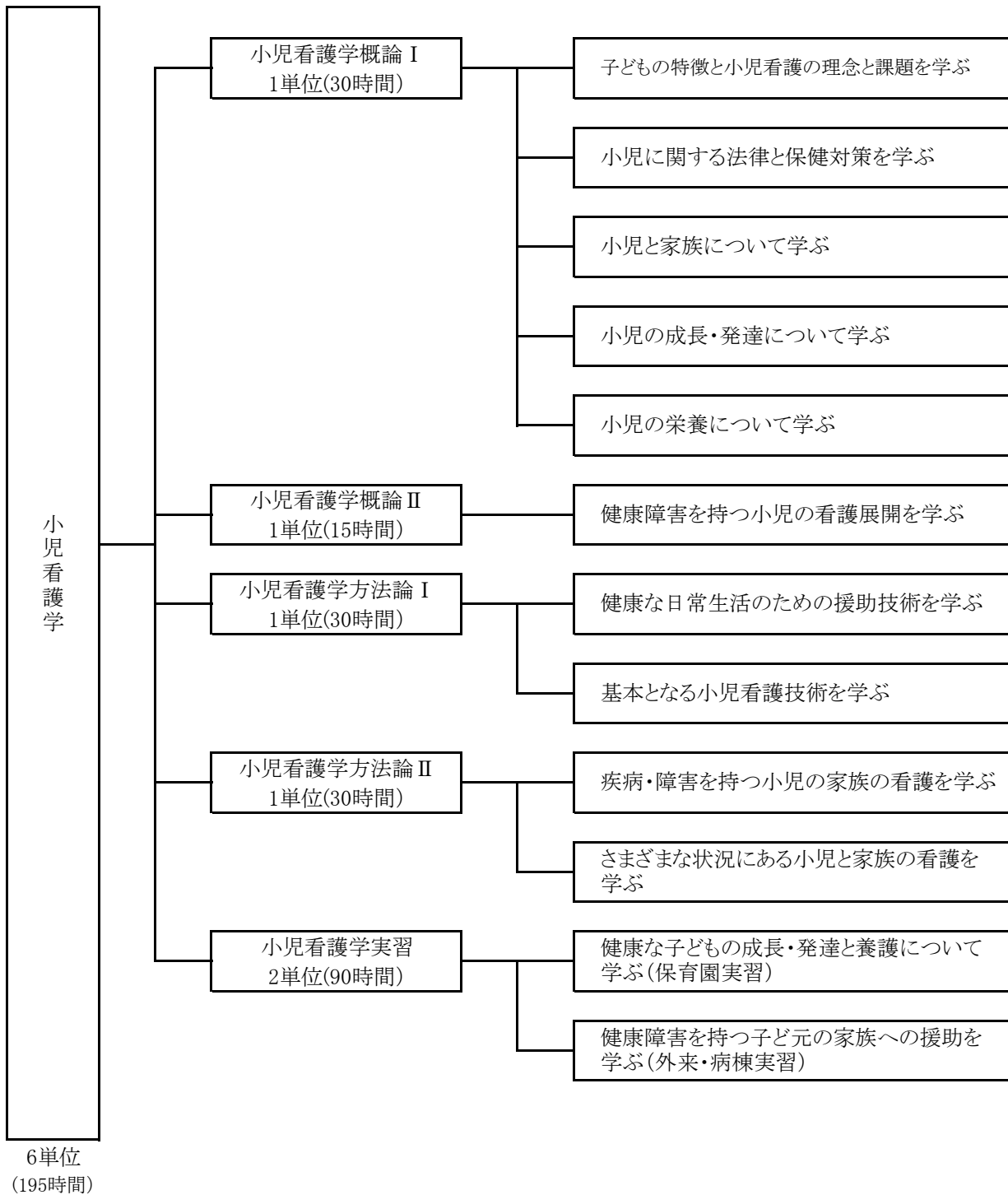
授業科目	老年看護学概論 I	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	学内教員
		開講時期	後期	時間数	30時間		
科目目標	老年期にある対象の特徴を理解し、健康の保持増進・疾病予防のために看護の役割を理解する						
学習目標	1. 老年期にある対象の特徴を学ぶ 2. 高齢社会における統計と社会保障の動きについて学ぶ 3. 老年看護の理念と原理を学ぶ 4. 高齢者権利擁護と高齢者を抱える家族への支援を学ぶ 5. 加齢に伴う各機能の変化と高齢者に特有の症状を学ぶ						
回数	内容						授業形態
1・2	老年期にある対象の理解・老いの概念 1) 老いのイメージ 2) 老いるということ 3) 老年期の発達課題 4) 老年期の身体的・心理的・社会的側面の変化 5) 高齢者体験						講義
2	老年期にある対象の理解・老いの概念 1) 高齢者の世帯 2) 健康状態 3) 死亡 4) 暮らし						講義
3・4	高齢者の統計的輪郭 1) 保健医療福祉制度 2) 介護保険制度 3) 介護保険サービス 4) 地域包括ケアシステム						講義
5・6	老年看護倫理的課題について 1) 高齢者虐待 2) 身体への拘束 3) 権利擁護のための制度 4) 高齢者を抱える家族への支援						講義
7・8	老年看護の基盤 1) 老年看護教育の発展 2) 老年看護の定義 3) 老年看護の特徴と役割 4) 老年看護に役立つ理念・概念						講義
9～11	高齢者の加齢変化とアセスメント 1) 高齢者のヘルスアセスメント 2) 皮膚 3) 視聴覚 4) 循環器系 5) 呼吸器系 6) 消化・吸収 7) ホルモン 8) 泌尿器・生殖器系 9) 運動器系						講義
12～14	高低者に特有な身体症状とアセスメント 1) 発熱 2) 痛み 3) 掻痒(かゆみ) 4) 脱水 5) 嘔吐 6) 浮腫 7) 倦怠感						講義
15	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 参考テキスト: 国民衛生の動向 厚生統計協会						
評価	終講時試験、高齢者体験レポート、グループ学習・発表、授業への参加度等で総合的に評価する						
学習上の留意点	老いとはどういうことか考え、加齢による変化やと急な症状を理解する。統計や保健医療福祉制度から高齢社会の現状を知り、高齢社会を支える制度や地域包括ケアの理解を深める。高齢者への看護はどの様にあればよいかを深く学ぶ						

授業科目	老年看護学概論Ⅱ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	学内教員
		開講時期	後期	時間数	15時間		
科目目標	健康障害を持つ高齢者の看護展開について学ぶ						
学習目標	1. 老年期の特徴を踏まえ、健康障害とその看護の方法を理解できる 2. 根拠に基づき看護を計画的に実践する必要性を理解できる						
回数	内容						授業形態
1	高齢者の看護過程に必要な視点 1) 高齢者の特徴的な身体・心理・社会的側面 2) 老年期に特徴的な疾患についての事例学習						講義 GW:グループワーク
2	情報の抽出と分析、関連付け						講義 GW
3	看護問題の抽出と看護目標の立案						講義 GW
4	看護計画の立案						講義 GW
5・6	演習：事例に基づき高齢者看護の実践						演習
7	演習のまとめ・発表						GW
8	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 医学書院 老年看護技術 アセスメントのポイントとその根拠 ヌーヴェルヒロカワ						
評価	筆記試験、レポート(記録類)、グループワークへの参加度を総合的に評価する						
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢に伴う変化や疾患が高齢者の生活に与える影響を捉える ・個別性や多様性のある高齢者の自立や生活支援を考える ・マイナス面だけでなく、プラス面へ向けた介入を考える ・高齢者を取り巻く家族についての考えを深める ・環境が与える影響を医療安全と関連付け、看護を捉える 						

授業科目	老年看護学方法論Ⅰ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	学内教員
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	高齢者の健康を支える看護の方法について理解する						
学習目標	1. 高齢者のQOLを配慮した看護の援助方法について理解できる 2. 加齢に伴う高齢者の日常生活に及ぼす影響を知り、看護について理解できる 3. 高齢者のリスクマネジメントと災害看護が分かる						
回数	内容						授業形態
1	身体変化・生活リズム回復のための援助方法① 「食生活への援助」 1) 高齢者のに特徴的な変調 2) 摂食嚥下機能のアセスメント 3) 食事に対する看護ケア						講義
2・3	身体変化・生活リズム回復のための援助方法② 「清潔への援助」 1) 高齢者のに特徴的な変調 2) 清潔のアセスメントと看護 3) 口腔内変調のアセスメントとケア						講義
4・5	演習①：寝たきり高齢者の看護 「口腔ケアと義歯洗浄」						演習
6・7	日常生活拡大への援助① 「日常生活を支える基本的活動」 1) 生活の基本となる日常生活動作 2) 日常生活動作(ADL)の能力のアセスメントと援助						講義
8	日常生活拡大への援助② 「日常生活を支える基本的活動」 3) 転倒転落予防のアセスメントと看護ケア 4) 廃用症候群のアセスメントと援助、身体変化と拘縮予防						講義
9・10	身体変化・生活リズム回復のための援助方法③ 「排泄への援助」 1) 排泄ケアの基本姿勢 2) 排泄障害とその特徴 3) 排泄のアセスメントと看護ケア						講義
11・12	演習②：寝たきり高齢者の看護 「おむつ交換と陰部洗浄」						演習
13	高齢者と医療安全 1) 高齢者のリスク要因 2) 病院・施設におけるリスクマネジメント						講義
14	高齢者と災害 1) 催咳に対する高齢者のリスク 2) 災害時の看護活動						講義
15	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 医学書院 老年看護技術 アセスメントのポイントとその根拠 ニューヴェルヒロカワ						
評価	筆記試験、レポート(記録類)、グループワークへの参加度を総合的に評価する						
学習上の留意点	高齢者の健康レベルは様々な状況にある。様々な健康レベルにある高齢者に対してアセスメントの方法と看護ケアについて学習し、健康状態に合わせた看護を理解する						

授業科目	老年看護学方法論Ⅱ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	学内教員
		開講時期	後期	時間数	30時間		
科目目標	老年期に起きやすい疾患の特徴を知り、対象に合った看護方法を理解する						
学習目標	1. 治療を受ける高齢者の看護について理解する 2. 老年期に起きやすい疾患の特徴と看護について理解する 3. 認知機能の障害と看護について理解する 4. 保健医療福祉施設の特徴と看護について理解する 5. 人生の終焉を迎える高齢者の終末期看護について理解する						
回数	内容						授業形態
1	検査を受ける高齢者の看護①						講義
2	治療を受ける高齢者の看護① 薬物治療時の高齢者の看護						講義
3	治療を受ける高齢者の看護② 外科的治療を受ける高齢者の看護						講義
4	高齢者が罹患しやすい疾患に対する看護① パーキンソン症候群、骨粗鬆症、骨折、前立腺肥大症						講義・GW
5	高齢者が罹患しやすい疾患に対する看護② 高齢者肺炎、インフルエンザ、感染性胃腸炎、疥癬						講義・GW
6	高齢者の看護目標と指導方法 疾患を持つ高齢者の特徴と看護						講義・GW
7	認知機能の障害を持つ高齢者の看護① 高齢者のうつとせん妄に対する看護						講義
8	認知機能の障害を持つ高齢者の看護① 認知症高齢者の看護						講義
9	認知機能の障害を持つ高齢者の看護③ 高齢者を介護する家族への支援						講義
10	保健医療福祉施設における看護① 保健医療福祉施設の種類と特徴と看護の役割						講義
11	保健医療福祉施設における看護② 保健医療福祉施設に求められる家族への看護						講義・GW
12	保健医療福祉施設における看護③ ライフヒストリーと自立支援への看護						講義・GW
13	保健医療福祉施設における看護④ 高齢者のQOLを高める援助						講義・GW
14	終末期にある高齢者の看護						講義
15	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 医学書院 老年看護技術 アセスメントのポイントとその根拠 ヌーヴェルヒロカワ						
評価	筆記試験、レポート(記録類)、グループワークへの参加度を総合的に評価する						
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・疾患を持ちながら生活する高齢者への関わりを学び、腎性の終末を病気の延長線だけではなく、けではなく、生活の延長線にあることを捉える ・老年看護学実習に必要な知識と技術の習得を図る ・高齢者の安全や安楽とは何か、自立した生活を送るために必要な看護を学ぶ 						

専門分野Ⅱ
小児看護学 科目構造



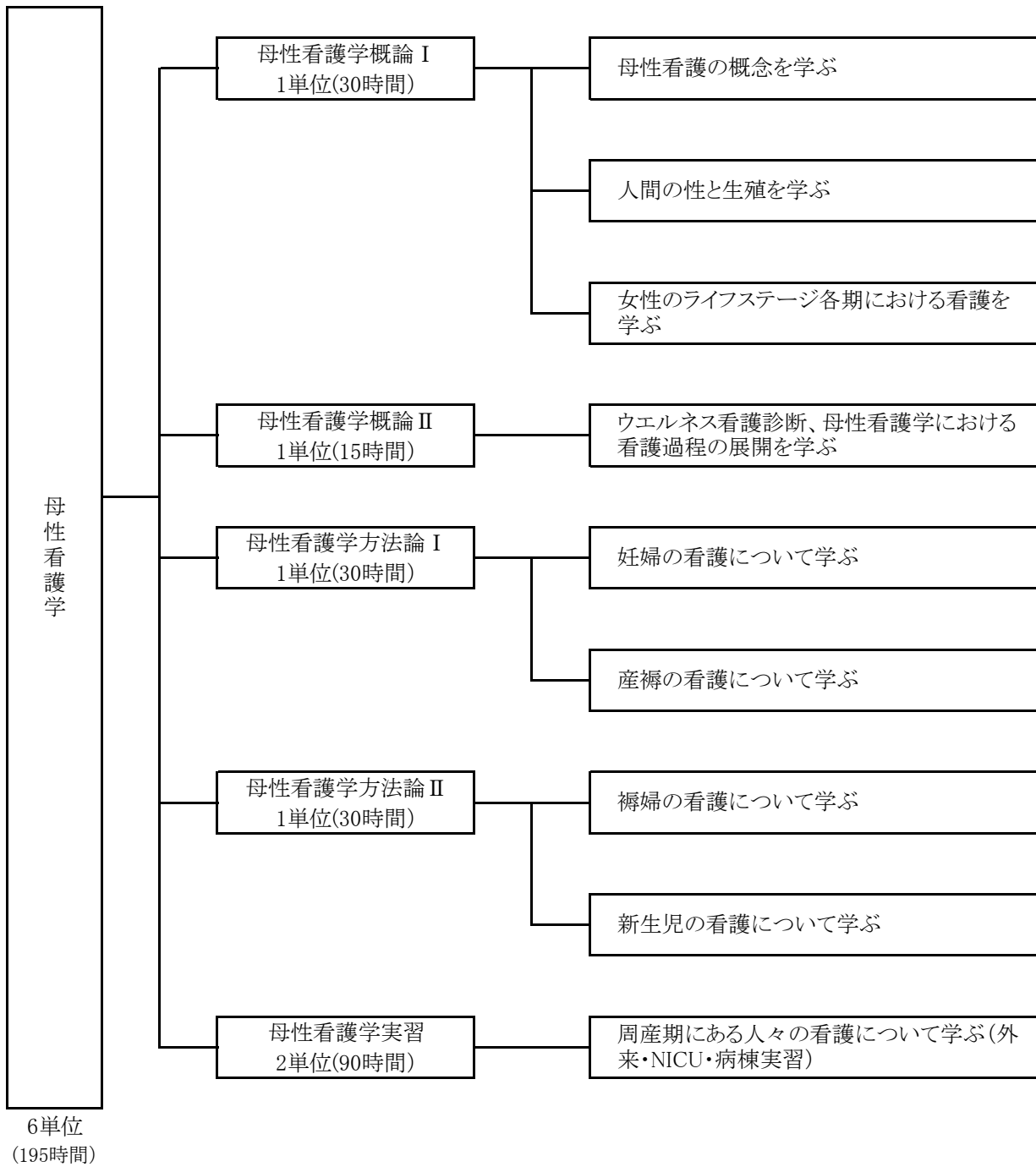
授業科目	小児看護学概論Ⅰ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	学内教員 高木 志帆
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	子どもの各成長・発達段階の特徴や取り巻く環境の意義をふまえ、小児看護の理念・目的が理解できる						
学習目標	1. 小児看護の対象の特性を学び、子ども観・家族観を深める 2. 小児各期の特徴と成長・発達が理解できる 3. 小児看護の目標と課題を理解し、小児看護観を育む						
回数	内容						授業形態
1	小児とは						講義
2	小児看護の特質						講義
3	小児看護における倫理						講義
4～8	小児の特徴と成長・発達						講義 GW
9	成長・発達の評価						講義
10～12	小児を取り巻く環境（4時間 担当：高木）						講義
13・14	小児保健対策						講義
15	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論/小児臨床看護総論 医学書院、国民衛生の動向 厚生動向協会						
評価	終講時筆記試験100点で評価する						
学習上の留意点	小児医療や看護に関するニュースに関心を持ち、社会の一員としての行動を考えてみましょう						

授業科目	小児看護学概論Ⅱ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	学内教員
		開講時期	後期	時間数	15時間		
科目目標	既習学習内容を統合し、小児看護学過程の要点を踏まえ、健康障害を持つ子どもと家族に必要な看護展開が理解できる						
学習目標	1. 小児に特徴的な看護過程について理解できる 2. 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力のために必要な思考過程がわかる 3. 小児に必要な看護援助の実際について理解できる						
回数	内容						授業形態
1	開講ガイダンス 小児の看護過程の特徴 看護展開をする上での疾患・成長発達の振り返る 事例内容の提示、情報の生理						講義 GW
2	情報の整理とアセスメント						GW
3	関連図を描いてみよう						GW
4	看護計画の立案・演習準備						GW
5・6	演習：看護計画の実践 グループで考えた計画の実施						演習
7	演習の評価、まとめ						GW
8	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論/小児臨床看護総論 医学書院、 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児看護学各論 医学書院						
評価	出席状況、グループワークの参加度及び記録物、終講時筆記試験を総合的に評価する						
学習上の留意点	本科目は小児看護学の科目の集大成となるため、既習学習を復習し、必要な資料を準備して臨みましょう これまでの看護過程や小児看護の講義のもとに、小児に特徴的な看護援助に結び付き、実践の能力が向上できることを期待したい						

授業科目	小児看護学方法論Ⅰ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	学内教員
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	各成長発達段階に応じた健康増進のための看護を理解し、基本的な小児看護技術を習得する						
学習目標	1. 発達段階に応じた健康な日常生活のために必要な基礎的援助方法が理解できる 2. 子どもの発達段階を踏まえて健康状態を把握するために必要な看護技術が理解できる 3. 検査・処置・治療が子どもに与える影響を踏まえ、発達段階別に必要な看護技術が理解できる						
回数	内容						授業形態
1・2	乳児期の成長・発達に応じた生活への支援						講義
3・4	幼児期の成長・発達に応じた生活への支援						講義
5	学童期の成長・発達に応じた生活への支援						講義
6	思春期の成長・発達に応じた生活への支援						講義
7	小児看護に必要な看護技術						講義
8・9	治療に伴う小児看護技術						講義
10・11	発達段階別に必要な看護技術 1) プレパレーションの意義と方法 2) 事例を用いた計画の立案						講義 GW
12・13	演習：計画に基づいたプレパレーションの実践						演習
14	検査、処置、治療が子どもに与える影響 演習の振り返り						講義
15	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論/小児臨床看護総論 医学書院						
評価	終講時筆記試験100点で評価する						
学習上の留意点	健康な小児を理解することがのちの健康障害時の看護に繋がるため、イメージしながら 臨みましょう						

授業科目	小児看護学方法論Ⅱ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	学内教員 竹添 麻貴
		開講時期	後期	時間数	30時間		
科目目標	健康障害を持つ子どもと家族を理解し、さまざまな状況に合わせた基礎的看護実践について理解できる						
学習目標	1. 健康障害や入院が子どもと家族に与える影響と必要な看護が理解できる 2. 小児における疾病の経過と看護が理解できる 3. 小児特有の疾患が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、健康障害を持つ子どもとその家族の援助方法が理解できる						
回数	内容						授業形態
1	病気や入院が子どもと家族に与える影響と看護						講義
2	外来における子どもと家族の看護						講義
3	急性期にある子どもと家族への看護（担当：竹添）						講義
4	周手術期における子どもと家族への看護（担当：竹添）						講義
5	救命救急処置を要する子どもと家族（担当：竹添）						講義
6	慢性期にある子どもと家族への看護						講義
7	終末期にある子どもと家族への看護						講義
8	循環機能障害のある子どもと家族への看護						講義
9	腎機能障害のある子どもと家族への看護						講義
10	感染予防の必要がある子どもと家族への看護						講義
11	神経・筋疾患のある子どもと家族への看護						講義
12	先天性疾患のある小児と家族への看護						講義
	心身障害のある子どもと家族への看護						
13	虐待を受けている子どもと家族への看護						講義
14	災害を受けている子どもと家族への看護						講義
15	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論/小児臨床看護総論 医学書院、						
評価	終講時筆記試験100点で評価する						
学習上の留意点	疾患の看護は、病態治療論Ⅵ(小児)と連動しているため、復習して臨みましょう						

専門分野Ⅱ
母性看護学 科目構造



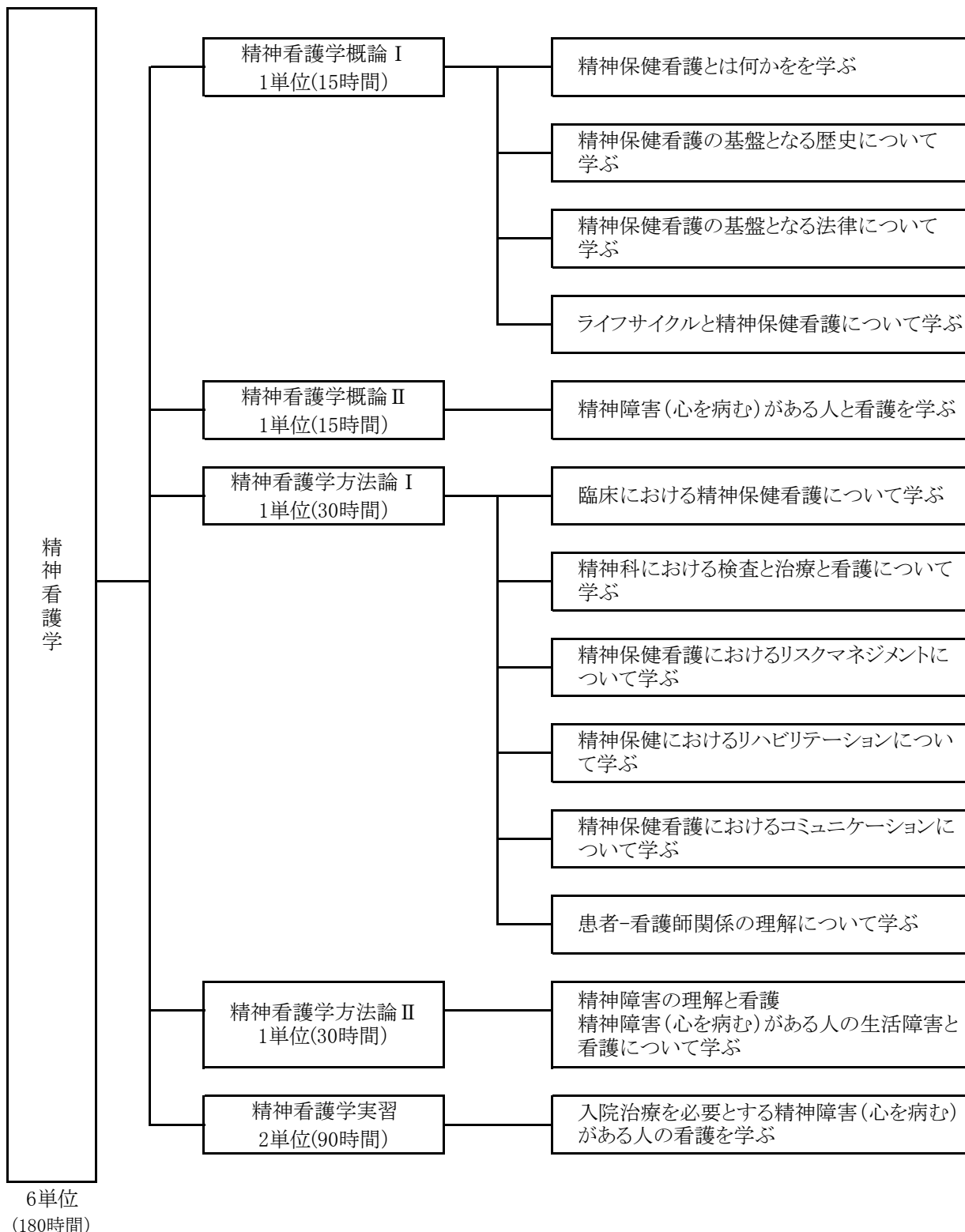
授業科目	母性看護学概論 I	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	学内教員
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	母性看護の概念を学び、女性に寄り添う看護のあり方を理解する						
学習目標	1. 母性看護の概念を学ぶ 2. 人間の性と生殖に関する健康(リプロダクティブヘルスライツ)、健全な母性の育成を学ぶ 3. 生涯を通じた女性の健康支援を学ぶ 4. 母性看護の対象を取り巻く社会変遷、現状、課題を考える						
回数	内容						授業形態
1	母性看護の基盤になる概念 母性、母子関係と家族発達、セクシュアリティ(人間の性)、人間の性と生殖に関する健康(リプロダクティブヘルスライツ)、ヘルスプロモーション、ウイメンズヘルス						講義
2	母性看護のあり方 母性看護における倫理、母性看護における安全・事故予防						講義
3	母性看護の対象理解① 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化、女性のライフサイクルと家族						講義
4	母性看護の対象理解② 母性の発達・成熟・継承、親性・父性						講義
5	生涯を通じた女性の健康支援① ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性、思春期の健康と看護						講義
6	生涯を通じた女性の健康支援② 成熟期の健康と看護						講義
7	生涯を通じた女性の健康支援③ 更年期・老年期の健康と看護						講義
8	母性看護に必要な看護技術 NPO団体講義・・・看護支援の実際						講義
9	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状						講義
10	母性看護の歴史的変遷と現状、母性看護の対象を取り巻く環境						講義
11	リプロダクティブヘルスケア 家族計画、性感染症、HIV、人工妊娠中絶						講義
12	リプロダクティブヘルスケア 喫煙、DV、児童虐待、国際化社会						講義
13	母性看護の対象を取り巻く現状・課題を考える①						GW
14	母性看護の対象を取り巻く現状・課題を考える② GW発表						GW発表
15	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院						
評価	出席状況、授業・GWの参加状況、提出物、終講時試験を総合的に評価する						
学習上の留意点	自分自身も母性、女性であることを認識し、社会の現状・課題を意識し、女性に寄り添う看護の在り方を考えて欲しい						

授業科目	母性看護学概論Ⅱ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	学内教員
		開講時期	後期	時間数	15時間		
科目目標	母性看護における看護過程を理解する						
学習目標	1. ウェルネス看護診断を学ぶ 2. 母性看護学における看護過程を学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	ウェルネス看護診断 対象のセルフケア向上ができるように対象の特徴を全体像として描いた看護支援を考える						講義
2	アセスメントガイドの活用法 アセスメントガイドを用いて、指定の用紙を用いて看護過程を展開する						講義
3	看護過程の展開 妊娠期の看護過程、分娩期の看護過程を考える						講義 GW
4	看護過程の展開 産褥期の看護過程、新生児の看護過程を考える						講義 GW
5	看護過程の展開 産褥期の看護過程、新生児の看護過程を考える						講義 GW
6・7	看護過程の展開(シミュレーション学習) 産褥期の看護の実施、評価、学びを発表、共有する						GW・演習 GW・発表
8	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 写真で分かる母性看護技術 インターメディアカ						
評価	出席状況、授業・GWの参加状況、提出物、終講時試験を総合的に評価する						
学習上の留意点	臨地実習に繋がる看護過程の展開である。概論Ⅰ、方法論ⅠⅡをもとに、各自が主体的に、実践能力向上に向けて学習してもらいたい。						

授業科目	母性看護学方法論 I	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	学内教員
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	妊婦・産婦の看護に必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶ						
学習目標	1. 妊娠経過が分かる 2. 妊婦の看護が分かる 3. 分娩の経過が分かる 4. 産婦の看護が分かる 5. 妊婦・産婦に必要な看護技術を習得する						
回数	内容						授業形態
1	妊娠とは 妊娠の生理・妊娠の成立						講義
2	胎児の発育とその生理						講義
3	母体の生理的变化						講義
4	妊婦と胎児のアセスメント 1)レオポルド触診法 2)子宮底長 3)胎児心拍聴取 4)NST判読 5)羊水検査						講義
5	妊婦と家族の看護 1)妊婦健康診査について 2)保健指導(集団指導、個別指導) 3)母親学級						講義
6	ハイリスク妊婦の看護① 1)妊娠持続期間の異常 2)異所性妊娠 3)母子感染症 4)合併症妊娠						講義
8	ハイリスク妊婦の看護② 1)妊娠高血圧症候群 2)妊娠糖尿病 3)多胎妊娠						講義
9	妊婦に必要な看護技術 1)子宮底長の計測 2)腹囲計測 3)レオポルド触診法 4)胎児心拍の聴取						演習
10	分娩とは 分娩3要素						講義
11	分娩経過と看護① 1)産婦、胎児、家族のアセスメント 2)分娩時の援助 3)産婦と家族の看護						講義
12	分娩経過と看護② 1)胎児とその付属物 2)分娩時の異常						講義
13	分娩時の損傷・出血・産科処置・手術 1)前置胎盤 2)常位胎盤早期剥離						講義
14	急速分娩、異常経過時の看護 帝王切開分娩の看護						講義
15	終講時試験・まとめ						試験
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院 写真で分かる母性看護技術 インターメディカ						
評価	筆記試験						
学習上の留意点	妊娠経過・分娩経過とその看護を学び、実習に繋げる						

授業科目	母性看護学方法論Ⅱ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	学内教員
		開講時期	後期	時間数	30時間		
科目目標	褥婦・新生児の看護に必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶ						
学習目標	1. 産褥経過が分かる 2. 褥婦の看護が分かる 3. 新生児の特徴が分かる 4. 新生児の看護が分かる 5. 褥婦・新生児に必要な看護技術を習得する						
回数	内容						授業形態
1	産褥の定義						講義
2	産褥期の経過とアセスメント 1)産褥経過の診断 2)褥婦の健康状態のアセスメント						講義
3	褥婦と家族への看護 1)身体機能の回復及び進行性変化への看護 2)育児にかかわる看護						講義
4	褥婦の看護						講義
5	産褥の異常と看護 1)子宮復古不全 2)産褥期の発熱 3)精神障害 4)乳房トラブル						講義
6	褥婦に必要な看護技術 子宮底長測定、子宮底輪状マッサージ、産褥体操・乳房ケア・授乳						講義
7	新生児の定義 新生児の生理						講義
8	新生児の看護						講義
9	新生児の異常と看護①						講義
10	新生児の異常と看護②						講義
11	新生児に必要な看護技術 抱き方、寝かせ方、おむつ交換、身体計測、全身観察、沐浴						講義
12	新生児の看護技術と観察法						演習
13	産婦・褥婦の看護技術と観察法						演習
14	演習まとめ						講義
15	終講時試験						試験
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院 写真で分かる母性看護技術 インターメディア						
評価	筆記試験						
学習上の留意点	産褥期の看護、新生児の看護を学び、実習に繋げる						

専門分野Ⅱ
精神看護学 科目構造



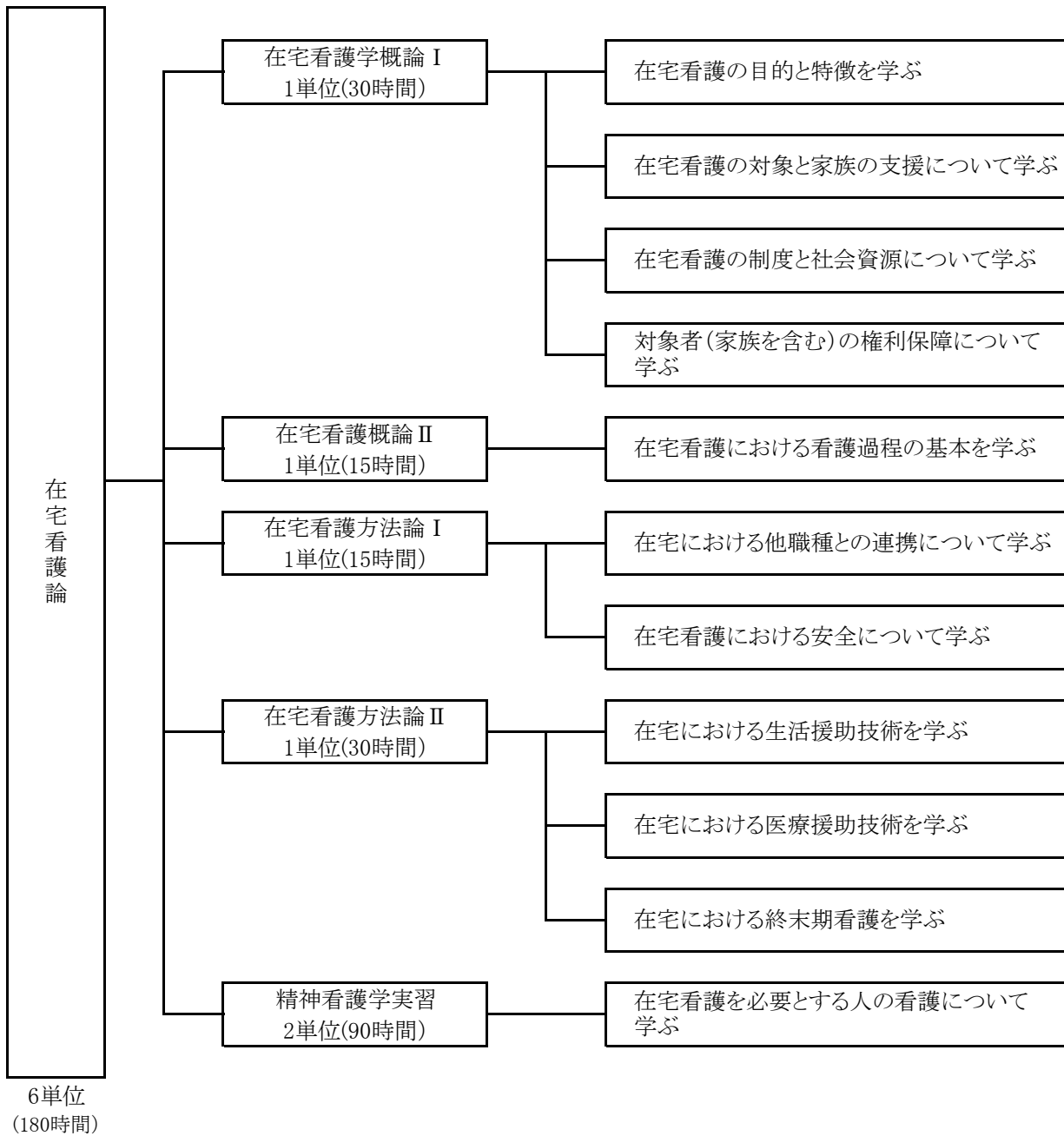
授業科目	精神看護学概論 I	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	学内教員
		開講時期	後期	時間数	15時間		
科目目標	1. 社会情勢を踏まえ、精神の健康問題における精神保健看護の理念、歴史、法律、機能と役割を理解する 2. 精神障害を持つ人が、その人らしく生活するための支援に必要な基礎的知識を知る						
学習目標	1. 精神看護の基本概念を学ぶ 2. ライフサイクルから把握される健康問題を学び、看護師の役割を学ぶ 3. 人間の成長発達段階に伴うメンタルヘルスケアの特徴を学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	心の発達と健康 1) 精神の構造と機能、成長発達モデル 2) 心の働きとパーソナリティ						講義
2	クライシス 1) 危機の概念 2) ライフサイクルにおける危機的状況に焦点を当てた健康問題 3) ストレスとメンタルヘルスケア						講義
3・4	環境と心の働き 1) 家庭、学校、職場における精神保健の問題 2) 関係のなかの人間 3) メンタルヘルスケアにおける看護師の役割						講義
5・6	精神看護の基本概念 1) 精神障害をもつ人の生活 2) 回復を支える力 3) 社会のなかの精神障害						講義
7	精神保健看護の歴史的変遷 1) 今日の社会的動向と精神保健看護 2) 精神保健看護の目指すもの						講義
8	終講時試験						試験・解説
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院						
評価	講義・演習への参加状況、終講時試験等を総合的に評価する						
学習上の留意点	テキスト及び、資料を持参する 予習・復習をして講義に臨む						

授業科目	精神看護学概論Ⅱ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	学内教員
		開講時期	後期	時間数	15時間		
科目目標	統合失調症患者の看護を展開する						
学習目標	1. 一連の看護過程を展開し、患者の全体像を把握する 2. プロセスレコードの書き方とその意義を理解する						
回数	内容						授業形態
1・2	患者－看護者関係 1) 関係をアセスメントする 2) プロセスレコード						講義・演習
3～6	精神障害をもつ人の看護 1) 患者の観察と情報の意味 2) オレム-アンダーウッドモデル 3) ストレンクスモデル 4) 看護上の問題点と看護診断						講義・演習
7	成果発表・まとめ						講義・演習
8	終講時試験						試験・解説
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院						
評価	講義・演習への参加状況、終講時試験等を総合的に評価する						
学習上の留意点	テキスト及び、資料を持参する 予習・復習をして講義に臨む						

授業科目	精神看護学方法論Ⅰ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	秋山 千里 岩下 昌生
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	1. 治療回復過程における精神保健看護の機能と役割を学ぶ 2. 人間関係論に基づく患者-看護師関係の発展から、コミュニケーションとは何かを学ぶ						
学習目標	1. 入院・外来施設・リハビリテーション施設における精神保健看護の機能と役割を学ぶ 2. 精神科領域における検査と治療の必要性を知り、看護を考える 3. 患者-看護師関係の発展段階を関連理論から学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	開講ガイダンス						講義
2	精神科入院・外来施設にける精神看護師の機能と役割						講義
3	精神科における精神看護師の機能と役割（担当：岩下）						講義
4	看護師の精神的な健康						講義
5	検査と看護（臨床検査、心理検査 等）						講義
6	治療と看護（身体療法、精神療法、行動療法、社会療法 等）						講義
7	地域生活支援						講義
8	精神障害（心を病む）のある人にとってのリハビリテーション						講義
9	精神看護の臨床場面で活用するカウンセリング技法						講義
10	精神科入院・外来施設にける精神看護師の機能と役割						講義
11	精神保健看護における対人関係 （ペプロウ、トラベルビー、外口玉子らの看護理論）						講義
12	精神保健看護における患者-看護師関係						講義
13・14	演習： ロールプレイ						演習
15	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院						
評価	講義・演習への参加状況、終講時試験等を総合的に評価する						
学習上の留意点	テキスト及び、資料を持参する 予習・復習をして講義に臨む						

授業科目	精神看護学方法論Ⅱ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	金内 和明 栗田真由美 小澤 裕史
		開講時期	後期	時間数	30時間		
科目目標	精神障害を持つ(心を病む)人々を、精神看護概論Ⅰ、精神看護方法論Ⅰで学んだ知識及び考え方にに基づき実践的に理解する。また、これらの人々が自立に向けて、その人らしく生活することを支える援助の在り方を論理的に考えることができる						
学習目標	1. 精神看護学方法論Ⅱの位置づけを学ぶ意味について理解することができる 2. 疾患や状態にもたらされる生活の変化の把握と看護について理解することができる						
回数	内容						授業形態
1	精神看護を学ぶ意味						講義
2	統合失調症のある人の看護①(幻覚、妄想、無為、自閉 等)						講義
3	統合失調症のある人の看護②(中毒)						講義
4	行動制限(隔離・拘束 等)のある人の看護						講義
5	気分(感情)のある人の看護①(うつ状態)						講義
6	気分(感情)のある人の看護②(そう状態、希死念慮)						講義
7	パーソナリティ障害のある人の看護						講義
8	精神作用物質による異常のある人の看護①(アルコール依存症)(担当:栗田)						講義
9	精神作用物質による異常のある人の看護②(薬物中毒 等)						講義
10	神経症・特殊な心因反応のある人の看護 (不安神経症、PTSD、摂食障害、睡眠障害 等)						講義
11	器質性精神障害のある人の看護						講義
12	精神発達障害のある人の看護						講義
13・14	急性期の看護 (担当:小澤)						講義
15	終講時試験						
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院						
評価	講義・演習への参加状況、終講時試験等を総合的に評価する						
学習上の留意点	テキスト及び、資料を持参する 予習・復習をして講義に臨む						

統合分野
在宅看護論 科目構造



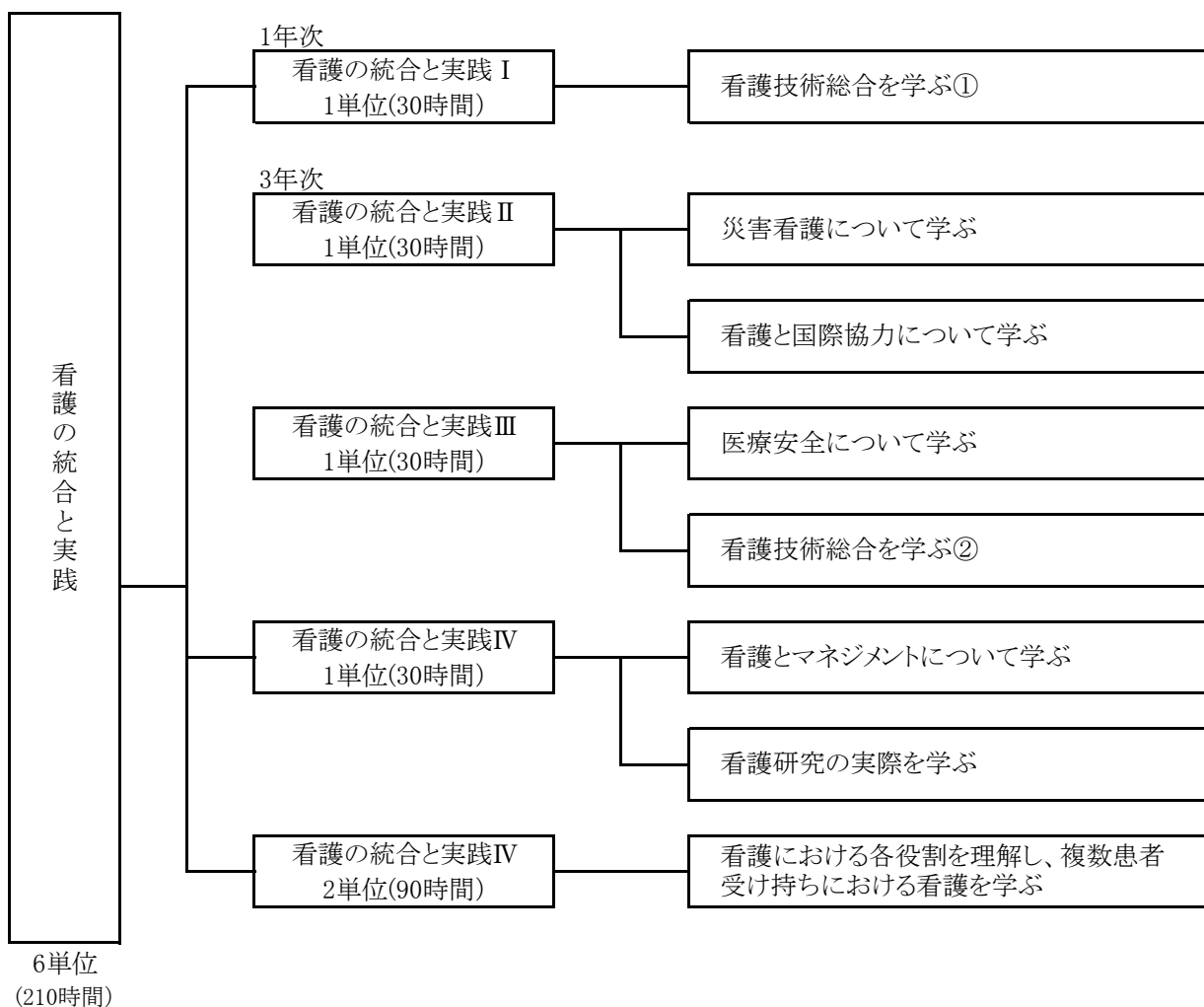
授業科目	在宅看護概論 I	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	石坂 香
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	1. 在宅ケアシステムにおける在宅看護の目的・機能・役割について学ぶ						
学習目標	1. 在宅看護が発展した経緯、背景について理解し、在宅看護の目的と特徴について理解できる 2. 在宅看護における看護師に役割について理解できる 3. 在宅看護の対象者の特徴、在宅療養を支える家族を理解し、支援の在り方を理解できる 4. 在宅看護を支える制度と社会資源について理解できる 5. 在宅看護の対象(家族含む)の権利保障と考え方、仕組みを法的な視点を踏まえて理解できる						
回数	内容						授業形態
1	在宅看護の概念 在宅看護の背景・基盤						講義
2	地域を支える在宅看護における看護師の役割						講義
3	在宅療養者と家族の支援 対象者の特徴						講義
4・5	家族の理解と支援						講義・GW
6	地域包括システム						講義
7・8	地域療養を支える制度						講義
9	在宅療養を支える訪問看護						講義
10・11	地域における多職種連携						講義・GW
12・13	多職種連携(福祉機器)						演習
14	在宅看護における倫理						講義・GW
15	終講時試験						
使用テキスト	ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版						
評価	終講時試験						
学習上の留意点	グループワークを取り入れ学習を行う 12・13回目は福祉機器展に見学演習予定						

授業科目	在宅看護概論Ⅱ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	小暮和歌子
		開講時期	後期	時間数	15時間		
科目目標	1. 在宅看護の展開方法を学ぶ 2. 事例(難病)を通して在宅看護の果たす役割、機能について理解する						
学習目標	1. 在宅看護を展開していく際のポイントを理解する 2. 在宅看護過程の特徴を理解し、そのプロセスについて理解する 3. 事例を通して在宅看護の果たす役割、機能について考える						
回数	内容						授業形態
1	利用者の生活と価値観の多様性の尊重 環境や家族への視点 時間的な広がりへの着目 生活を支える制度、支援体制の理解						講義
2	看護過程の特徴①						講義
3	看護過程の特徴②						講義
4	看護過程の展開① 情報収集とアセスメント 目標、計画 実施と評価						講義 GW
5	看護過程の展開② 在宅看護標準化への取り組み クリティカルパス 看護プロトコール 多職種との連携						講義 GW
6・7	グループ毎に展開した看護過程の発表						グループ発表
8	事例を通して在宅看護の果たす役割、機能について考える①②						演習
使用テキスト	ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版						
評価	レポート、GWでの看護過程提出を総合的に評価する 「在宅看護の果たす役割、機能について」を、講義と演習で学んだことを踏まえ記載する。教科書そのままの文章は減点対象とする。レポートは、演習1週間以内の提出する						
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅での看護の広がりを学ぶため、多角的視点を養う ・GWで他者の視点を取り入れる ・病院・地域との連携を理解した上で看護計画を立てる ・在宅看護のイメージ化を図る 						

授業科目	在宅看護方法論 I	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	菅谷 真理
		開講時期	後期	時間数	15時間		
科目目標	1. 地域包括ケアシステムにおける在宅看護を理解する 2. 在宅を支える訪問看護を理解する 3. 在宅看護における安全性の確保(感染防止・医療事故防止・災害看護)について学ぶ						
学習目標	1. 地域包括ケアシステムの概要を理解し、在宅看護における連携の特徴と多職種、他機関との連携の基本について理解する 2. 在宅を支える訪問看護の目的、役割を理解する 3. 在宅看護における感染予防策、医療事故防止と、在宅ケアでの諸問題への対応の基本について学ぶ 4. 在宅における災害時の看護、訪問看護の役割について学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	地域包括ケアシステムにおける在宅看護 地域包括ケアシステムの背景・機能						講義
2	療養の場の移行に伴う看護						講義
3	演習：退院支援の看護：状況設定						演習
4	地域包括ケアシステムにおける多職種連携 在宅看護におけるケースマネジメント						講義
5	在宅療養を支える訪問看護						講義
6	在宅看護における安全と健康危機管理						講義
7	演習：薬物による事故防止(服薬管理) 状況設定						演習
8	終講時試験						
使用テキスト	ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版						
評価	筆記試験、レポート、授業への参加度を総合的に評価する						
学習上の留意点	この科目では2つの演習を行う。演習はクラスを2つに分け、少人数制で行う演習では、疾患の知識が求められる。在宅療養者が罹患する特徴的な疾患について予め学習することが望ましい。テキスト第7章「在宅看護の実際」に記載されている疾患を各自で学習しておくこと						

授業科目	在宅看護方法論Ⅱ	対象学年	2年	単位数	1単位	担当講師	松延美由紀
		開講時期	後期	時間数	30時間		
科目目標	1. 在宅において展開される日常生活援助技術、医療援助技術について学ぶ 2. 在宅における終末期看護について学ぶ						
学習目標	1. 在宅における生活を支える在宅看護技術を学ぶ 2. 在宅における医療管理を必要とする人の看護技術を学ぶ 3. 在宅における終末期看護の特徴を理解し、看護の役割について学ぶ						
回数	内容						授業形態
1	在宅療養生活を支える基本的な技術						講義
2	日常生活を支える看護技術						講義
3	呼吸管理に関する援助技術						演習
4	演習：移動・移乗に関する援助技術						演習
5	清潔援助技術						講義
6	演習：清潔援助技術						演習
7	排泄に関する援助技術						講義
8	在宅褥瘡管理						講義
9	食生活・嚥下に関する援助技術						講義
10	療養を支える看護技術(医療ケア)						講義
11	薬物療法						講義
12	疼痛管理						講義
13	尿道留置カテーテル						講義
14	経管栄養法(胃瘻を含む)						講義
15	在宅中心静脈栄養法(HPN)						講義
	在宅人工呼吸療法(HMV)と気道管理						講義
	在宅酸素療法(HOT)						講義
	在宅終末期看護の展開						講義
	在宅における終末期看護の特徴						講義
	緩和ケア						講義
	終講時試験						
使用テキスト	ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版						
評価	筆記試験、レポート、授業への参加度を総合的に評価する						
学習上の留意点	3回目と4回目は、クラスを2つ(A・B)を分けて、演習を行う						

統合分野
看護の統合と実践 科目構造



授業科目	看護の統合と実践 I	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	学内教員
		開講時期	前半	時間数	30時間		
科目目標	対象の状況を理解し、状況に合わせた看護技術を実践するための基礎的な能力を養う						
学習目標	1. 看護の対象に関心を持つことが出来る 2. シュミレーション演習を通じて対象の状況を客観的に捉えることが出来る 3. 対象の状況に応じた看護を考える事が出来る。 4. 考えた看護を実践し振り返る事が出来る						
回数	内容						授業形態
1	【第1回～第5回】 基礎看護実習 I 前 対象理解のためのコミュニケーション 場の状況に応じた言葉かけや配慮						講義 演習
2	演習、ロールプレー						
3	コミュニケーション評価視点からの振り返り						
4	コミュニケーションを取る際のSTEP						
5	コミュニケーションをとる際のSKILL						中間試験
6～14	【第6回～第14回】 基礎看護実習 I 後 対象に応じた看護、対象にとってよりよい生活援助を考える シュミレーション演習を通じて、対象に対する生活援助を考え、 既習の看護技術を統合させて看護を実践する 実践した看護を振り返り、対象にとって良い生活援助とは何かを考える 既習の看護技術を対象へのより良い生活援助に繋げるため向上に努める						講義 演習
15	終講時試験						試験
		新体系 看護学全書 基礎看護学②		基礎看護学技術 I		メジカルフレンド社	
		新体系 看護学全書 基礎看護学③		基礎看護学技術 II		メジカルフレンド社	
評価	前半講義演習終了後、一度中間試験を実施する。 演習、まとめ(レポート、筆記試験)で総合的に評価する						
学習上の留意点	シュミレーション演習を通じて、イメージ化を図る。 看護学生として基本となるコミュニケーション能力、対象に関心を持つ事の意味を考え、既習の看護技術を用いて、対象の状況に対してより良い生活援助を考えていく。						

授業科目	看護の統合と実践Ⅱ	対象学年	1年	単位数	1単位	担当講師	赤池麻奈美 黒岩 美幸
		開講時期	前期	時間数	30時間		
科目目標	1. 災害看護に関する基礎的な知識・技術を習得する 2. 国際看護における国際交流と協力の現状の仕組みを学び、必要性や意義を理解する						
学習目標	1. 災害医療・看護の概念を理解する 2. 災害看護の実際を理解する 3. 災害各期の看護活動を理解する 4. 災害看護における今後の課題について理解する 5. 異文化について知り、対象に合った看護が必要であることを理解することができる 6. 国際保健における主となる問題点について知ることができる 7. 国際協力の仕組みを知り、国際的問題に対する援助について知ることができる 8. 国際保健における主な問題解決の開発目標について知ることができる 9. 国内における国際看護について知ることができる						
回数	内容						授業形態
	(災害看護)						
1	災害医療、看護概念①	災害の定義、災害看護の概要 等					講義
2	災害医療、看護概念②	関係法規 等					講義
3	災害医療、看護概念③	災害サイクル 等					講義
4	トリアージ						講義
5	演習：トリアージ						演習
6	東日本大震災、常総市水災害について						講義
7	心のケア						講義
8・9	防災館見学						現地
	(国際看護)						
10①	看護と異文化理解 1) 看護における異文化理解とは(民族・文化・宗教 等) 2) プライマリヘルスケア						講義
11②	国際保健の現状 1) 母子保健 2) 人口問題 3) 栄養問題 4) 感染症問題						講義
12③	国際協力のしくみ 1) 国際連合 2) NGO/NPO 3) 国際緊急援助 4) 海外看護活動(JAICA/MSF 等)						講義
13④	ミレニアム開発目標						講義
14⑤	国内における国際看護 1) 在日外国人 2) 外国人看護師						講義
15	終講時試験						
使用テキスト	新体系看護学全書 看護の統合と実践 災害看護 メヂカルフレンド社 新体系看護学全書 看護の統合と実践 国際看護 メヂカルフレンド社						
評価	筆記試験、授業の参加度、レポート 等にて総合的に評価をする						
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・講義、演習、防災館見学などを通して、災害医療・看護について理解を深める ・災害医療・看護の社会的な動向や活動にも目を向け、関心を持って学習する ・国内だけでなく、国際看護にも視野を広げ関連付けて学習する ・国際的な視点、関心を持って学習をする ・海外の情勢・動向にも関心を持って情報を得るようにする 						

授業科目	看護の統合と実践Ⅲ	対象学年	3年	単位数	1単位	担当講師	学内教員
		開講時期	後半	時間数	30時間		
科目目標	1. 医療安全の基礎的知識を理解し、安全管理の認識を高める。 2. 医療事故の発生しやすい環境下において、事故回避の方策を考えながら、看護を実践できる						
学習目標	1. 複数患者受け持ちのイメージ化を図るとともに、アセスメント能力を高める 2. 看護業務における医療事故の発生因子を知り、事故防止に向けた看護が実践できる 3. 看護師としての責務と安全な医療を提供するための倫理観を養う						
回数	内容						授業形態
1・2	【第1回～5回：統合実習前】 開講ガイダンス 複数事例紹介、アセスメント、看護問題・看護の方向性						講義
3・4	演習：複数事例に対する看護実践、振り返り						演習
5	まとめ（複数患者受け持ちの援助を構成する要素/多重課題で起こりやすい 医療事故の発生要因/統合実習での自己課題）						講義
6	【第6回以降 統合実習後】 看護における医療事故の考え方 1) 医療安全の概念と看護師の責務 2) 医療安全とヒューマンエラー						講義
7	保健医療福祉チームと安全 1) 保健・医療・福祉チームの中での役割と連携 2) 看護チームとしての役割と連携						講義
8	医療事故防止に向けた看護実践① 1) 事故の要因と事故の予防 2) 誤薬事故の予防						講義
9	事故分析の方法と実際						講義
10	1) 事故分析の方法 2) 事故分析の実際						演習
11	医療事故防止に向けた看護の実践②						講義
12	看護技術演習：						演習
13	医療事故防止に向けた看護の実践③						講義
14	予期せぬ事態への対応を考える 事故を未然に防ぐには 医療安全における看護師の責任と倫理 組織としての医療安全						講義
15	終講義時試験 まとめ						試験
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学1・6・8・10 医学書院						
評価	筆記試験、授業・演習の参加度、レポート等で総合的に評価する						
学習上の留意点	・前半では、統合実習前に、複数患者受け持ちへの援助を想起して課題に取り組む。 ・後半は、医療安全をこれまで以上に意識した看護の実践を目指す。既習の診療の補助技術をフル活用し、模擬患者に沿った方法で実施し、技術評価も受けていく。業務に潜む危険を予知するトレーニングとともに、看護師としての倫理観を養う。						

授業科目	看護の統合と実践Ⅳ	対象学年	3年	単位数	2単位	担当講師	木所 篤子 学内教員
		開講時期	後期	時間数	30時間		
科目目標	1. チーム医療、・看護ケアにおける看護師としての調整と、リーダーシップおよびマネジメントのための基礎的能力を養う 2. ケース・スタディを通して、看護を探究する姿勢を養う						
学習目標	1. 看護におけるマネジメントの変遷と、必要とされる場について理解できる 2. 看護職の提供する看護ケアのマネジメントについて理解する 3. チーム医療について理解し、他職種との連携について、その業務と合わせて理解する 4. 組織におけるリスクマネジメントについて理解する 5. 自己の看護実践体験をもとに、看護について振り返ることができる 6. 既習の知識を用いて学習を進めることができる						
回数	内容						授業形態
1	(看護とマネジメント) 看護とマネジメント 1)マネジメントとは 2)看護を取り巻く諸制度						講義
2	看護ケアのマネジメント 1)看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2)患者の権利の尊重 3)チーム医療 4)日常業務のマネジメント						講義
3	看護のマネジメント 1)医療事故対策について 2)院内感染対策について						講義
4	看護サービスのマネジメント 1)組織目的達成のマネジメント 2)看護サービス提供のしくみづくり 3)人材のマネジメント 4)情報のマネジメント 5)サービスの評価						講義
5	マネジメントに必要な知識と技術 終講時試験						講義 試験
6・7	(看護研究の実際) 開講ガイダンス						講義
①②	ケース・スタディの基本的知識 1)ケース・スタディとは 2)ケース・スタディのタイプと目的 3)看護とケース・スタディとは 4)看護学生のためのケース・スタディ 5)ケース・スタディにあたっての倫理的配慮						講義
8～10	学習進度計画書の作成						個人ワーク
③～⑤	ケース・スタディの進め方 1)テーマ設定 2)文献検索と活用 3)指示された構成に基づき論文作成 4)発表補助資料としての抄録作成						講義
11	発表の基本 1)テーマ設定 2)文献検索と活用 3)指示された構成に基づき論文作成 4)発表補助資料としての抄録作成						講義
⑥							
12～15	ケース・スタディの発表						演習
⑦～⑩							
使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 看護管理 医学書院 看護における研究 日本看護協会						
評価	試験、レポート作成、授業における参加度、原稿提出、発表など総合的に評価する						
学習上の留意点	統合実習の管理実習につながる 将来の看護研究につながる						